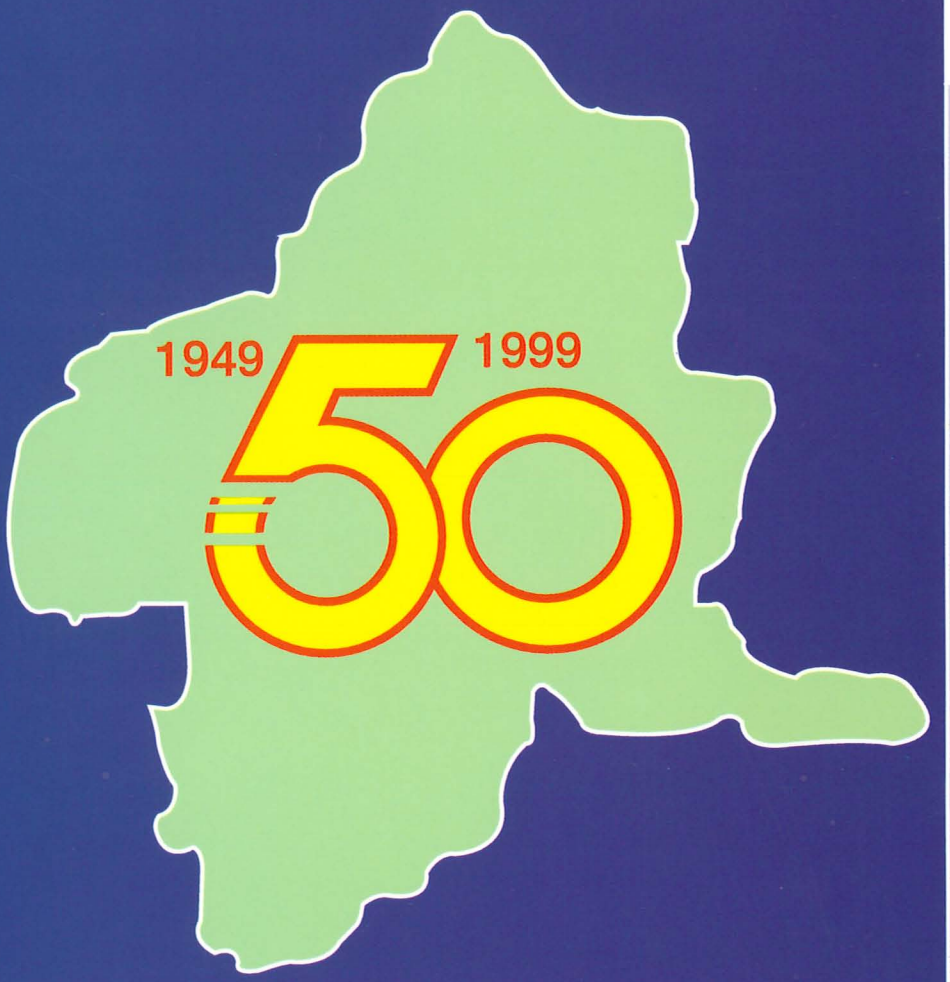
群馬県連盟
50年のあゆみ



創立50周年記念誌

日本ボーイスカウト群馬県連盟

50年のあゆみ

県連盟創立50周年記念

日本ボーイスカウト群馬県連盟

群馬県連盟創立50周年記念［スローガン］

“未来へはばたけ　群馬のスカウト”

1995年（平成7年）8月12日～15日　第6回 県シニアースカウト大会
三重県鳥羽市・伊勢市

1997年 日本連盟創立75周年記念・自転車 全国一周友情リレー
平成9年6月・青少年会館をスタート

群馬県連盟創立50周年記念［スローガン］

“未来へはばたけ　群馬のスカウト”

1991年（平成3年）5月16日　　第7回　群馬カブラリー
桐生市中央公園・水道山周辺

1997年（平成9年）5月25日　　第9回　群馬カブラリー
高崎市観音山周辺

ボーイスカウト日本連盟より贈られた
継続50年の記念旗を手に、発団50年を祝う
栄光の前橋第1団を支えた人達。

ボーイスカウト前橋第一団　発団50年記念　1998年10月25日　前橋カトリック教会

ち　か　い

私は、名誉にかけて、次の３条の実行をちかいます
1．神（仏）と国とに誠を尽くしおきてを守ります
1．いつも、他の人々をたすけます
1．からだを強くし、心をすこやかに、徳を養います

お　き　て

1．スカウトは誠実である
2．スカウトは友情にあつい
3．スカウトは礼儀正しい
4．スカウトは親切である
5．スカウトは快活である
6．スカウトは質素である
7．スカウトは勇敢である
8．スカウトは感謝の心をもつ

やくそく

ぼくは　まじめにしっかりやります
カブ隊のさだめを守ります

カブ隊のさだめ

1．カブスカウトは　すなおであります
2．カブスカウトは　自分のことは自分でします
3．カブスカウトは　たがいに助けあいます
4．カブスカウトは　おさないものをいたわります
5．カブスカウトは　すすんでよいことをします

ビーバースカウトのやくそく

ぼくは　みんなとなかよくします
ビーバー隊のきまりをまもります

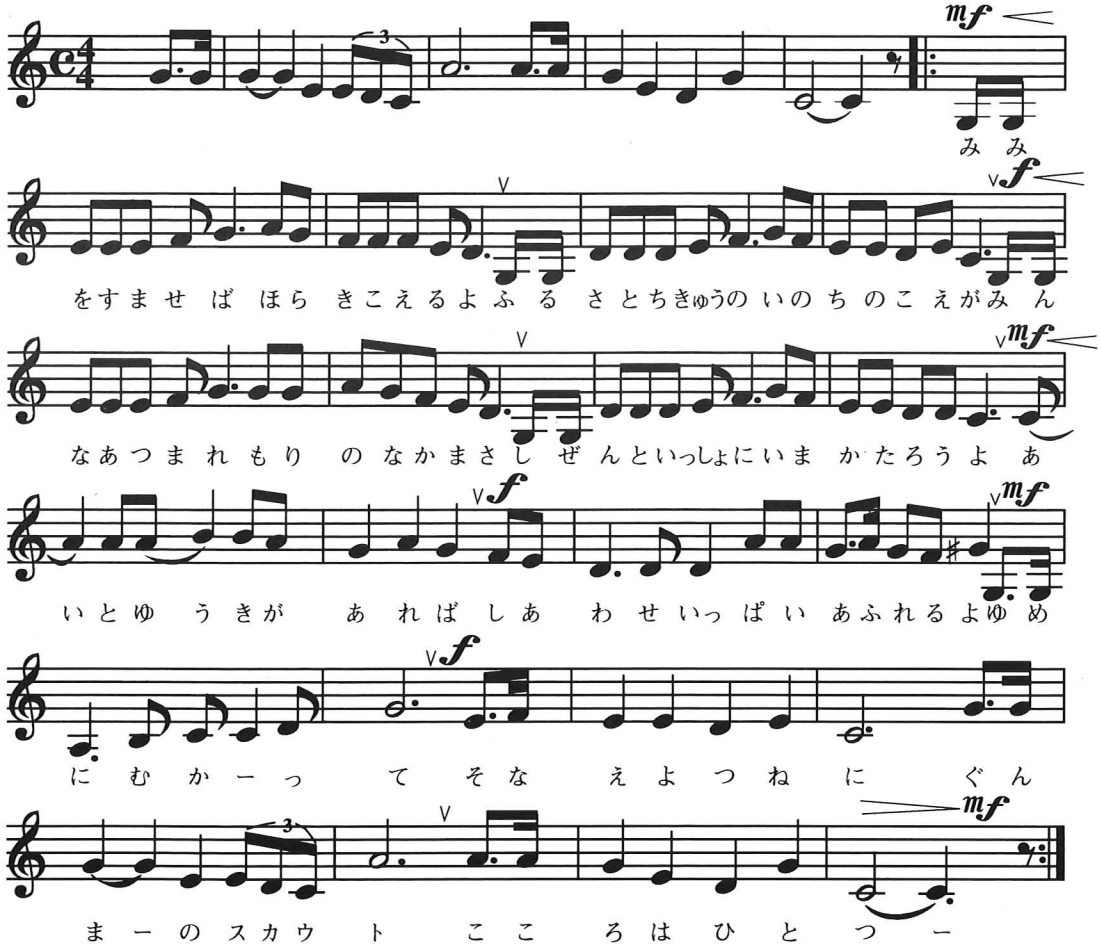
ビーバー隊のきまり

1．ビーバースカウトは　げんきにあそびます
2．ビーバースカウトは　ものをたいせつにします
3．ビーバースカウトは　よいことをします

群馬県連盟創立50周年記念歌

心はひとつ

作詞　石関美千代
作曲　石関むつか

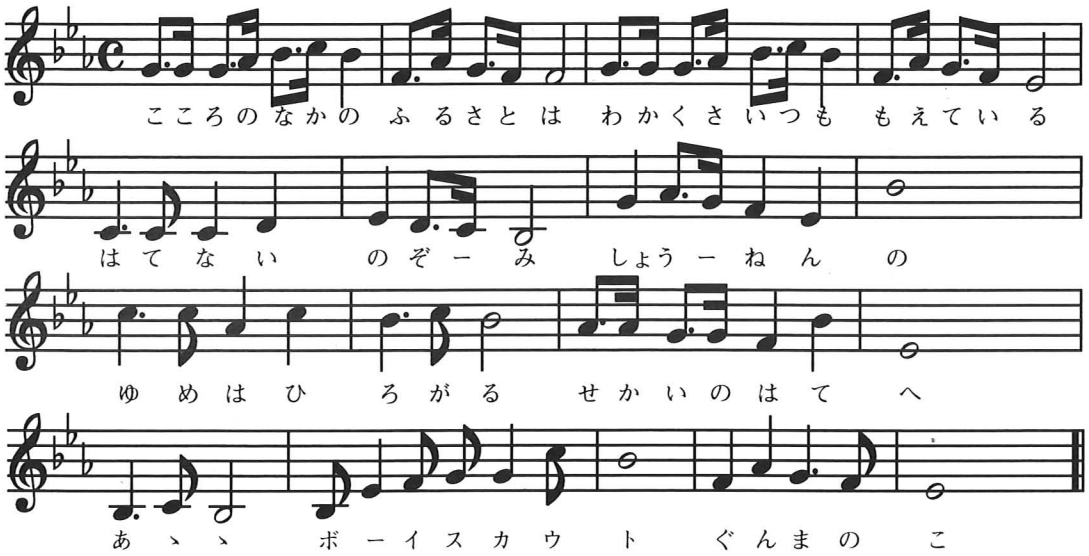


1. 耳をすませば　ほら　聞こえるよ　ふるさと地球の　生命の声が
みんなあつまれ　森の仲間さ　自然といっしょに　いま　語ろうよ
愛と勇気があれば　幸福いっぱい　あふれるよ
夢にむかって「そなえよつねに」　群馬のスカウト　心はひとつ

2. 心ひらけば　ほら　輝くよ　ふるさと地球の　生命の光
みんなあつまれ　世界はひとつ　未来へ向かって　エールをおくろ
感謝と奉仕の心　大切だって　信じてる
希望を胸に「ちかいとおきて」群馬のスカウト　心はひとつ

群馬県連盟歌

作詞　鈴木比呂志
作曲　植　村　亨



1. こゝろの中のふるさとは　若草いつももえている
はてないのぞみ少年の　夢はひろがる世界のはてへ
あゝボーイスカウト　ぐんまのこ

2. こゝろの中の星空は　銀河が白く光ってる
友愛の花さくところ　奉仕の汗も楽しくかおる
あゝボーイスカウト　ぐんまのこ

3. こゝろの中の湖は　きよらなひとみ映してる
胸にのばらと太陽を　いつもかざろう若者われら
あゝボーイスカウト　ぐんまのこ

群馬県連盟創立50周年記念誌

目　　次

50年のあゆみ

ボーイスカウトのちかい …… 1
創立50周年記念歌 …… 2
群馬県連盟歌 …… 3

記念誌発刊によせて

50周年記念誌の発刊によせて …… 連盟長・群馬県知事　小寺弘之 …… 8
50周年記念誌の発刊によせて …… 県教育委員会教育長　関根正喜 …… 9
群馬県連盟創立50周年を祝して …… 日本連盟　総長　渡邉　昭 …… 10
50周年記念誌の発刊によせて …… 日本連盟総コミッショナー
＜地球の仲間とともに＞　杉原　正 …… 11
スカウティングの旅路 …… 副連盟長　渋木羨夫 …… 12
未来へはばたけ群馬のスカウト …… 理事長　新藤信夫 …… 14
21世紀に向かって …… 県コミッショナー　小沼國幹 …… 15
50周年記念誌の発刊によせて …… 振興財団理事長　福田　實 …… 16

50年のあしあと

日本聯盟第1回全国大会アルバム …… 18
大正・昭和初期の群馬県における少年団運動 …… 28
昭和23年再出発のボーイスカウト
「胎動期より10年を回顧して」 …… 相談役　北条富司 …… 30
40周年以降10年のあゆみ …… 34

委員会活動 …… 43
組織拡張委員会 …… 44
指導者養成委員会 …… 45
進歩委員会 …… 46
野営行事委員会 …… 47
健康安全委員会 …… 48
財政委員会 …… 49
広報委員会 …… 50
需品委員会 …… 51
国際委員会 …… 52
トレーニングチーム …… 52
コミッショナー活動 …… 57
21世紀委員会 …… 60
群馬県ボーイスカウト振興財団 …… 62

地区のあゆみ・各団プロフィール …… 65
太田地区のあゆみ …… 66
太田２・太田３・太田４・太田５・太田６・太田７・太田77・
太田８・太田10・館林１・館林２・館林３・大泉３・大泉４・
大泉５・大泉２・邑楽町１・明和１
桐生地区のあゆみ …… 85
桐生１・桐生２・桐生３・桐生５・桐生６・桐生８・桐生９・
桐生10・桐生12・桐生13・桐生14・桐生16・桐生17・桐生20・
桐生50・大間々１・藪塚１・伊勢崎12
高崎地区のあゆみ …… 104
高崎７・高崎８・高崎12・高崎15・高崎17・高崎18・高崎19・
高崎21・高崎22・吉井１・玉村町１・榛名１・箕郷１・群馬町１・
松井田１
前橋地区のあゆみ …… 120
前橋１・前橋３・前橋５・前橋７・前橋12・前橋15・渋川２・
大胡１

資　料　編 …… 129
年　表 …… 130
群馬の富士スカウト …… 134
群馬県連盟広報のあゆみ …… 136
日本連盟表彰 …… 144
群馬県連盟表彰 …… 145
歴代の県連盟役員 …… 147
指導者養成記録 …… 150
平成11年度重点目標 …… 151
群馬県連盟加盟員増減 …… 152
1999年度加盟登録団連絡先 …… 154

編集後記 …… 156

ボーイスカウト運動は、1907年、イギリスのブラウンシー島で行われたキャンプからスタートしました。

都会育ちの少年たちにとって、このキャンプは夢と冒険にみちた初めての体験でした。かねてから少年たちの教育問題に大きな関心をもち、このキャンプを主催したベーデン・パウエル卿は、この体験をもとに翌年「スカウティング・フォア・ボーイズ」という本を著し、少年たちの旺盛な冒険心や好奇心をキャンプ生活や自然観察、グループでのゲームのなかで発揮させ、「遊び」をとおして少年たちに自心や協調性、リーダーシップを身につけさせようと説いたのです。これがボーイスカウト運動の始まりです。

「スカウト」とは「先駆者」のことで、ボーイスカウトとは「自ら率先して幸福な人生を切り開き、社会の発展の先頭に立とうとする少年」という意味をもっています。

現在、ボーイスカウト運動に加盟している国は131ヵ国、加盟員は、1,600万人にのぼります。また、2億5千万人もの人が人生の一時期をボーイスカウトとして過ごしています。この数字は、ボーイスカウト運動の意義、楽しさが広く世界に認められた証しといえます。

世界の大部分の地域で、多くのスカウトやＯＢを生んできたこの運動は、さらにその輪をひろげつつあります。

（ボーイスカウト案内より）

記念誌発刊によせて

50周年記念誌の発刊によせて

日本ボーイスカウト群馬県連盟連盟長
群馬県知事
小寺弘之

日本ボーイスカウト群馬県連盟が、本年、結成50周年を迎えました。心から祝意を表します。戦後間もない昭和24年、次代を担う青少年の教育をねらいとして300名の隊員により結成されました。以来、年々活動の範囲を広げてまいり、今日3,300名を超える団体に成長しています。歴代お世話になった指導者の皆様をはじめ、お力添えをいただいた関係各位に併せて深く敬意を表する次第です。

半世紀が過ぎ、世相は大きく変わりました。結成当時とは比較にならないほど物は豊かになり、便利な世の中になりました。しかし一方では、資源の浪費や環境破壊などが大きな社会問題となっています。また、青少年の関心事や行動も様変わりし、それに伴っていじめや非行が多発するようになり、あらためて青少年教育の大切さが叫ばれています。

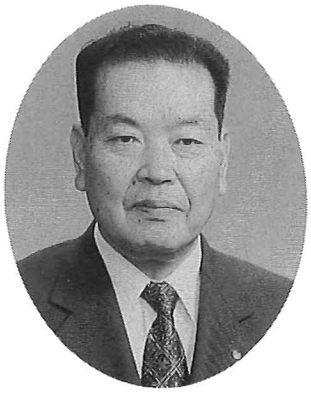
振り返ってみると、今日の社会の生活は、自然からだんだんと遠ざかってきているような感じがします。快適な生活、楽な生活を追い求めるようになったがゆえに、自然が与える人間の五感に訴えるような刺激が失われつつあり、そのため本来人間の持つ感性がしだいに衰えていってしまうのではないかということさえ感じるのです。自然を体験するといっても、それ自体だんだんと疑似体験に近いものになっています。キャンプへ出かけるにしても、設備の完備された場所へＲＶ車やキャンピングカーに乗って出かけます。ありとあらゆる近代文明を自然の中へ持ち込むのでは、本当の自然体験にはならないと思うのです。

一昨年、神戸で少年による非常に痛ましい事件が起こりました。そしてそれを後追いするかのようにナイフを用いた傷害事件が全国各地で発生しました。このため、子ども達にナイフを持たせないという対症療法的措置がとられたわけですが、私は内心残念な思いでした。スカウト活動の中では、ナイフは人間にとって大切な道具であると同時にその危険性についてもしっかりと教え込まれ、子ども達は正しい使い方を学んでいきます。

もうじき21世紀が訪れます。そして、20年先、30年先には今の子ども達が日本を担っていくこと、これだけは間違いありません。子ども達にしっかりとした考え方を持って健やかに育っていってもらうことが、いつの時代においても一番大事なことだと思います。

群馬県でも子ども達をしっかりとした人物にしたいということを願って、「子どもを育てるなら群馬県」ということを県政の一大目標に掲げています。50周年を迎えるにあたり、連盟の益々の充実と発展を願うとともに指導者の皆様のご協力のもとにこれからもスカウト活動が青少年教育に大きく貢献していくことを期待して、記念誌発刊に寄せるごあいさつといたします。

50周年記念誌の発刊によせて



群馬県教育委員会
教　育　長
関 根 正 喜

日本ボーイスカウト群馬県連盟が創立50周年の節目を迎え、ここに記念誌の発刊とともに各種の記念事業を実施されますことは、誠に意義あることであり関係者のみなさまに対し、心からの敬意とお祝いを申しあげます。

戦後の混乱が残る昭和24年11月６日の発足以来、社会が大きく変化する中で、半世紀の長きにわたり活発な運動や事業を実践され、組織を拡充されて参りましたことは、これまでの活動を支えてこられた多くのスカウト並びに指導者のみなさまの多大なご努力によるものであると拝察申し上げます。

昨今、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化してきております。自然とふれあう機会の減少、家庭や地域社会の教育力の低下などが憂慮され、自立の遅れや社会性の不足、規範意識の低下などの問題が指摘されております。

子どもたちをめぐる問題は、大人社会の問題の反映であり、社会全体として取り組むべきものであると考えます。

21世紀の群馬県を担う子どもたちを心豊かでたくましく育成することが県民全体の責務であると考え、本県では「21世紀の子どもたちのために」（新ぐんま教育ビジョン）を策定しました。体験学習や課題解決型の学習などで子どもたちがたくましく生きる力を身に付けることを主眼としています。

ボーイスカウト活動は、このような意味でもその先進性、継続性が高く評価されるものであり、他の模範となるものであります。

今回、50周年記念誌の編纂を通してボーイスカウト群馬県連盟のこれまでの歩みを振り返り、先人に感謝する機会とし、その足跡の一つ一つの重みを確かめるとともに、活動の原点とは何かを再確認し、来るべき21世紀への助走の出発点とされますことは、まことに時宜を得たものであると考えます。

おわりに、50年を節目として日本ボーイスカウト群馬県連盟の益々の発展と関係者のみなさまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げお祝いといたします。

群馬県連盟創立50周年を祝して

財団法人ボーイスカウト日本連盟
総　　長
渡邉　　昭

この度、ボーイスカウト群馬県連盟が創立50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

昭和24年11月結成以来、大きな社会情勢の変化にもかかわらず、幾多の試練を乗り越え、スカウト教育の基本を守り、今日の群馬県連盟を育てられた歴代の指導者各位に深く敬意を表する次第であります。

近年、青少年の色々な問題行動が指摘され、国においても21世紀を担う青少年育成のために、「ゆとり」のなかで「生きる力」を育む教育が提唱され、学校教育も2002年から完全週５日制が実施されることになりました。

こうした新しい教育の動きは、地域との連帯を深めながらも有為な社会人を育てようと努力しているスカウト運動にとっては、大きな励みとなります。

また、21世紀を直前にして世界2,600万人のスカウト、アジア諸国の1,700万人のスカウトたちは、日本に対して大きな期待を寄せています。すべての人を友として、この運動の国際性を活用して「世界に貢献する日本人」を育ててこの期待に応えようとしている皆様の、一層のご努力をお願い申し上げます。

群馬県連盟の今後ますますのご発展を祈り、私の祝辞といたします。

50周年記念誌の発刊によせて
＜地球の仲間とともに＞

ボーイスカウト日本連盟
総コミッショナー
杉原　正

ボーイスカウト群馬県連盟の創立50周年、心よりお祝い申し上げます。

これまでの50年の道のりは決して平坦なものではなく様々な困難を乗り越えられたもので、この間スカウト運動に関わられた多くの指導者と支援者のご協力の賜物と心から敬意を表します。

日本連盟は、２年前に創立75周年を迎えるにあたって、テーマを「視野をより広く」として様々なプロジェクト、とくに国際理解、国際協力、国際貢献に取り組みました。

世界スカウト会議も「視野をより広く」を合言葉に21世紀に向けたスカウト運動への取り組みが行われ、各国のスカウト連盟においても自分のことや自分の地域、自分の国だけにとどまることのない広い視野で展開されるスカウト活動が展開されています。

昨年12月末から１月にかけて南米チリで開催された「第19回世界ジャンボリー」では、＜共に平和を築こう＞をテーマに、世界中の若者に平和を築くために積極的な役割を果たすよう呼びかけました。

平和とは、ただ単に戦争がないことばかりでなく、すべての人々や社会に対する明確な態度をとり、暴力、貧困、偏狭、人種差別があること、また教育の機会が与えられないことを終焉にするための正義感や健康への配慮、安定した居住状況のなか、いわゆる人権の尊重のなかで平和がもたらせることを意味しています。

平和でモノが豊かな日本にあっては実感が非常に少ないことではありますが、同じ星のもと、同じ地球に生れた人間としてこの問題を自分のこととして受け止め、取り組んでいく若者を育成することがスカウト運動にも強く求められています。こうした社会の動き、要請に対応できるよう日本連盟は、本年度は、『地球の仲間とともに』－社会に貢献するスカウト運動－をスローガンに掲げ努力をしようとしています。

そのためには、一人でも多くの青少年にこのスカウト活動に参加していただき、21世紀を担う若者の育成のために更なる努力を傾注することが大事と考え、本年度の重点目標として『一人でも多くの青少年をスカウト運動に』を掲げ、取り組むことになりました。

21世紀を目前にして群馬県連盟が50周年をお迎えになりましたが、これからの新しい50年に向けて広い視野をもち、社会に貢献できる人材の育成にご尽力をいただくことを期待し、併わせて貴連盟のますますのご発展を心よりお祈りいたします。弥栄

スカウティングの旅路

ボーイスカウト群馬県連盟
副 連 盟 長
渋 木 羨 夫

県連盟が結成された50年前を振り返るとき、当時の社会の混乱は現在のそれと形は変わっていても決して安定してはいなかった。そのような中で我国の未来に活躍する青少年を信じ、戦前から続いていた少年団活動を民主的なスカウト運動に転換しつつ、県内各地から指導者スカウトを統合して県連盟を結成してくれた先輩各位の熱意と努力に対しては、心から三指の礼を贈りたい。今でこそ全国でも上位のスカウト人口を有する立派な県連盟に成長しているが、この間活躍して下さった大勢の指導者並びにご支援を頂いた行政当局の皆様にも感謝申し上げるばかりである。

ところで、先日発表された日本青少年研究所の調査結果をみると、「21世紀は希望のある豊かな社会になる」との質問に対して、中国や米、韓の青少年は60%～80%が肯定しているのに日本の青少年は僅か29%が肯定しているに過ぎづ、「今が楽しければそれで良い」といった社会観が広がっているとのこと、それに最近マスコミに報道されている青少年を取り巻く諸々の不快な事件、極端に凶暴な米国の事件等々、私達が今後も取り組まなければならないスカウト運動にとって一抹の不安を感ずることになるが、実はこのような事件は大なり小なり昔から世界各地にあったのであって、スカウティングの世界ではどのように対処しようとしているのか、私の知り得たスカウティングでの対応策を述べてみよう。

1988年メルボルンでの世界会議ではテーマを「スカウティングのための戦略」として、青少年に責任ある市民教育を行い国に貢献できる人物に育てることによって犯罪の防止に役立てようと、青少年プログラム、指導者養成、各国連盟の運営等が議論されたのである。私事だが参加したグループで日本の青少年プログラムはどのようになっているのか、その評価は国レベルでなされているかなどオーストラリアの女性グループリーダーに質問され困った経験がある。また指導者訓練については指導者の発掘と訓練の方法、継続性、連盟の支援体制等が議論された。1990年パリで開催された世界会議では「ス

カウティング：未来を築く」をテーマとして取り上げ、前回の結果報告の中ではアラブとヨーロッパ地域で具体的な発展が見られたことが報告され、今回は特に「戦略」に関する問題を中心に審議することになり、青少年プログラムを現在加盟している青少年だけでなく「もっと多くの若者のため」に魅力があり質の高いものにすれば、青春期年齢層の若者が、より良い社会を築き上げることに貢献すると結論づけた。それと同時に、プログラムの実行に必要な技能と心構えをもった人材が確保されなければそれは達成できないため、世界訓練委員会は「スカウティングにおける成人会員」の充実を提言した。いわゆる「アダルトリソーシス」で、9年前世界会議で決定されてからようやく日本連盟にこの委員会が設置されることになったわけである。

次に女子加盟の問題がある。ここ数年来群馬県連盟においても女子の加盟が次第に増加しているが、世界スカウト委員会は平成2年4月に女子加盟を批准し公表しており、現在では世界スカウト機構内で最も一般的な形となっている。これは勿論ガールスカウト連盟に加入しているスカウトを引き抜くのではなく、自発的に参加を希望する者が加盟してくるのであって、世界連盟もガールスカウト連盟の存続について従来どおり支援し続けているし教育運動としてのスカウティングは、あらゆるレベルでの決定が青少年のニーズ、抱負、興味に基盤をおくものであって、歴史その他から発する制度上の配慮によるものではないからである。

以上1988年から1996年まで4回開催された世界会議の中で議論されたスカウティングに係わる部分について抽出したが、世界は広く、文化、宗教、古来からの制度等々理解に苦しむことも多く、スカウティングの伸展は容易ではないと感じながらも、参加者の大部分はこの運動を積極的に進める意気込みが伺われうれしかった。群馬県連盟の限りない発展を祈念しつつ。

未来へはばたけ 群馬のスカウト

日本ボーイスカウト群馬県連盟
理　事　長
新藤信夫

ボーイスカウト群馬県連盟が創立50周年を迎える事ができ、誠におめでたくご同慶にたえません。この間幾多の先輩諸氏が青少年の健全育成に情熱をかたむけられ、今日までその灯火をともし続けられました事に感謝申し上げます。

昭和24年４月にGHQ及び文部省から財団法人ボーイスカウト日本連盟が認可され、各県とも10ケ隊できると県連盟の承認される事になりました。群馬県連盟としても昭和23年７月に一ノ宮公民館にて指導者公認講習会を開催して県連盟結成の一歩を踏み出し24年７月29日には前橋商工クラブで県連結成準備委員会が設立されました。24年11月６日には利根郡２ケ隊、伊勢崎市１ケ隊、前橋市３ケ隊、太田市１ケ隊、佐波郡２ケ隊、高崎市１ケ隊、勢多郡１ケ隊の11ケ隊300余名が前橋公園に集結、日本連盟から三島理事長をお招きして群馬県連盟結成記念式典が行われ、スカウティングに対して大変意気盛んな時期であったようです。

あれから50年「ちかい」と「おきて」の実践に基盤をおき群馬県連盟も3,800名の登録人口を有するようになりましたが、ピーク時の昭和62年には5,000名に手が届くところまで行きましたが、現在は年々減少傾向にあるのを防ぐのがやっとの状況にあります。新規加入については関東ブロックのなかでは比較的良い方ですが、中途退団者が多く結果として減少しております。

50周年を機に21世紀委員会を発足させて将来の群馬県連盟のあり方について、組織、プログラム、指導者養成などあらゆる角度から検討を戴いております。その提言を実行することにより更なる発展を期待するものであります。

県連役員ならびに指導者の力を結集して**「未来へはばたけ　群馬のスカウト」**のテーマが達成できるような群馬県連盟をつくるという強い志をもち、社会に貢献出来る青少年の育成という大きな志、すなわち**有志必成**で21世紀のスカウト活動に頑張っていきましょう。

21世紀に向かって

日本ボーイスカウト群馬県連盟
県コミッショナー
小沼國幹

群馬県連盟創立50周年を迎え、今日の隆盛を築かれ、支えて下さった賢明な諸先輩そして物心にわたり御協力下さったスカウト保護者各位、さらにスカウト運動に特段の御理解と御協力を賜った行政当局に、まずもって心から敬意と感謝を申し上げる次第です。

50年前、11ケ隊、隊員286名をもって群馬県連盟が創立されたと聞いておりますが、現在では188ケ隊、12班、3,724名となり、さらに社会に送り出した多くのスカウトたちは、立派な社会人として活躍しております。また、今ではそのスカウトたちの2世が、スカウトとして活動しております。

さて、まもなく私達の目の前に姿を現す21世紀は、果たしてどんな時代なのでしょうか。ここ10年は女子の全部門加入承認や、日本連盟機構改革等人間がつくったシステムを、時代にあったものに、そしてこの運動をしやすいように改革がなされた年月でした。

また、中途退団者増加というマイナス面がクローズアップされた年月でもありました。

21世紀は新千年期でもあり「追い風」からのスタートです。学校週5日制の導入、家庭教育ノートの全家庭配布さらに県連盟創立50周年とスカウト運動の輪を広げる絶好のチャンスであります。

このスカウティングを包む有り難い追い風に応えて、一人でも多くの青少年をスカウト運動に迎えて、何とかスカウトが班対抗のプログラムに楽しく挑戦できるよう私達も原点に戻って力を注ぎたいものです。と同時に50年余り豊かさを追い求め、利便性を優先してきた大人社会の姿をそのまま子ども社会に投影してしまったことを反省しなければなりません。

これからは何をするのかではなく、どうするかを学ぶことが大切であり、一方では我慢することや苦労することも経験しなくてはなりません。

今、社会教育の一つとしてボーイスカウトに対する期待は増しております。スカウト人口減少阻止のためでなく、この社会の期待に応えるために、真にスカウトにとって楽しいプログラムを、スカウトや保護者の方々さらに地域社会の人々から信頼される指導者の下で展開できるよう頑張っていこうではありませんか。自信と誇りをもって、スカウトの輪を大きなものとするよう頑張っていこうではありませんか。そして、創始者の精神を心として新しい道しるべを求めながら初心を忘れずみんなで新世紀への一歩を。

50周年記念誌の発刊によせて

(財)群馬県ボーイスカウト振興財団
理　事　長
福田　實

ボーイスカウト群馬県連盟も結成以来50周年を迎える事になりました。

思えばついこの間の様にも感じられますが、私の人生の半分以上の歳月ということであり、その道程は決して平坦なものではなく、山あり、谷ありの50年だったと思います。初代事務局長の小井戸哲夫先生当時は、私はまだ一介の隊長で、先生のお宅へ需品購入やら隊運営の相談に伺っていただけなので県連の財政の中身迄は知る由もなかったわけですが、昭和33年に理事の仲間入りをさせて頂いてから、県連財政の中身を知らされるにつれ、その運営の困難な事を知るにつれ、当時の役員の方々、特に事務局長の苦労は一通りのものではなかったろうと想像したことでした。亡くなられた後藤竜堂先生、吉川亀吉先生、小野里和四郎先生などはその最たるものだった事でした。

県連役員と名が付く方々からは一律に一万円の御寄付を頂き、運営の足しにしていたような状況でしたから、それを見過ごす事が出来ずに初代の先達、星野宏先生がその顔を利かせて奉賀帳式に企業からお金を頂いて来て下さり、大変助けていただきました。星野先達を始めとする多くの役員方々の発案で財団法人結成の話しが持ち上がったのが昭和42年頃だったと思います。

時の理事長 勝 実道 先生が入退院を繰りかえされ病状が長引いたので、昭和45年に私が後をお引き受けして理事長に就任すると間も無く財団設立の機運が本格化し、「奉賀帳より財団に寄付を戴くほうがどれ程お金を頂きいいか判らない。僕も、もう80歳だからそう永くはない。早く財団をつくって貰わないと死んで仕舞うよ。!」と星野先生にハッパを掛けられて、県の教育委員会へ良く通ったものでした。基金も少ない上に、時の役員のなかには財団を作るよりも其の集まったお金を県連で使う事にしたら・・・等、設立に反対の意見も出たり、お金を一手に預っていた事務局長の小野里先生などは、そのお金を個人的に流用している。などと、ない腹をさぐられ、御本人は淡々としておられたけれど、端で聞いた私のほうが頭にきて、もうなげだして仕舞おうかと考えたこともあった程でした。根岸理事長、竹田事務局長の時代になり、ようやく、県連の考え方も財団設立に理解をいただき、設立準備委員長という大役をお引き受けしていた私も、設立の見通しがついて、ほっとしたのが昭和62年で、竹田事務局長が寄付行為の素案作成やら、その他の手続き一切をお膳立てして、昭和63年７月に「財団法人群馬県ボーイスカウト振興財団」という名称で登録を完了して芽でたく発足する事が出来た次第であります。理解ある賛助会員、特別賛助会員、法人賛助会員の皆様を合計して150有余名、基金総額3,140万円となり、ボーイスカウト群馬県連盟に年額80万円の支援金を贈る事が可能になりましたが、此の金利低迷にて其れ以上望めぬ現状でありますので、此の50周年を期に皆様方の尚一層の御協力をお願いして止まないところであります。

ボーイスカウト群馬県連盟

50年のあしあと

ベーデンパウエル卿御夫妻の墓前にて
1982年1月1日　群馬県先達　星野　宏

ボーイスカウト日本聯盟　第１回全國大會

昭和24年９月24日、未だ敗戦の国、独立しえず時。物もなく、ようやく店頭に並んだ白い食パンに眼を輝かせた頃であった。

そんな時に他の団体に先駆けて、ボーイスカウト日本連盟は、第一回ボーイスカウト全国大会を、今なら到底許されないであろう皇居前広場での野営・アリーナとして日比谷公園が供された。その日比谷公園に昭和天皇が現皇太后、今上天皇をはじめとし、常陸宮と連れ立ってお見えになったことは、その時の万歳の声と共に50年後の今も記憶に新しい。

そして今は当たり前になっている三指の敬礼が、この大会を機に、当時の日本の最高執行機関であったＧＨＱより許され、その代わりとしていた現在のスカウトサインにとって変わったことも感激であった。

それに加えるに感激だったのは、今ならできえない街頭パレードだった。馬場先門より日比谷交差点、そして田村町交差点を左折し、新橋を経て銀座一丁目より京橋交差点を左折し、皇居前に戻ったそのパレードは、多くの人々が通り行く街路で手を振り、ビルから体を乗り出して歓迎という、言葉では言い尽くせない喜びをパレードの行くところ行くところで感じえた。それは敗戦国民として抑圧されていた人々が、当時、掲揚を禁じられていた国旗・日の丸が群れをなして行進していたからではないかと思う。

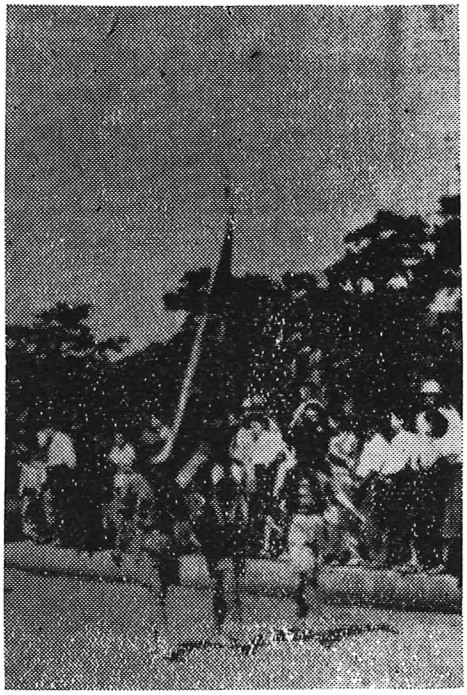
その国旗集団の先頭に、紅いトルコ帽の 星野先達が、胸をはって歩いておられた。

大パレードで国旗集団の先頭に立つ星野先達

日の丸の　群れに先立つトルコ帽
　　鈴なりの人のビル街を往く

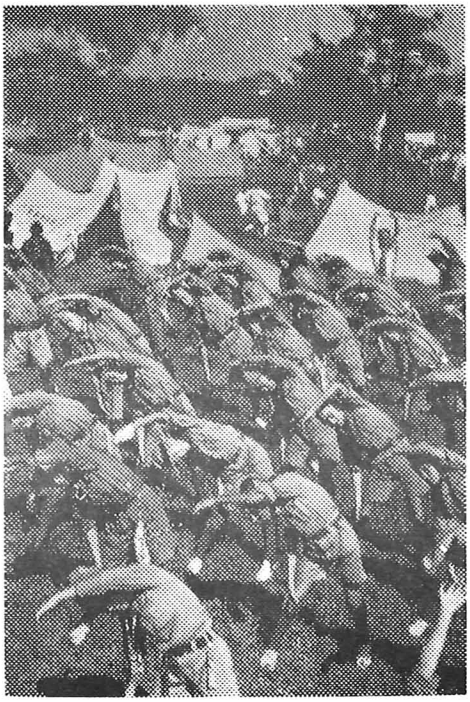
許されし　三指の礼ににっこりと
　　笑って返す紅トルコ帽

星条旗よ　永遠なれを音楽隊
　　黒松の下の野営偲びぬ



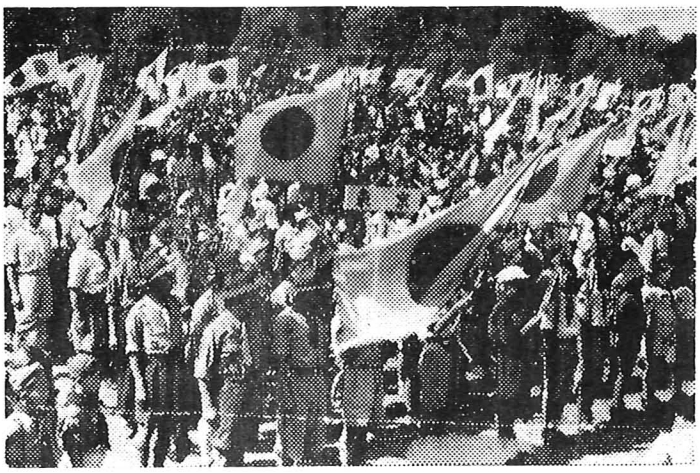
米國代表より聯盟旗贈らる

大會開始

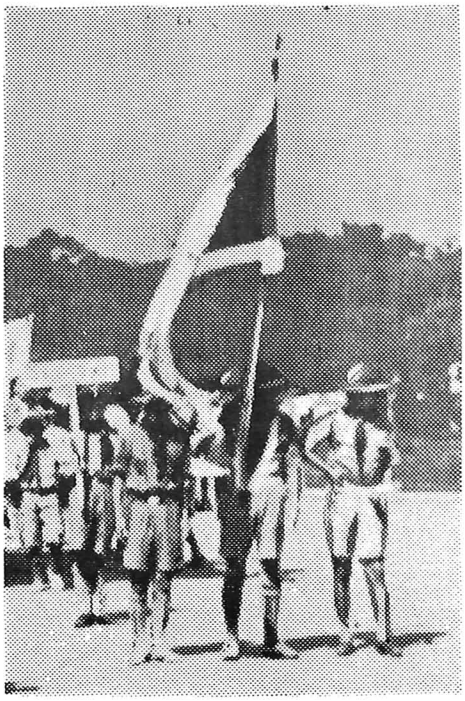


体　　操

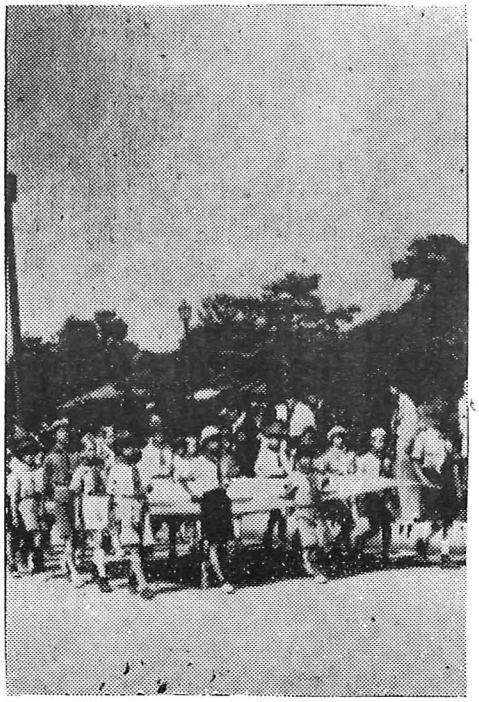
キャンプファイヤー



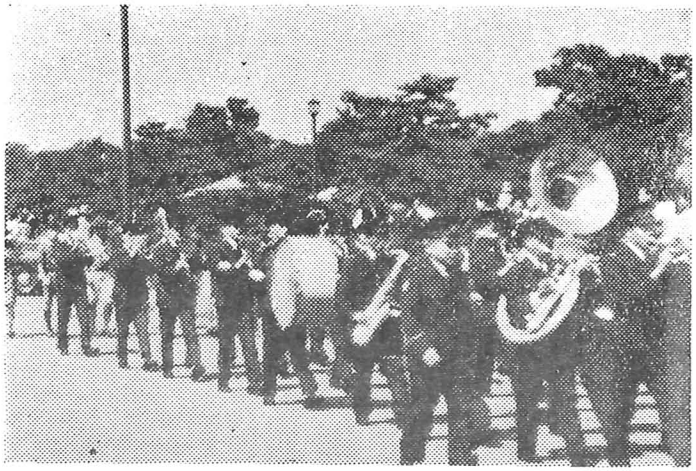
行進出發の用意



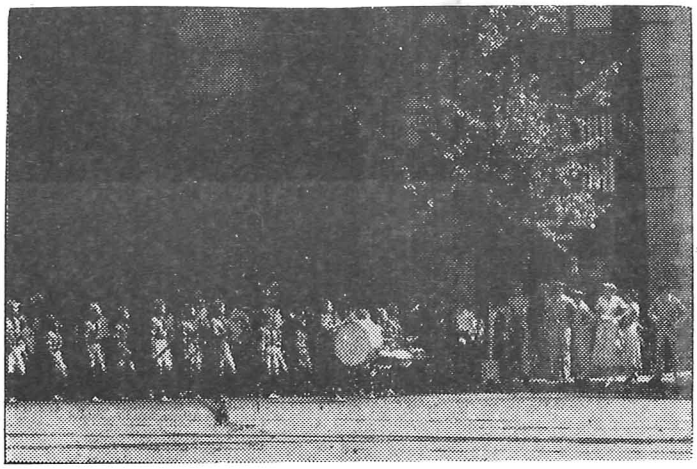
聯盟旗先頭に



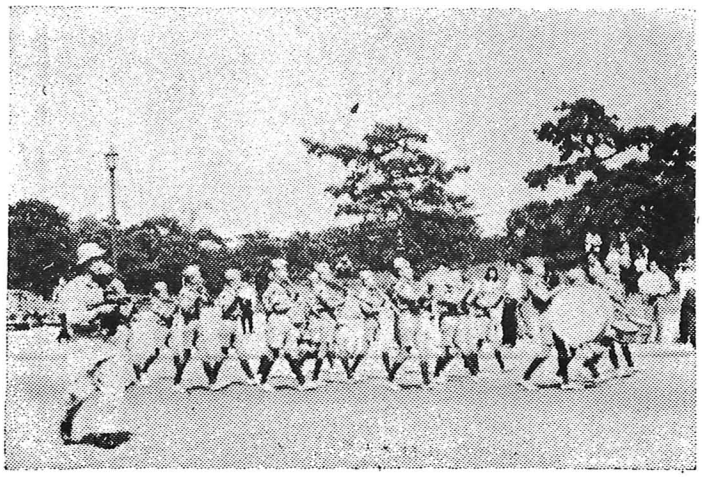
大日の丸行進



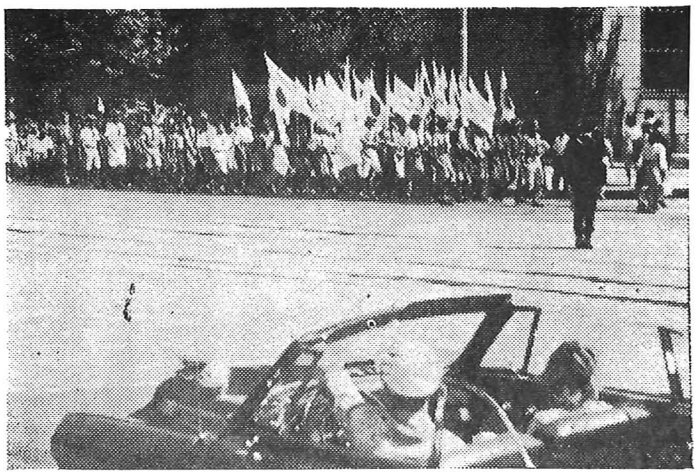
て つ 買 役 一 も 團 樂 奏 吹 廳 視 警



總　司　令　部　前

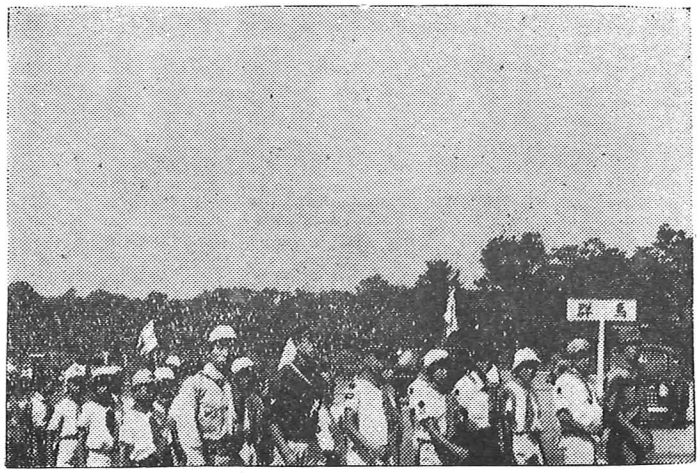


ボ ー イ ス カ ウ ト 吹 奏 樂 隊



總司令部前の行進

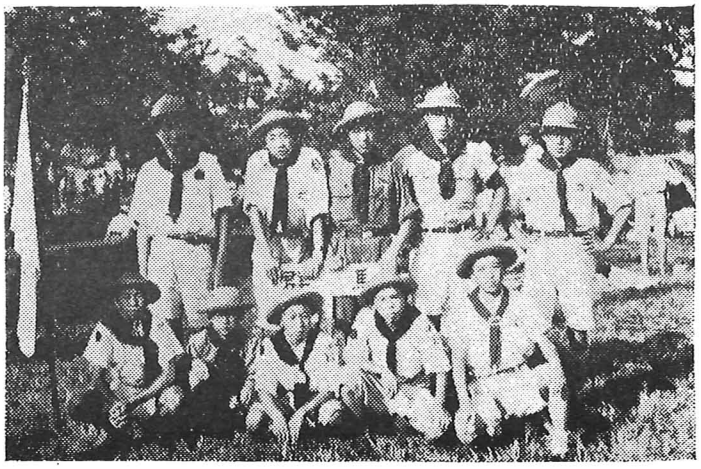
栃木縣代表行進



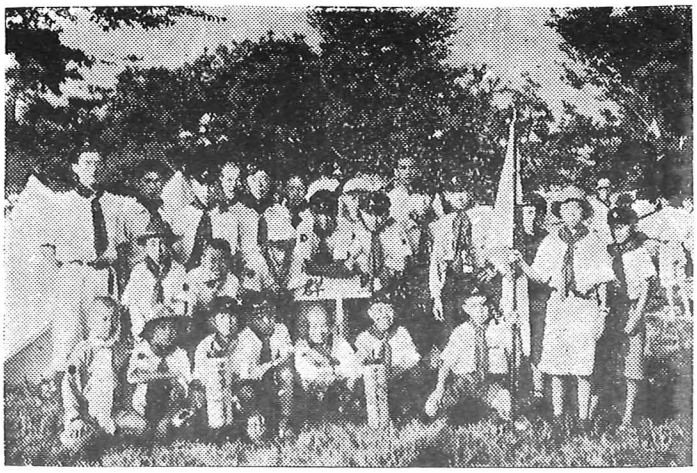
群馬縣代表行進

前　橋　第　一　隊

前　橋　第　二　隊

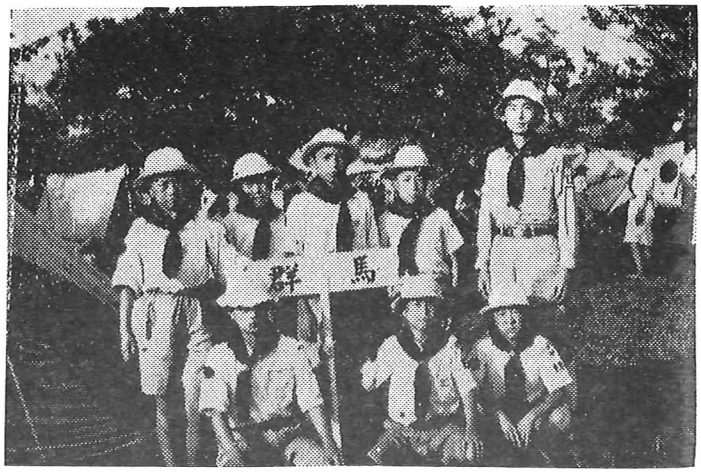


前　橋　第　三　隊

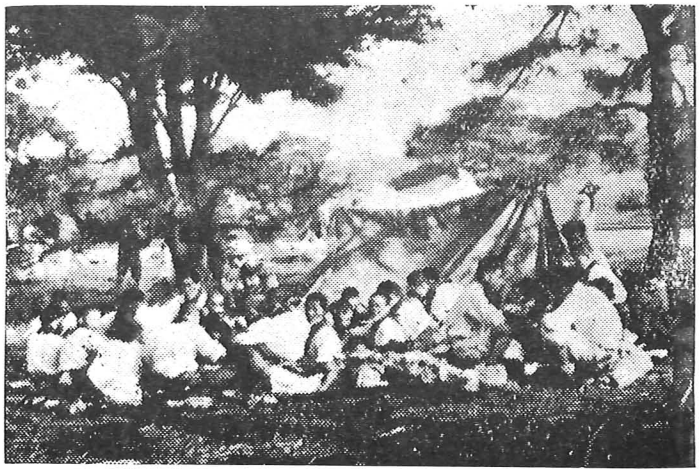


伊　勢　崎　隊

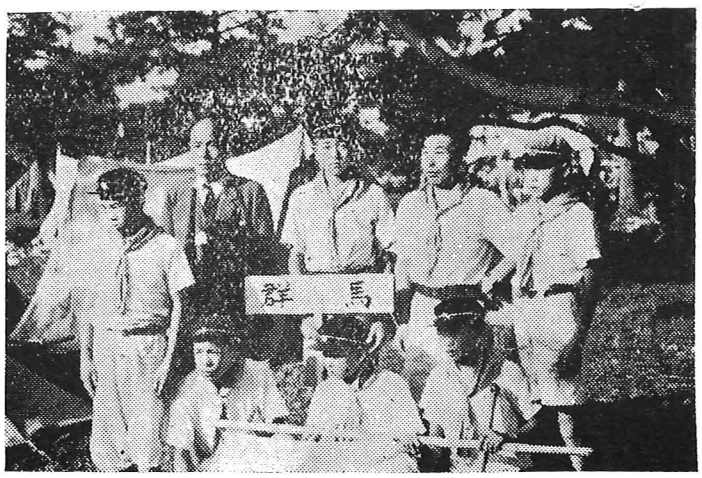
太　　田　　隊



高　　崎　　隊

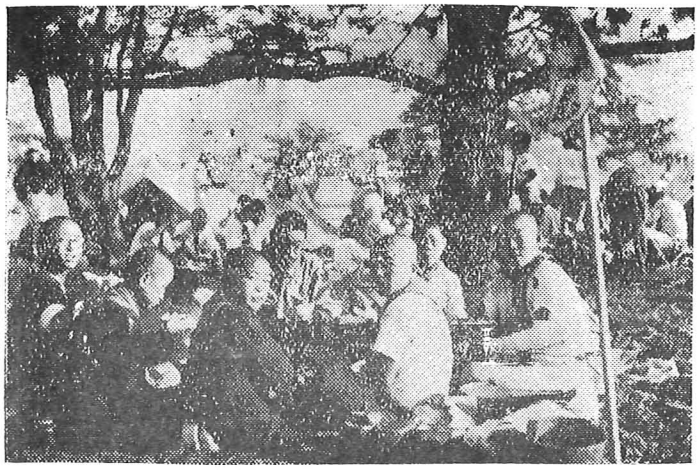


佐　波　郡　豐　受　隊

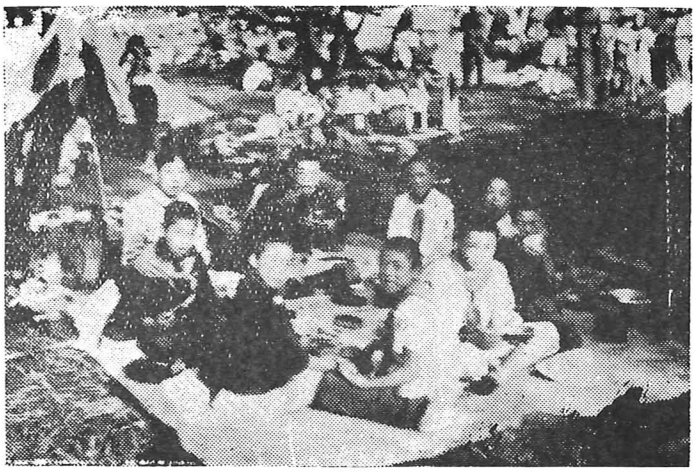


佐　波　郡　東　隊

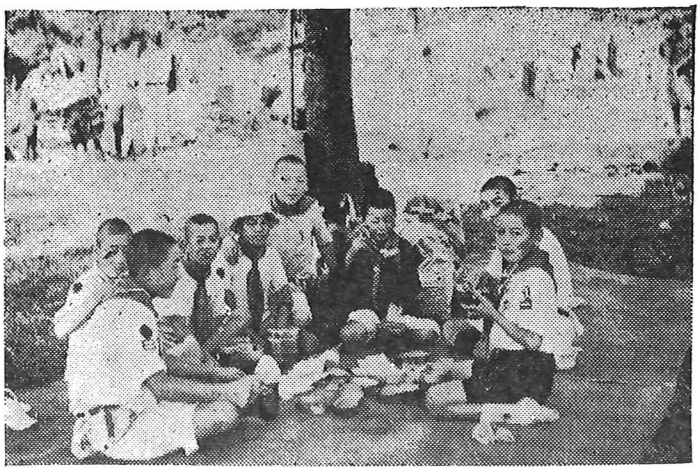
水　　上　　隊



利　根　第　一　隊



利　根　第　二　隊



利　根　第　三　隊

大正・昭和初期の群馬県における少年団

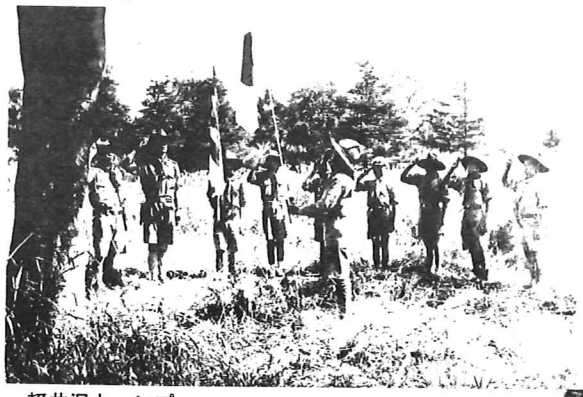
群馬県における少年団活動は、大正５年(1916年頃より多野郡新町に芽生え始めた。

製糸業を営む高木勇一郎氏は、家業のかたわら付近の少年達と少年団運動に邁進した。

組織作りには相当な苦労があったが、ボーイスカウトの訓育方式をいちはやく採用。

組織としては、幼年隊（８才～12才）、少年隊（11才～18才）、青年隊（18才以上）、となっており、訓練内容は野外活動、奉仕活動公民資質の高揚を活動主眼とした。

大正11年４月13日、少年団日本連盟結成と同年に新町少年義勇団は正式に日本連盟に加盟した。



軽井沢キャンプ

新町少年義勇団要覧

1. 沿革

創立は大正11年２月11日にして、戸谷作太郎・高木勇一郎両氏の努力により結成したるものなり。団長に戸谷作太郎就任、戸谷氏多胡村小学校長に栄転せらるるや、高木勇一郎氏後を襲い団務を統理す。

大正11年少年団日本連盟成る率先加盟し本部加盟登録番号第233号なり。

昭和６年４月、制度を理事制に改め、理事長団代表となり、創設者高木勇一郎氏は永久に名誉団長としてその統督を仰ぐことと成る。

2. 組織並びに幹部

名誉団長	高木勇一郎
理事長	鈴村繁成
理事	秋山武夫
同	松本権三郎
同	高橋武
同	桜井金久

青年健児隊　７名　少年健児隊15名（２班）

幼年健児隊　14名

3. 経費　昭和６年決算歳出入総額

約１７３円也

団員負担・寄付金・町補助金

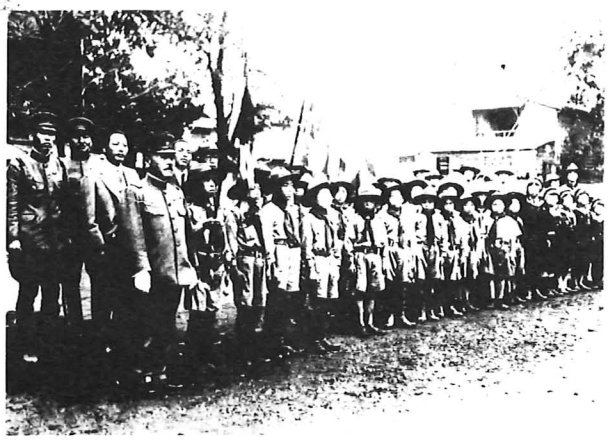
4. 事業　① 社会奉仕　時の宣伝　衛生宣伝　善行奨励

② 自己訓練　研究会　指導者講習　野営生活を通じて自然研究　情操陶冶　国体観念の養成　心身の練磨

③ その他、機関紙「営火」年4回発行　班集会　名誉会議　ハイキング　競技　保護者会　夏の村開設等

昭和８年７月調査　新町少年義勇団

新町少年義勇団



ボーイスカウト初大会（高崎第一幼稚園）

高木勇一郎氏の情熱は新町だけに止まらず少年団運動の普及とあれば県内どこへでも出向き、積極的に敬蒙に努めた。

大正15年には、多野郡下をはじめ前橋など6個団が個々にその運動を展開していった。

214 立石少年団　団長　沢田伊之助
233 新町少年義勇団団長　高木勇一郎
砂原少年団
上栗須少年団　団長　宮崎　渡
森　少年団
榎町少年団　前橋市

本県において大正期に結成された少年団、大正15年には、全部で6名の団長がいたという記録がある。しかし県内的に連合体を組織するまでには至らなかった。当時としては指導者の個人的運動資金に頼むところが大きく、その情熱をたよりとして活動していたために十分な連合団に発展できず、限界に突き当たった。

赤城山キャンプ

大正13年、当時29才の高木勇一郎氏は少年団日本連盟の評議員となり、連盟規約改正審議のための特別委員として活躍した。こうした高木団長の早くからの中央と直結した活躍が、新町義勇団の発展に反映されているのである。

昭和に移り、県内各地にボーイスカウトの訓練方式による少年団が結成された。

240　西平井少年義勇団　昭和2年結成
912　前橋少年義勇団　5年
1033　桑町健児団　昭和7年結成
1063　水上少年団　7年
1066　草津少年団　7年
1109　下仁田少年団　8年
1234　館林少年団　9年
1284　富岡少年団　10年
1396　伊勢崎少年団　11年
1484　茂呂少年健児団　12年
1819　伊勢崎皇国少年団　15年

（番号は日本連盟登録番号）

昭和4年8月3日より6日間、東京少年団主催の関東合同野営大会が、神奈川県小田急沿線登戸において22個団、1,123名の参加により開催。この大会が関東ブロックの大会であった。近県の少年団活動もこの時期より活発になって行ったのである。

昭和8年10月16日、雨天にもかかわらず県内8少年団に高崎の少女団も加わり、60名余の少年達が高崎幼稚園において、ボーイスカウト初大会を開催した。当時の新聞は「いよいよ県下少年団は連合会を組織することになった」と報じている。

群馬県下連合少年団大会が、昭和11年5月17日、富岡市一の宮町、貫前神社境内に於て300名の団員が参加し、二荒芳徳日本連盟理事長を迎え盛大に開催された。この連合団キャンプが県内初のキャンポリーであった。

この大会を機に群馬地方連盟が発足した。またこの時期、指導者のための地方実修所が開設され、多くの若い指導者が研修に励み、昭和14年には、全国の少年団の数は1,446個団139,147名に達した。

しかし、戦争の気配が濃厚になり、青少年団体の統合は緊急の要事であった。大日本青年団・大日本連合女子青年団・大日本少年団連盟・帝国少年団協会の四主流団体の一元的統合がなされた。昭和16年、国の施策大日本青少年団設立により、戦前の少年団活動は歩みを止めたのであった。

昭和23年、再出発のボーイスカウト
「胎動期より10年を回顧して」

第１回少年指導者公認講習会（一の宮公民館）

「光陰矢の如し」と言うが、群馬県連盟結成以来50年とは夢のようだ。私とボーイスカウト（以下ＢＳという）との関係は、昭和23年の第１回少年指導者公認講習会を受講したことに始まる。

講習会の目的・趣旨・理念が「青少年の良識を養い、資質の昂揚を図り国際友愛の精神を増進して自主的にこの運動の組織を通し、成人指導者の協力を得て青少年の自発的活動を促し、社会に奉仕する能力と人生に有用な技術を体得させ、愛国心・勇気・自信及びこれらと並行する国際愛・人道主義を把握させる。そして自らを心身共に純潔で、健全な日本人に育てる」ことだ。即ち学校・家庭・社会・職場でも立派な国民・国際人として世界に通用する人間を育てる、であり青少年の健全育成には最適の方法だと思った。

主任講師は日本連盟の今井襄二氏だが突然欠席したので、経験豊富な星野 宏氏、村澤信夫氏、栗原 博氏、三澤祐長氏等 が指導して下さったことが、思い出の一つとなっている。

続いて第２回指導者講習会が昭和24年２月に第１回終了者を対象に新希望者も含め、第１回と同会場で開催され、主任講師は日本連盟の関 忠志氏と尾崎忠次氏であった。

私にとっては疑問点・諸問題を解決するための有益な講習会となり、本当に感謝感激の講習会だった。早速、太田隊結成準備会を設置、昭和24年８月25日に登録申請して正式承認された時の喜びは感無量であった。

次に10年間の諸行事を順次思い出してみる。

① 群馬県ＢＳ合同野営大会が開催される。

昭和23年７月第１回指導者講習会修了者48名で結成したリーダースクラブが群馬のＢＳ運動を盛上げ、指導者の熱意を促進させると共に、第１回全国大会の事前訓練のため開催。

初めての合同野営で、昭和24年８月19日～21日まで高崎市岩鼻の火薬廠跡地を会場に、利根１隊22名，前橋１隊24名、前橋２隊４名伊勢崎１隊６名，佐波１隊８名，佐波２隊７名，太田１隊53名，北甘楽１隊３名，館林１隊15名の合計145名の参加であり、特に星野宏

氏のお蔭で、軍政部教育担当者のストラウド氏も野営をして、ＢＳから大変好評を得た。服装も各自まちまちで、備品も不足であった。

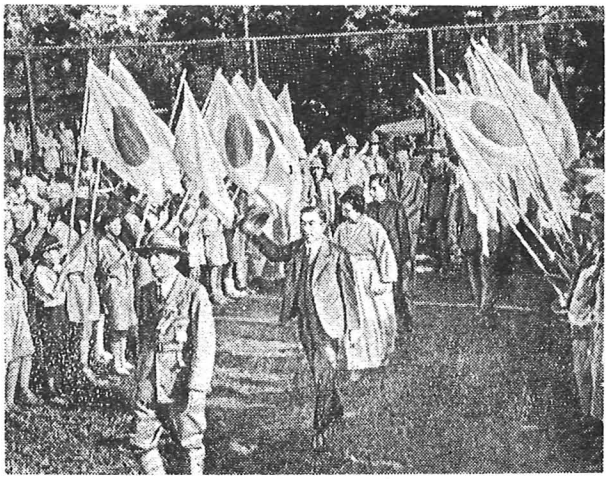
指導者もスカウトも固いコンクリートの上に毛布にくるまって寝たこと等、困苦欠乏に耐えるよい訓練、よい体験となったと思う。

② 第１回ＢＳ全国大会が開催される。

昭和24年９月24日～25日まで皇居前広場・日比谷公園で開かれ、群馬県より指導者・スカウト196名が参加した。（利根１隊11名，利根２隊９名，利根３隊15名，水上１隊10名，前橋１隊14名，前橋２隊20名，前橋３隊10名，伊勢崎１隊22名，高崎１隊８名，佐波豊受隊20名，佐波東隊８名，太田１隊49名）

当時は服装・備品など各自まちまち、郡市名や県名は白い布地に書き、シャツに縫いつけ、テントは借物だったが、スカウトの野営態度・規律・礼儀作法など実に立派であった。

東京駅に着くと、他県のスカウトの話で、国旗や三指の敬礼は許されるんだとか言う事が耳に聞えてくる。やっと会場に到着した。

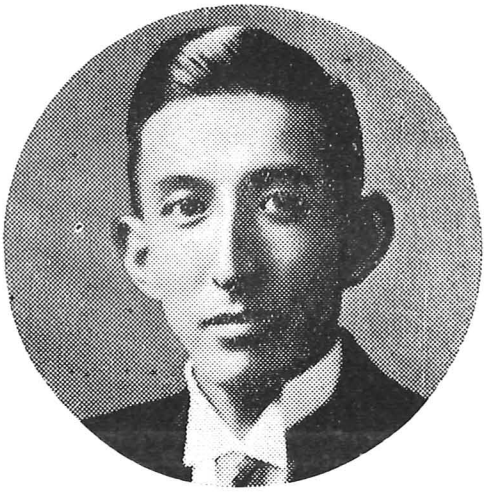


天皇御一家臨幸

午後２時、天皇・皇后両陛下、皇太子殿下、義宮殿下を会場にお迎えすると感激の万才の声が公園に響きわたった。

開会式が始まり、間もなく米国のＢＳ聯盟から贈られた布地にスカウト章を浮き出させ「ボーイスカウト日本聯盟」と書かれた聯盟旗が、中央に三島理事長、右脇に関総主事、左脇に岡本相談役が並び、三島理事長に授与されると、一斉に喜びの拍手が響きわたった。続いて技能発表や競技会が開かれ、特に「やぐら建てゲーム」をご覧いただき皇室ご一家がお帰りになられる時にも、万才の声が高らかにこだました。夜は三笠宮・同妃殿下をお迎えし、大成功のうちに大営火を終了した。

翌日は午前10時から日本聯盟旗を先頭に、有楽町～新橋～銀座～日本橋～宮城前へとパレードを行ない、ＢＳの啓蒙宣伝に努めて、第１回ＢＳ全国大会を無事に終了した。



理事長 三 島 通 陽 氏

③ ボーイスカウト群馬県連盟結成される。

昭和23年７月の第１回指導者講習会修了者で協議し「リーダークラブを結成しよう。どんな苦労や困難があろうと、群馬県下にＢＳを誕生させよう」と誓い合い、各地区で結成のために努力を重ねた。その結果、昭和24年７月16日、星野 宏氏により利根１隊が、33名で結成され正式に登録承認された。以後、伊勢崎１隊、前橋１隊、太田１隊、前橋２隊、利根２隊、佐波２隊、前橋３隊、高崎１隊、佐波１隊、勢多１隊と順次結成された。そこで10隊を超えたので、群馬県連盟結成準備委員会を設立し、委員長に藤井 勲氏（群馬大学事務局長）、副委員長に栗原 博氏（伊勢崎市）準備委員会事務局長に小井戸哲夫氏（前橋市）を選出して、結成にむけて原案作成にあたる。

協議の結果、昭和24年11月６日，前橋公園

ラジオ塔前広場にて、日本連盟より三島通陽理事長を迎え、11隊 286名で式典を挙行し、ここに、待望の群馬県連盟が誕生し発足したのである。

④ ＢＳ指導者公認講習会を各地で開催。

この指導者講習会を顧みると、第１回と第２回は県教育委員会主催で、第３回以後、昭和34年までＢＳ群馬県連盟主催で、ボーイスカウト講習会が28回、カブスカウト講習会が４回実施され、多大なる成果をあげた。

会場は第３回が太田市金山々頂を始め、沼田記念館、一の宮、加葉山、高崎観音山、桐生公民館、嬬恋鹿沢、高崎上野神社、強戸長生館、赤城大沼湖畔、桐生相生、沼田薄根中、敷島公園、伊香保爐花会館、太田公民館、桐生水道山、水上小、伊勢崎豊受公民館等で、

28.9.10　第15回ＢＳ指導者講習会（強戸村長生館）

主任講師は、１回目に今井襄二氏を始めとし関 忠志氏、尾崎忠次氏、藤井 勲氏、星野 宏氏、小井戸哲夫氏、三澤祐長氏、後藤竜堂氏、北条富司等。

カブスカウト講習会は、沼田記念館、桐生相生、太田公民館、高崎観音山を会場に、星野宏氏、後藤竜堂氏、北条富司、金井佐伝氏が主任講師となった。これまでのＢＳ指導者講習会修了者は 603名、カブスカウト62名となる。以後、講習会は継続され、多くの指導者が誕生しているのである。

⑤ 中央特修実習所が開設される。

昭和24年６月に５泊６日でで富士山麓山中野営場にて第１回実習所が開設され、群馬県から小井戸哲夫氏が入所、第２回は群馬からの入所者がなかった。第３回に私が指名され昭和25年４月に６泊７日で入所した。全国より各県代表30名、正服は半数の者が着用してきたが、半数の者は各自まちまちの服装であった。

帽子は黒の略帽が配布され、この実習所の修了者のみ着用できるとのことだった。

講師は日本連盟の三島通陽氏、古田誠一郎氏、尾崎忠次氏の３名で、終始講議・実技・ゲーム等、かなり高度であった。

ボーイスカウト日本連盟

指導者養成要員

乙種適格証

財團法人ボーイスカウト日本連盟

總長　三島通陽

修了証を授与された時の喜びは 一入（ひとしお） であり、これからも一層ボーイスカウト教育に専念しようと決意を新たにしたことが思い出されるのである。

特修実習所の昼食のひととき

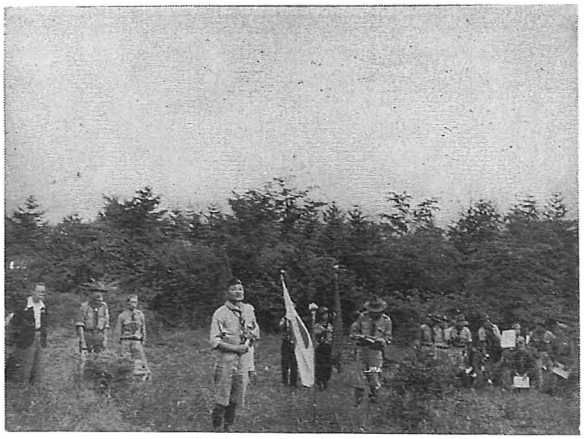
⑥ 群馬県連盟結成記念式典を順次開催。

群馬県連盟結成以後、昭和25年11月５日に高崎公園にて結成１周年話念式典を開催し、多大なる功績者ロック・カルパンチェ氏に初めての県連感謝章を授与した。続いて２周年記念式典を昭和26年11月４日に、太田市東山球場で、昭和27年には３周年記念式典を高崎南小、同28年には４周年を桐生市にて開催し９周年まで各地区で開催した。節目の10周年を昭和34年11月８日、沼田西小学校で行ない継続登録10年以上の11団を表彰する。（該当団は、沼田１団、前橋１団、伊勢崎１団、太田１団、沼田３団、桐生２団、桐生７団、伊香保１団、藤岡１団、伊勢崎５団、伊勢崎６団の11団である）

その後、15周年記念式典を最後に新しい構想に切替えられて、記念式典は開催されなかった。

昭和28年11月　県連結成４周年記念大会　桐生市

県連結成４周年記念大会 桐生市街パレード



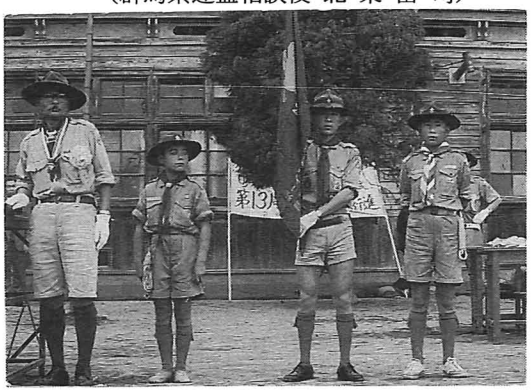
昭和28年 全群馬ＢＳ関東招待野営大会　新鹿沢

⑦ 昭和25年以後開催された各種大会。

群馬県連盟は、前述した第１回全群馬ＢＳ大会を初めとして昭和34年８月21日～23日ほで11回の大会を県内各地で開催し、多大の成果をあげ、以後も充実した大会を実施している。また国際復帰関東地区大会・第２回全日本ＢＳ大会は新宿御苑や第３回全日本ＢＳ大会は山形県蔵王山麓で開催され、さらに第１回日本ジャンボリーが長野県軽井沢、関東キャンポリーが千葉県銚子、第２回日本ジャンボリーが滋賀県餐庭（あいば）野にて開かれ、群馬県下各団より参加して立派な演技・ゲーム・技能発表等を披露した成果と実績は実にすばらしかったのである。

以上で胎動期より10年を回顧して記述したが、紙面の都合で言い尽せなかった部分、内容も当時の記録・写真・メモなどを基としたので多少の誤差があるかと思うが、お許しいただき筆を置く。

（群馬県連盟相談役 北 条 富 司）



10年のあゆみ

（40周年記念誌以降）

平成元年度（1989年）

◦ボーイスカウト群馬県連盟創立40周年を記念して、第23回群馬県連盟野営大会が8月12日～15日まで、尾瀬戸倉スキー場にて開催された。この野営大会は「スカウトの祭典」としてビーバースカウトやカブスカウトは近くのホテルに分宿して参加。ボーイスカウト・シニアースカウト・ローバースカウト・本部スタッフと併せて2,407名が参加した。

本大会のイベントとして熱気球、ミニＳＬ、パラグライダー、尾瀬ハイキング、警察本部音楽隊の出演等により盛大に開催。

◦10月22日、前橋市群馬県青少年会館において、群馬県連盟創立40周年記念式典が、来賓及び団代表130名の参加を得て挙行された。

式典中、長年にわたり本連盟の指導者として今日の発展に尽力された133名の方々に感謝状の贈呈があり、終りに「花は薫るよ」を全員で声高らかに斉唱し、次の50周年への10年の道程へ力強い第一歩を踏み出した。

40周年式典　根岸理事長の挨拶

平成２年度（1990年）

◦カブスカウト部門の新制度への移行説明会が、県内４地区で開催された。

平成２年度県連盟総会が６月３日開催され総会後、この秋より改定される新ユニフォームが披露された。

◦８月３日より５日間、新潟県妙高高原に於いて第10回日本ジャンボリーが開かれ、32,000名が参加。群馬県連盟、奉仕スタッフ42名・本隊497名が参加し、「友と語り、自然と語る」をテーマにスカウト技能を競い合い交流を深めた。

◦第５回リーダーフォーラムが「仏教から見たスカウティング」を題材に10月28日、県青少年会館で41名の参加を得て開催。県教育委員長・迦葉山住職羽仁素道先生をお招きし、「従人観美」の演題で基調講演をして頂いた。

新ユニフォームが紹介された年次総会

第10回日本ジャンボリー３ＳＣ朝礼

◦11月７日、群馬県連盟 星野 宏 先達逝去。

12月16日、星野 宏 先達を偲ぶ会を伊香保福一旅館にて、県内外より65名の方々が集い星野先生の遺徳を偲んだ。

星野先達のご遺徳をしのんで

平成３年度（1991年）

◦５月16日に開催された第７回群馬カブラリーは「デッカイ デン 遊びは栄養」をテーマに1,500名が参加。桐生市中央公園で開会式、水道山では挑戦ゲームを楽しんだ。

◦８月６日韓国ソラクサン国立公園において第17回世界ジャンボリーが130ケ国のスカウトが集まり開催された。本県から40名が参加し、世界各国のスカウトと交流した。

◦群馬県連盟長 清水一郎 県知事は６月12日に逝去された。ボーイスカウト群馬県連盟の４代目連盟長として昭和51年次県連盟総会で推戴されてより15年間ご指導を戴きました。

10月には５代目連盟長に小寺弘之群馬県知事を推戴した。

◦８月14日より石川県能登島にて第５回群馬県シニアースカウト大会が行われ、「アドベンチャー能登」をテーマに総勢119名が参加。無人島でのサバイバルキャンプ・島内移動キャンプなどのプログラムにチャレンジした。

第７回群馬カブラリー　桐生で開催

平成４年度（1992年）

◦第10回富士スカウト顕彰が３月25日東宮仮御所へ参殿し、皇太子殿下のご接見を賜り、次いで文部大臣表敬訪問の後に総理大臣官邸で、宮沢喜一内閣総理大臣から励ましのお言葉を戴いた。

今年は全国から164名の富士スカウトが参加。群馬からも５名のスカウトがこの名誉ある富士顕彰に参加した。

◦「未知への挑戦」を合言葉に“日本ベンチャー92”第３回シニアースカウト大会は８月３日より８日間、真夏の太陽のもと、滋賀県今津町餐庭野にて熱き大会となった。

本県からはスカウト・指導者103名が参加。18の活動基地に各々２名１組のバディで集結し、希望のプログラムに沿って力一杯青春を謳歌、Bigな夏となった。

韓国で開かれた第17回世界ジャンボリー

日本ベンチャー92″の大会広場

◦「9／12キャンペーン」

初めての学校週5日制が実施された9月12日（第2土曜日）4地区において多彩な行事が展開された。6月の県連盟年次総会において、県教育委員会は学校週5日制に関する対応をボーイスカウトにも協力要請。県連盟はコミッショナーグループを中心に研究集会を重ね、熱心な討議が続けられた。

色々な問題が提起されたが各地区とも前向きの姿勢で対応し、地区・団ともにバラエティに富んだ楽しい集いを展開した。

9/12キャンペーンで楽しい集い

平成5年度（1993年）

◦平成5年度全国会議において、桐生第17団ボーイ隊は日本連盟より「公共奉仕綬」を受賞した。

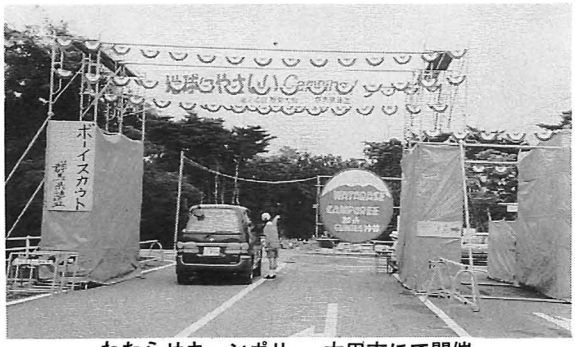
当団は昭和58年より10年間、毎年12月を奉仕月間と定め、スカウトが製作した門松を、ＪＲ桐生駅と東武新桐生駅に毎年送り続けて来た。なお群馬県連盟は昭和63年度年次総会で「善行綬」を贈呈している。

桐生第17団「公共奉仕綬」を受賞

◦**第24回県野営大会開催**

8月13日より4日間「わたらせキャンポリー」の名称で太田市郊外の渡良瀬川河川緑地公園にて、県内各地区のボーイスカウト及び指導者、スタッフ約800名の参加により開催された。

大会は、今日世界的な問題である地球環境を取り上げ、テーマを「地球にやさしいCamping」として、野営生活における自然との対話が出来る、やさしい心の育成と、限られた野営地で創意工夫を引き出すよう、期待を込められた大会となった。



わたらせキャンポリー　太田市にて開催

◦技能章考査員・技能章指導員122名に委嘱状、スカウトの技能向上の支援として、念願であった「技能章考査員・指導員」が誕生。今後、スカウトの進級に対しての貢献が期待されることになった。

平成6年度（1994年）

◦**第8回群馬カブラリー開催**

晴天に恵まれた5月29日、東毛の太田市運動公園を会場とし、第8回群馬カブラリーを実施。「風雲金山城」に集結した軍勢は、スカウト1,050名、指導者＆スタッフ590名、来

「風雲金山城」の第8回群馬カブラリー

賓50名の合計1,690名が参加して、盛大に開催された。

行方不明になった金山城主の娘「ピーチ姫」をカブ忍者が救出するというストーリーを持ったものとし、カブスカウト＆指導者は全員忍者姿に変身し作戦を展開。忍法城壁登り、猿橋の術、にょろにょろの術等、普段の訓練を活かしたアイディア溢れる12の難関を突破して、クリアー章を手にすると言う冒険とストーリー性に富んだ構成により、スカウト達は楽しい一日を過ごした。

◦第11回日本ジャンボリー

８月３日より７日を会期とし、九州阿蘇・久住国立公園の大草原を舞台にした第11回日本ジャンボリーは、全国より３万人余のスカウト、海外からも24ケ国500名の外国スカウトが集う大会となった。群馬県からは、選抜された460名がバス11台を連ねて参加し、野外活動を通じて日頃の訓練の成果を発揮し、全国のスカウト、外国スカウトとの交流により相互理解と国際親善に努め、８日間の日程を消化して一段と逞しくなった姿で、全員無事に帰郷した。

今回のジャンボリーでは、埼玉・茨城・栃木・群馬の４県で第３サブキャンプ（３ＳＣ）を構成し、新藤信夫理事長が３ＳＣの野営長となり、先発隊として会期前より現地入りして活躍された。

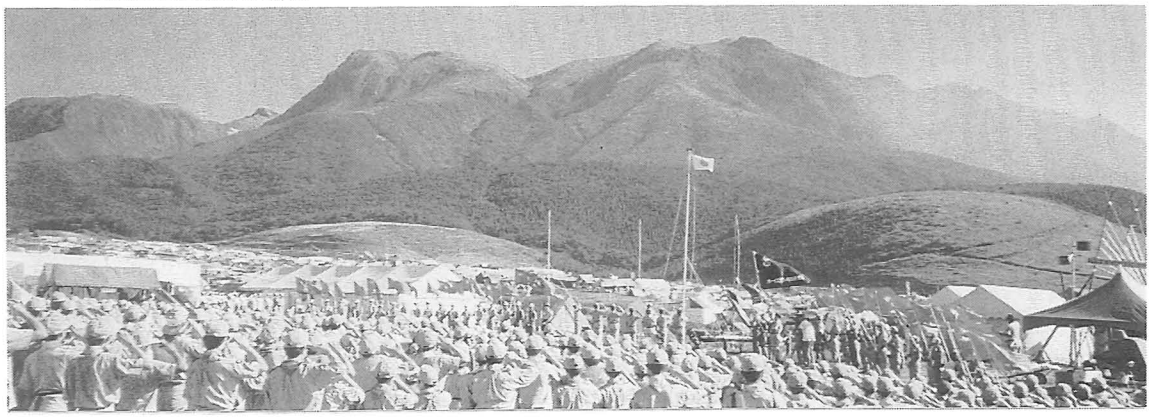
このジャンボリーのテーマは「蒼き草原より、未来へ」－地球にやさしいジャンボリーを目指そう－ のもと、阿蘇・久住連山を背景に雄大なジャンボリーであった。

「風雲金山城」のゲームに興じるカブ達

第11回日本ジャンボリーのメイン売店街

第３サブキャンプゲート前

九住高原の山なみに敬礼



◦群馬テレビにスカウト登場

12月12日（日）、群馬テレビの「ふるさと群馬」の番組中、ボーイスカウト活動が広く県内に紹介の放映がされた。これは群馬県教育委員会が企画し提供したもので、11月20日太田市渡良瀬川河川緑地公園にてＶＴＲの収録があり、太田地区のビーバー隊、カブスカウト隊、ボーイスカウト隊、シニアースカウト隊及び指導者約200名が参加、「アウトドアーに学ぶ」のタイトルにより終日撮影が行われた。この度の放映を見て地域社会の人々がボーイスカウト運動を理解し、この運動の支援者となって頂けるよう期待したい。

群馬テレビ　スカウト活動を収録

平成７年度（1995年）

◦「阪神・淡路大震災に救援奉仕」

平成７年１月17日に発生した阪神・淡路大震災は多くの死傷者、被災者を出し、ボーイスカウト関係者も被害を受けた。

この震災に対し群馬県連盟は、県内のスカウト関係者に義援金を呼びかけ、百数万円の浄財が寄せられた。また救援活動にも参加して55名が奉仕に当たった。

この大震災が災害時のボランティア活動を活発にした。

オランダで開催の世界ジャンボリー

◦「第18回世界ジャンボリー」

第18回世界ジャンボリーは、オランダのドロンデン市周辺にて「未来は今」のテーマのもと、８月に開催された。日本よりの派遣隊は総勢1,236名で、群馬より29名のスカウト・指導者の参加であった。

無人島探険した第６回県シニアー大会

◦「第６回県シニアースカウト大会開催」

８月12日～15日の４日間、三重県鳥羽市と伊勢市で開催。スタッフ18名、スカウト82名が参加。 伊勢神宮境内にて行われたスカウツウォンは、奇しくも８月15日の終戦記念日であった。

◦「女子スカウトの活動状況」

ボーイスカウト組織における「全部門への女子の加入」がついに、平成７年５月の全国会議にて決定され、全国各地で募集活動が始まった。群馬県連盟でも平成７年４月より登録受付を開始し、女子スカウトの積極的な参加、募集を各地に呼びかけた。

シニアー大会での楽しかった営火

平成８年度（1996年）

◦日本連盟より、県知事 小寺連盟長へ「たか章」が伝達

ボーイスカウト日本連盟は６月９日、小寺弘之知事にスカウト運動への特別功労章「たか章」を伝達した。「たか章」はスカウト運動に対する功労者に贈られる功労章の一つ。これまで本県の25人が受章、歴代知事では神田坤六知事（昭和40年）に次いで２人目。

同連盟は「知事の立場から青少年の健全育成に尽力し、ボーイスカウト県連盟長としての熱心な支援と協力に感謝の意を表したい」としている。

県庁内で行われた伝達式で、根岸努ボーイスカウト県副連盟長ら４人が出席。知事に「たか章」のメダルと感謝状を手渡した。

◦「第４回シニアースカウト大会」

日本ベンチャー'96が８月、島根県三瓶山山麓を主会場に開催され「未知への挑戦」をテーマに3,500名のスカウトが数々の冒険や新しい体験に挑み、創意と工夫を凝らした活動を展開した。

大会プログラムは主会場と岡山・広島・山口等広範囲な活動基地になりワイドな大会となった。

◦９月15日「スカウトの日」

全国のスカウトが一斉に地域社会へ奉仕活動をする日として毎年実施されている。

群馬県連盟は、46ケ団、1,570名のスカウト・指導者の参加による「カントリー大作戦」（空き缶取り）を中心に各地で元気なスカウトの活躍が繰り広げられた。

10月、第34回群馬県身体障害者スポーツ大会
10月、ぐんまゆうあいスポーツ大会96
11月、スポレク'96群馬大会開会式
11月、県民マラソン等、前橋地区のベンチャースカウトが中心に４地区のベンチャースカウトが大会の支援奉仕を毎年行っている。

平成９年度（1997年）

◦「第９回カブラリー開催」

「いってみよう、やってみよう、観音ワールド」をテーマに５月25日、高崎市観音山周辺を会場に実施された第９回群馬カブラリーは一般の子供達の参加を含めて約2,300名と

小寺連盟長に「たか章」伝達

日本ベンチャー96″のテント村

「カントリー作戦」で大活躍

各種大会に支援奉仕をしているシニアー

なり楽しいイベントとなった。

会場は５つのゾーン別れ、各ゾーンの砦で通行印の獲得、ポイントを探してその文字を記録、クイズ、ゲーム、観察、歴史探訪にチャレンジ。今回は特に高崎市児童文化スポーツ連合会との合同行事となり、一緒に参加した市内の小学生や父兄、ガールスカウトとの交流が図られ有意義な大会となった。又前日より63名のスカウトは高崎地区のスカウト宅にホームステイをさせて頂き、受入れ先の家族との交流を行い、思い出の良きページになったことと思う。

高崎観音山で「第９回群馬カブラリー」

◦「日本連盟創立75周年記念事業」

４月13日、日本連盟ボーイスカウト会館において、オープニング式典が行われ、各種記念事業がスタートした。

自転車全国一周友情リレー４地区がそれぞれの日程で担当。隣の県連盟にバトンタッチ。４輪駆動車全国キャラバン隊が県内を快走した。

県青少年会館をスタートする自転車ラリー

自分たちで出来る国際貢献として、パキスタン・アフガニスタン難民の子供達へガールスカウトと共同でピースパック・プロジェクトを展開した。

75周年記念中央式典は10月12日、皇太子殿下ご臨席のもと、全国各地より2,000名余のスカウト・指導者・関係役員が、東京都日比谷公会堂大ホールで開催された。群馬県連盟は、４地区よりスカウト17名・指導者19名がバスを仕立ててこの式典に参加した。

75周年記念中央式典レセプション

◦「第４回 関東キャンポリー＆
第25回県野営大会開催」

この大会は８月２日より６日までの間、榛名山麓の相馬原において開催され、北関東４県連盟合同で約5,000名のスカウト・指導者が一堂に集い、各種のプログラムに喜々として参加していた。開会式には、小寺県知事がご出席され、激励のご挨拶を頂いた。

期間中は機知に富む出し物の大集会、愉快な中にも荘厳さを漂わせていた大営火、パイオニア章を胸に下げ、笑顔と歓声で迎えた閉会式。スカウト達は４泊５日のこの大会を満喫していた。

第４回関東キャンポリーでの群馬スタッフ

平成10年度（1998年）

◦「第16回 富士スカウト顕彰」

3月23日、日本連盟ボーイスカウト会館で、27県連盟より160名の富士スカウトが顕彰の栄誉を受けた。翌24日には東宮御所にお伺いし、皇太子殿下より親しくお言葉を頂いた。本県よりは、太田第10団 飯塚利昭君・群馬町第1団 松井良介君の2名が出席。

県スカウト顕彰は、4月6日群馬県庁知事室において富士スカウト・隼スカウト8名が出席して小寺県知事よりお祝いと激励のお言葉を頂いた。

群馬県知事顕彰でお祝いを受けるスカウト達

◦「第12回 日本ジャンボリー」

8月3日から7日まで第12回日本ジャンボリーが、秋田県森吉山麓高原にて開催された。全国各地より2万7千名のスカウトを集め、海外からは33ケ国の外国スカウト・ガールスカウト等が参加し、ブナの原生林・大自然を舞台に開幕された。

群馬県連盟は6月21日に派遣団結団式を挙行。参加総数441名（参加対9ケ隊・360名、奉仕隊30名・運営スタッフ51名）の派遣団が組織され、バス11台を連ねて参加し、森吉山麓の大自然の中で、野外活動を通じて外国スカウト・全国のスカウトと交歓をして相互理解と国際親善に努めた。大会期間中は雨が多く設営・プログラムへの挑戦、撤営時にも残念ながら森吉山の美しい姿を見ることが出来ずに終わってしまった。

12ＮＪアリーナでお国自慢の演技を披露

会場は山や丘が連なる起伏の激しい斜面のサイトの厳しい立地条件・気象条件・自然環境などの困難をそれぞれのチームワークでカバーしあい、大会の全日程をクリアーすることが出来た達成感は参加したスカウト一人一人、大きな自信につながったことであろう。

地盤がわるく木道を布設した３ＳＣ

◦「第19回 世界ジャンボリー」

12月19日より南米のチリで開催された第19回世界ジャンボリーは、群馬県より前橋第3団 堀口修嗣君ら3名のベンチャースカウトが参加し、出発前には皇太子殿下と会見しブラジル入りし、世界各国のスカウトと交流し、素晴らしい体験をした。

ジャンボリー旗集団アリーナ会場へ

平成11年度（1999年）

◦「小寺連盟長特別講演」

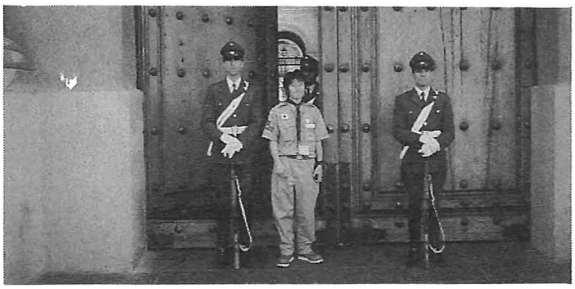
4月18日、前橋市群馬県青少年会館において平成11年度リーダーフォーラムが開催され150名を越える指導者が参加した。テーマ「2004年のスカウティング」でグループ討議が行われ、午後1時より小寺連盟長（県知事）による「生きる力～未来の群馬のこどもたち」の演題による基調講演は、20世紀の評価と21世紀に向けた抱負を語られ自然環境、県政、教育等、多岐にわたる講演内容であった。

◦「第7回県ベンチャースカウト大会」

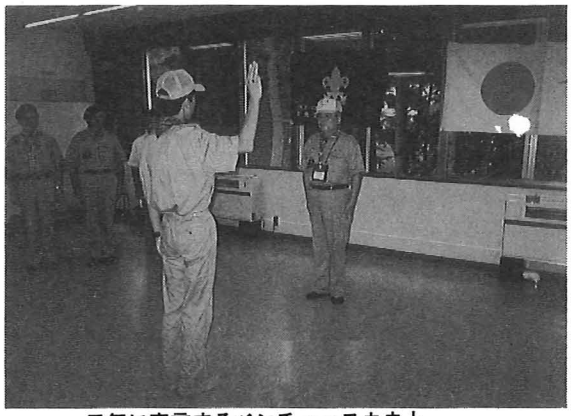
県連盟創立50周年を記念して県ベンチャースカウト大会は、8月12日から15日にかけて「熱く語ろう会津磐梯の夏」のテーマにより福島県磐梯猪苗代・会津若松市周辺で開催された。国立磐梯青年の家を主会場に、95名のスカウト・指導者が参加。群馬の各地よりスカウトたちは2人1組のバディを組んで、会津磐梯めざして自転車で、あるいはJR青春18切符を利用し、北陸を旅しながら思い思いの計画で現地入りした。

昨年、シニアースカウトからベンチャースカウト部門に正式移行して、「ベンチャースカウト大会」と大会名称が改められた今回の大会は、スカウト相互の友情を深め、新しい体験や視野を広げる活動に挑戦し自分の将来に役立てて行くことを目標にした。裏磐梯休暇村キャンプ場を活動基地Aとし、一般のキャンパーとの交流・自然環境体験を目的に開設。歴史の町、会津若松市を活動基地Bとし、幕末の戊辰戦争で西軍と戦った会津藩の歴史を探訪した。

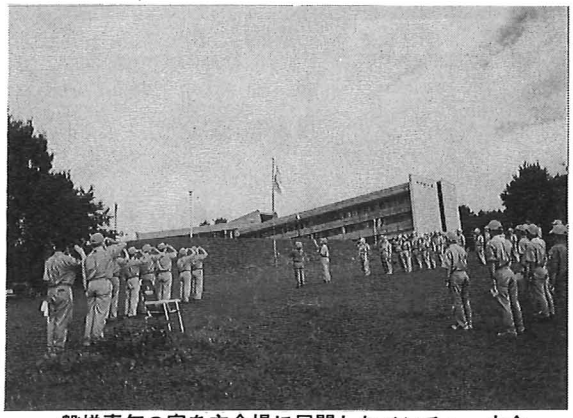
悪天候によりやむなく一部日程に変更があったが、スカウト達は熱く語り合い友情を育みあいながら、来年九州大分県で開催される、第5回日本ベンチャー大会に思いを巡らせていた。



チリで開催された19回世界ジャンボリー



元気に宣言するベンチャースカウト



磐梯青年の家を主会場に展開したベンチャー大会

熱く語り合い友情を育んだ営火

委員会活動

組織・拡張委員会

この50年の間には、様々な変化がありました。

名称は、年少隊・少年隊・年長隊・青年隊がカブスカウト隊・ボーイスカウト隊・シニアースカウト隊・ローバースカウト隊になり、ベンチャースカウト隊となりました。

又、登録は、隊登録であったのが、昭和33年より団登録になり、平成3年より、今まで手書きで処理していたのが、コンピュータ化されました。

加盟員数は、昭和24年、11隊・278人でスタートした群馬県連盟も昭和62年の4,995名を頂点に減少し、平成10年には、3,724名になってしまいました。

＜委員会活動＞

平成元年度　委員長　島田保彦
　団数　69団　　加盟員　4,382人
　◦加盟員の拡充（めざせスカウト5,000名）
　　スカウト運動の素晴らしさを社会に広め、加盟員あげて絶えず努力する。

平成2年度　委員長　松井　隆
　団数　64団　　加盟員　4,124人
　◦ビーバースカウト隊の増設
　　スカウト運動の導入部門であるビーバースカウト隊を全ての団に設置するよう努力する。
　◦メリッツバッジ贈呈
　　スカウト並びに指導者が新規加盟員を勧誘した数に応じてメリッツバッジを贈呈する。

平成3年度　委員長　松井　隆
　団数　64団　　加盟員　4,075人
　◦スカウトクラブの設立
　◦登録事務のコンピュータ化への対応

平成4年度　委員長　松井　隆
　団数　63団　　加盟員　4,018人
　◦加盟員の拡充をはかる
　◦委員会の機能を活性化する
　◦スカウトクラブの設立を促進する

平成5年度　委員長　松井　隆
　団数　62団　　加盟員　3,992人
　◦ボーイスカウト運動の普及と加盟員の拡充をはかる。
　◦団内の上進率100％を目標に努力する。

平成6年度　委員長　松井　隆
　団数　61団　　加盟員　3,816人
　◦スカウト運動の説明マニュアルの作成
　◦団内の上進率100％を完遂する

平成7年度　委員長　吉井良弘
　団数　61団　　加盟員　3,839人
　◦団内の上進率100％を完遂と前年度比1名増員の推進

平成8年度　委員長　吉井良弘
　団数　60団　　加盟員　3,800人
　◦地域社会と連携し、この運動の普及に努め、未組織地区の開発を図る

平成9年度　委員長　吉井良弘
　団数　57団　　加盟員　3,720人
　◦未組織地域の新団開拓

平成10年度　委員長　中嶋正義
　団数　57団　　加盟員　3,724人
　◦カブスカウトをボーイスカウト隊へ全員上進させよう
　◦中途退団者を減らそう
　◦「ステップ・アップ・スカウト運動21世紀」がスタート

10年を振り返ってみますと、組織・拡張委員会として「メリッツバッジ贈呈」・「団内の上進率100％を完遂と前年度比1名増員の推進」等色々な事を試みましたが、5,000人に手が届く加盟員であったのに年々減少し3,724名になってしまいました。原因は中途退団にあることがわかりましたので、一度入団したスカウト・指導者を継続して頂くように内部調整をして行きたいと思っています。それには、各団の協力が必要です。新規入団は今まで通りに、そして退団者を減らす、そうすれば55周年には5,500人になるでしょう。
皆様のご協力をお願い致します。

組織・拡張委員長　中嶋正義

「指導者の資質の向上をめざして」

指導者養成委員会

1907年ブラウンシー島での実験キャンプ、そして翌年の「スカウティング・フォア・ボーイズ」の発刊によりスタートしたボーイスカウト運動は青少年のための教育であると同時に、それをボランティアとして支える成人のための教育も重要視していました。

ロンドン郊外のギルウェル・パークに指導者訓練センターが創立されたのは、1919年のことでした。以来80年におよぶ様々な試行錯誤のなかで確立された指導者訓練体系は本運動の大きな特徴でもあり、また本運動への信頼を高めるものでもありました。

個人として成人指導者が研修すべき要素は3つあります。それは知識と技能と心構えです。

(1) 知識：スカウティングの基本原理他
(2) 技能：野営法、読図、ソング・ゲーム他
(3) 心構え：豊かな人間性、人間関係他

この3つの要素ごとに目標を設定し、様々な機会を利用して研修することが必要です。

具体的には5つの研修の機会があります。

(1) 自己研修：書籍や関係資料の活用、趣味や娯楽などスカウト技能以外の技能修得。
(2) 個別支援：所属団の団委員長や先輩指導者、コミッショナーさらにスカウト関係者以外からの指導助言。
(3) 定型外訓練：参加者の経験・技能そして立場に応じたプログラムを設定した訓練。
(4) 定型訓練：指導者訓練と成人指導者訓練とに分けられますが、一般的に指導者訓練コースと呼ばれるもので導入・基礎・上級と段階的な指導者訓練体系が定められています。
(5) 課題研究：個人またはグループで特定の課題を決めての研究。

以上5つの要素をあげましたが、自己研修を基本として指導者としての実務を行いながら、ラウンドテーブルや定型外訓練に積極的に参加し、さらに段階的に定型訓練に参加することが大事であると思います。

さて、指導者養成委員会ではこれらの指導者の研修を支援するために、次の三つの方針を掲げました。

(1) 継続的な指導者養成計画を確立し、指導者確保の施策を図る。

日本連盟の指導者訓練体系のもとで、導入訓練としての指導者講習会、基礎訓練としてのウッドバッジ研修所が開設されました。指導者講習会は平成2年より随時開催ではなく、4地区が担当し年4回開催されました。

また研修所は平成2年から11年の間ＢＶＳ課程が10回、ＣＳ課程が10回、ＢＳ課程が9回、ＳＳ課程が3回、団運営が3回開催されました。他県連開設の研修所や日連が開設する実修所・トレーナーコースなどにも多くの方が参加されました。

(2) 指導者の資質の向上。

定型訓練を補完するための定型外訓練も実施されました。特に、平成10年度からは地区毎に独自の計画を立てて実施し、県連単位では指導者の資質の向上と交流と親睦をテーマにリーダーフォーラムを開催しました。

(3) コミッショナー及びトレーニングチームとの連携強化。

指導者がより必要とする訓練ニーズをつかみ、より的確な訓練を提供するためには、コミッショナー及びトレーニングチームが研修の場を設営し、トレーニングチームが研修にあたるという連携が確立されてきました。

さて、平成10年度から新しい指導者訓練体系が導入されました。これは1993年、第33回世界スカウト会議において採決された21世紀に向けての5つの「スカウティングの戦略」の一つである「ワールド・アダルト・リソーシス・ポリシイ（世界成人資源方針：以後アダルトリソーシスという）」をもとに行われました。

アダルトリソーシスという言葉ですが、ちょと聞き慣れない感じが皆さんすると思います。簡潔な言葉で表せば「人材開発と人材管理」ということです。

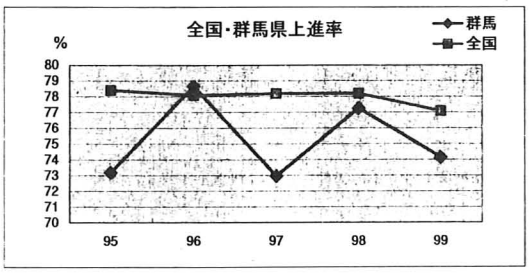
この運動を支える成人（隊指導者、団委員、育成会員そして地区・県連その他の役員等々）の確保、任命、教育、評価、更新、配置変更、退任のプロセスを明確化することでもあります。アダルトリソーシスの考え方のもとで多くの人材が確保され、いろいろな活躍の場ができることは、隊指導者を始めとする様々な立場の人々の質が向上することです。青少年の成長に貢献するために、どのような体制を整えることができるか、それがまさに成人の責務であると考えます。

平成元年～２年度委員長　森田恒夫
平成３年～８年度委員長　稲垣　稔
平成９年～10年度委員長　今井健介
平成11年度委員長　彦部雪夫

進歩委員会

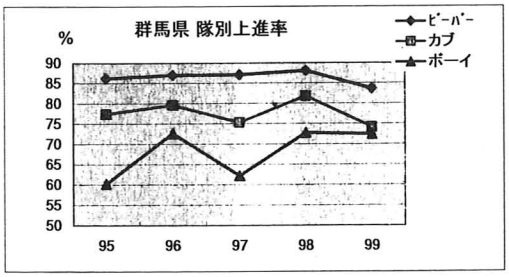
県内の進歩状況は、新藤理事長より報告された「群馬県連盟の現状と課題」（H11年６月20日）の上進率及び部門別上進率を見ていただくと、一目でその状況が理解いただけると思います。

《上進率図》



	ビーバー	カブ	ボーイ
95.03	86.23	77.45	60.21
96.03	86.96	79.58	72.6
97.03	87.1	75.33	62.21
98.03	88.07	81.82	72.78
99.03	83.64	74.19	72.41

	群馬	全国
95.03	73.2	78.42
96.03	78.66	78.09
97.03	72.97	78.19
98.03	77.27	78.20
99.03	74.16	77.09



当進歩委員会としては、長い期間に亘り、菊スカウト・隼スカウト・富士スカウトの進級に重点を置いた委員会活動を展開して参りました。

	菊	隼	富士
平成３年度	35名	２名	２名
４年度	14名	９名	５名
５年度	21名	16名	１名
６年度	22名	１名	１名
７年度	15名	６名	１名
８年度	17名	13名	０名
９年度	22名	13名	３名
10年度	13名	４名	０名
11年度	22名	４名	０名

近年における県連の重点目標であるスローガンの中でも

平成３年度　みんなで一級スカウトを育成
４年度　一級スカウトを育てる
５年度　一級スカウトを育てる
６年度　団内の各隊の上進率100％を完遂する
７年度　上級スカウト顕彰の実行
８年度　富士・隼スカウトを育成し、顕彰を行う
９年度　スカウトの資質と上進率の向上
10年度　カブスカウトをボーイスカウト隊へ全員上進させよう
11年度　中途退団をなくす運動の展開

という具合に進歩に関する重点項目が毎年実践されて参りました。

「進歩の手引」のはじめには『きみは班の仲間と一緒に、スカウティングの技術を習い…スカウティングには様々な楽しみがあります。

このような活動を続けているうちに、きみがまもなく大人になった時に必要な、大切な事を身についけていくものです。それは、体も心も強く、正しく立派な人格をもち責任を果たす力がついて、他の人々に役立つ能力を養えるのです。』と記されています。

このように、スカウトとしての成長は、その一つひとつが大人としての人間的な成長を意味することです。従って、スカウト自身の上進意欲に欠けることは、人間的成長を放棄することにもなり生きる喜びや充実した人生の創造に重大な影響を及ぼすこととともなります。

ビーバースカウトからカブスカウトへ

カブスカウトからボーイスカウトへ

ボーイスカウトからベンチャースカウトへ長期間の在籍となりますが、継続登録で氏名のないスカウトになってはアンケートを送付して退団スカウトの意志を聞いてみたらいかがと思います。というのは、最近本屋さんの店頭で目立つ場所にアウトドア関係の雑誌や書籍が数多く並べられている様子から、なぜスカウト活動を敬遠するのか不思議に思います。

今テレビを通して見る青少年達の姿や行動はスカウトの面接において受ける印象とは、大きな隔たりを感じています。スカウト活動での身心の訓練は、必ず将来の人生に豊かな実りを約束してくれるものと信じております。

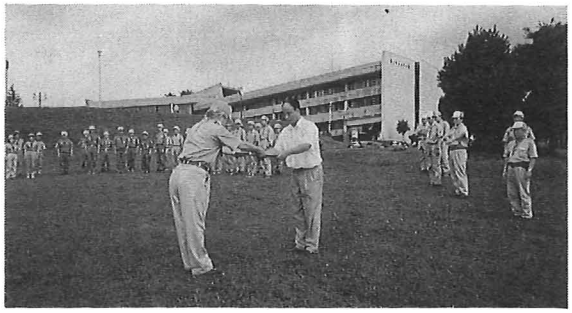
進歩委員長　小暮雅丈

第10回富士スカウト顕彰
内閣総理大臣表敬訪問記念　平成４年３月25日

野営行事委員会

野営行事委員会の会議そのものは、年３回程でしたが、その他行事の運営委員会としての会議が殆どでした。

野営・行事はこの10年でかなり行事が定着してきたと思います。３年に一度のカブラリー、



４年に一度の県野営大会、そして３年に一度のシニアー（平成11年度よりベンチャー）大会、毎年行われているシニアースカウト（平成10年度よりベンチャースカウト）トレーニング、各地区持ち回りで参加している日米フレンドシップパトローリー、そしてＧＳ・ＢＳ交歓会、心身・身体障害者スポーツ大会奉仕など、これらの行事・奉仕も大勢の指導者のご協力があったからやって来られたのだと思います。ここに紙面をお借りし深く感謝申し上げます。

次に平成元年より平成10年までの行事の内、主立ったものを見てみますと、平成元年度は第10回日本ジャンボリーが平成２年度に開催されるため10ＮＪ準備委員会が発足し、準備等が行われました。

平成２年度は、第10回日本ジャンボリーが開催され、８月３日～７日の５日間、新潟県妙高高原で「友と語り自然と語る」をテーマに、本連盟より497名のスカウト並びに指導者が参加して盛大に開催されました。

平成３年度は、第７回群馬カブラリーを桐生水道山公園一帯で開催し、第５回県シニアースカウト大会を８月14日～17日まで石川県能登島で開催し、121名が参加しました。また韓国で行われた第17回世界ジャンボリーに本連盟より、指導者４名、スカウト36名が参加しました。

平成４年度は、８月３日～10日まで滋賀県餐庭野（あいばの）で行われた第３回シニアースカウト大会に、指導者15名、スカウト86名が参加しました。また、第10回県民スポーツ大会が前橋県民スポーツセンターで、心身障害者大会が伊勢崎陸上競技場で、第30回身体障害者大会

が赤堀町ふれあいスポーツプラザでそれぞれ開催され、多数の指導者、スカウトが奉仕しました。

平成５年度は、第24回群馬県野営大会が８月13日～16日までの３泊４日で太田市の渡良瀬川河川敷で、785名が参加し盛大に開催されました。

平成６年度は、第８回カブラリーを太田陸上競技場で開催し、カブスカウト・ビーバースカウトの1660名が参加して盛大に開催されました。また、第11回日本ジャンボリーが８月３日～７日まで大分県久住高原で開催され、本連盟より450名が参加しました。

平成７年度は、県シニアースカウト大会を三重県鳥羽市の無人島と伊勢市において開催し、往復の挑戦キャンプでは２名一組のバディを組み、長いバディは12日間、短いバディでも６日間の挑戦キャンプ生活をエンジョイしました。また、第７回アグーナリーが７月26日～30日まで妙高高原で開催され、太田第77団のスカウトが参加しました。

平成８年度は、第４回シニアースカウト大会が８月１日～７日まで島根県三瓶山で開催され、本連盟よりスタッフ及びシニアースカウト46名が参加しました。

平成９年度は、日本連盟創立75周年・世界スカウト運動90周年ということで、「視野をより広く」のテーマのもとに中央記念式典・自転車全国一周友情リレー・ランドローバーによる全国キャラバンが行われ、県内では自転車が４コース、キャラバンが１コース実施されました。また、これと一緒に難民救済募金も行われ、沢山の人達の協力を得る事が出来ました。８月２日～６日まで第４回関東キャンポリーが相馬ケ原で開催され、併せて第25回群馬県野営大会も行われました。

平成10年度は、第12回日本ジャンボリーが秋田県森吉山麓に於いて８月２日～６日まで開催され、本連盟からスカウト・指導者441名が参加しました。

今、10年を振り返ってみて、一つの行事を実施するために大勢の人達の協力と、ご奉仕があったからやってこれたのであり、ここに改めて感謝と敬意を表したいと思います。

野営行事委員長　川山豪彦

健康安全委員会

私達スカウト活動において、一番大切な事である“健康と安全”、常日頃から心する点であり、「いつも元気」でありたい。

日頃活動の中で、“健康と安全”を念頭に置き、一層の効果が現れる、プログラムを作り、如何に実行するか、指導者全員が無事故を願いながら、慎重に指導している。

事故を考えたとき、救急体制や補償問題等で不安になり、スカウトの行動を制限しがちになるが、安全にスカウト活動が出来ることが、スカウトに携わる全員の願いでもある。

今までも安全対策をいろいろ施してきたが、救急法の講習会への参加や傷害保険への加入によって、万が一に備えてきたが、安全対策には今まで以上に力を入れていかなければならない。救急法の講習会はもとより、事故を未然に防ぐ安全管理体制の充実を計るべきである。指導者が安心して活動を行い、プログラムの実施に全力を注ぎ、スカウト達の体を鍛え、技術を身につけ、これからの社会に貢献する若者を育てていく為にも、安全な集会が出来る環境を造っていくことが重要になってくる。

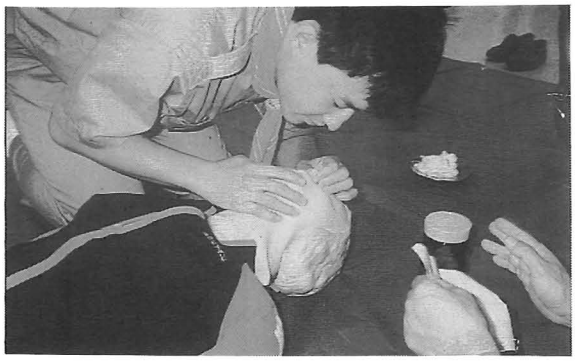
近年、群馬県連盟では大きな事故も無かったが、いつ、事故に遭うかわからないので日頃より、健康と安全に対する認識を深めることにより、安全なスカウト活動が出来るのである。平成７年から女子スカウトの加入が認められた事により、指導者一人一人が女子ス

カウトを含めた“健康と安全”の認識を新たに活動して行けるように頑張っていきたい。

健康安全スローガン

- 団の健康安全管理体制の充実を計ろう。
- ひとりでも多くの人が救急法の講習会を受けよう。
- 長期キャンプ等の時には、救急法取得者または医療関係者に同行をお願いしよう。
- 救急箱は定期的に整理・点検を行おう。

健康安全委員長　小根澤敏男



財政委員会

財政委員会の目標は健全な財政維持でございます。又、ご承知の様に群馬県連盟の財源は登録料により賄われています。しかしながらスカウト登録減少数の傾向は昭和62年4,988名をピークに平成元年4,378名、平成10年3,724名と、ここ12年のスカウト数の激減は財政的に大変厳しい状況となりました。このような状況は全国的な傾向で、日本連盟でも財政厳しく平成７年より登録料1,500円、500円の値上げを余儀なく致しました。また日本連盟基本財産募金と名うって群馬県連盟割り当て3,056,250円、加盟員１家族1,000円、皆様のご協力のもと全額納めることが出来ました。群馬県連盟も状況は同じで日本連盟と同時に登録料値上げ案もありましたが１年見送り、翌、平成８年度より群馬県連盟登録料1,600円と決まり600円の値上げが承認されました。財政計画では５年間、この状況で計画致しましたが、平成８年、９年と登録数の減少が続き、一時不安のときもありましたが、減少傾向もようやく止まり、わずかではあるが、増加の傾向も見えて来た感もあるので、現状でしばらく続けられる状況と思われます。

また、財団よりの繰り入れ金も低金利時代に入り資金運用益減少により平成８年より20万円の減となりましたが、昭和63年設立以来組織拡張、指導者養成、大会助成金等大変な援助を受け今日に至っております。また、県教育委員会の絶大なる支援をいただき、また、日本連盟維持会員の皆様のお陰をもち現在に至っております。

しかしながら、委員会として毎年のように県財団賛助会員募集、日連維持会募集、等、計画致しますが、昨今の経済状況の影響か現実的には、員数、金額の両面で減少傾向にあります。今後ともスカウト関係者はもとより、ご理解を得られる関係者のご協力等よろしくお願い致します。

このような経済情勢の中で何とかやり繰りし経費節減に努め今日に至っております。

大変厳しい状況を記しましたが、経費節減の効果あり、皆さんのご協力で厳しい現状の中で余裕とは言えませんが、やや健全な財政状況で推移できるであろうと推察しています。

ボーイスカウトは質素であるの原点のもと、時代とともに質素である原点は少々変わるかもしれない、しかしその時々の判断で良いと思う。経費削減の考え方も同じ、今日のように物の豊富な時代はございません。このような社会情勢の中での質素のとらえかたは大変難しいと思いますが、リーダーの皆さんの日夜、スカウトの成長を願って努力しているその姿、そのスカウトたちのためにより効果的に資金使途と財政面に不安なく、この運動に喜んで参加出来る群馬県連盟の財政を確立出来ればと思い微力ながら努めております。

財政委員長　江原　毅

財政状況　単位：千円

	96／03	97／03	98／03	99／03	00／03
収入	34,224	21,585	34,164	42,417	24,041
支出	34,680	20,504	34,912	42,638	24,050
差引	−456	1081	−748	−221	−9

財政改善策

1. 加盟員拡充による収入増
2. 県連振興財団の賛助会員拡充
3. 県連需品活用による収益
4. 日本連盟維持会員拡充
5. 経費の節減

広報委員会

広報はみんなで造るコミュニケーション

［広報委員会の活動目的］

広報委員会は、県連盟の運営組織として日連や県連盟の主催する行事・委員会等の実施内容と考え方を広く、指導者や関係者に知らしめると共に理解と実行を促すため、その情報を正しく報じることにある。又各団・各隊の活動状況を情報収集し報告する。

この具体的な手段として「あすなろ」を広報誌として定期的に発行する他、ビックイベント毎に新聞の発行や各種委員会と連携し情報を提供していく。更に「ＢＳ活動」を広く市民にＰＲするため外部に向けてのＰＲ資料を作成し発行していく役務を担っている。

［広報誌“あすなろ”の歴史］

昭和53年１月創刊号を発行、当時はＢ５版４頁の手書きで、指導者向けのものであった。名前は「かわら版、あすなろ」で今でも不変、発行責任者は“指導者訓練チームリーダー”の「青山寿延氏」、編集は「竹田賢一氏（現財団副理事長）」で印刷は当時桐生地区事務次長の「金井氏」の奉仕で発刊した。

創刊から22年間で、今年は第53号（H11年７月発行）を発行、近年は年３回の発行として様式は、Ｂ５版綴じ込み16頁、約800部を発行している。私達は、創刊時の苦労を忘れずに今後も益々充実した「あすなろ」の発行に努めたい。

［広報委員会・10年間のあゆみ］

▽平成年代の２年度は“あすなろ”26～28号を発行、BS振興財団の記事掲載の為４頁増刷し16頁となり又、“新制服”の披露をした。

▽平成３年は29～31号を発行、“県カブラリー特集”と“第５回県シニアースカウト大会”（能登島）を掲載した。

▽平成４年は32～34号を発行、歴代の群馬の富士スカウトを紹介、進級目標にすると共に「スカウト拡張キャンペーン」特集を組み県内動向、組織拡大の３ケ年計画を報告。又、目次の挿入や地区行事を多く掲載した。

▽平成５年は35～37号を発行、第24回県野営大会特集を組みスカウトの奮闘ぶりを紹介

◦10月６日より「産経新聞」とタイアップして各団の活動状況を新聞紙上に紹介を開始。

▽平成６年は38～40号を発行、第８回カブラリーは（太田開催）“かわら版”の号外として発行した。

◦産経新聞連載の記事を小冊子に編集「ボーイスカウトだより（各団紹介）」として配布。

◦スカウト活動関連の新聞記事や最新情報を速報化した「ＢＳニュースクリップ」を新たに編集して発行した。（現在12号済）

◦地区の広報誌として「スカウトしんぶん」が初めて太田地区より発行された。

▽平成７年は“あすなろ”41～43号を発行、菊・隼スカウトを対象にした県知事による「スカウト顕彰」の様子を初めて掲載した。

◦広報委員会の「一日研修会」を１泊２日で赤城山にて編集の実務と研究を実施。

▽平成８年は“あすなろ”44～46号を発行、第４回日本ベンチャー96の様子を報告。

◦「指導者養成」について特集を組み県連と地区の指導者養成方針と考え方を報告

▽平成９年は“あすなろ”47～49号を発行「第９回群馬カブラリー」「第４回関東キャンポリー兼第25回県野営大会」の特集掲載。

◦「日本連盟75周年記念事業」の中央式典やピースパックプロジェクトへの参加、“全国一周友情自転車リレー”の実施状況を報告した。

◦日連主催の県広報委員長全国会議に参加し各県の広報活動の情報交換や議論を実施。

▽平成10年は“あすなろ”50～52号を発行、「第12回日本ジャンボリー」「アダルトリソーシス」を特集。

▽平成11年は“あすなろ”53号を発行、「リーダーフォーラム」を特集した。

◦「50周年記念誌」の発行に総力を結集した

［広報委員会・今後の在り方］

(1)県連情報の正確な伝達と速報化を図る。

(2)外部へのＢＳ活動のＰＲと広報の強化
(3)ＢＳ活動の記録化と継承
(4)「皆に読まれる楽しい広報誌」の発行
以上を基本に広報委員会は活動します。

広報委員長　河内正美

需品委員会

日頃は需品の販売にご協力ありがとうございます。お陰様で委員会も12年目を迎える事が出来ました。県連需品部ではスカウト活動に必要な品物を、より安く、スムーズに提供できる様に委員一同頑張っています。毎年県連総会、県リーダーフォーラム、各地区総会にて需品の販売を行っています。

県内では、スズラン百貨店（高崎店、前橋店）長崎屋桐生店、タキスポーツ店さんで、スカウト用品を取り扱っていただきています。

県連盟の委託を受けて、通常の商業ベースを離れて、低利益でご協力をいただいています。その様な訳で、常に数多くの種類の品物をストックしておく事は、仲々無理がありますので必要品は、日数に余裕をみて早目にお申し込み下さい。

ボーイスカウトに入団すると、さっそくユニフォームなどをそろえる事になります。新入隊の子供たちや保護者の方々には、需品カタログ1999年度版及び需品申込書を活用のうえ指導者の皆さんより団、隊で支給するものか、個別に購入する物か具体的に指示をお願い致します。

スカウト活動の財政基盤は、加盟員の登録料、需品売上からの繰入金、維持会費、各種寄付金、補助を収入の三本柱として運営されております。

現在スカウト人口の減少に伴い需品の売上は停滞しています。年間一人平均売上高も平成６年より、毎年減収、平成10年度は５年前より2,000円位ダウン、一人当たり1,000円増額して頂ければ、登録数×1,000円＝約２億５千万円の増となります。運営資金を確保する為にも充分に認識・理解して戴きご協力おねがいします。

10年間委員会活動

一番の思い出は第24回県野営大会

『わたらせキャンポリー』

平成５年８月13日～16日開催

需品販売と一緒にテレフォンカードや奥尻島の義援募金等行い、特に渋木副連盟長より多数のコレクションを寄贈頂き販売したところ、皆様のご支援で連日、大盛況でした。皆様に大変喜んでもらえた事と思っています。売上高も最高の記録でした。

平成２年度より新しい制服に移行

ラルフ・ローレンのデザインに期待されましたが、素材から綿100％の為シワ・縮み問題等の為、昨年度10月第３週よりリーダー用ユニフォームの一部（３点）が、新素材（綿50％・ポリエステル50％）に切り換わり出荷されました。サイズ切れを生じた物から順次新素材に換えます。現行素材ユニフォーム在庫状況を、確認してから購入して下さい。

平成５年より活動着及びセーターの販売の促進

日連の依頼分、県連は目標100％達成出来ましたが、まだかなりの在庫があるため平成10年２月１日より早急に在庫の一掃をはかるため、値下げして販売を行っています。サイズきれ次第取り扱い終了します。

スカウティング誌購読促進

『スカウティング誌』を機関誌として位置付け、重点目標に、全隊長への購読促進を掲げキャンペーンを平成８年度２月から実施してきました。県連目標（183）冊、開始時は（58）冊、平成11年６月現在（86）冊、46.99％、全国平均55.25％よりやや劣るが、少々ながら毎年着実に増えていきます。継続して拡大キャンペーン実施…カードで買物、月刊誌を年間予約して下さい。

需品委員長　茂原幸夫

国際委員会

群馬県連盟国際委員会は、スカウトたちの国際感覚を高め世界に通じるスカウト育成を目的としている。

現代社会においては、国際社会といわれ市町村において児童・生徒の国際交流や、姉妹都市との交流事業等、積極的な施策が企画・実行されている現状である。

過去においては国際交流など、ボーイスカウトやガールスカウトに所属していなければとうてい参加できるものではなかったのが実状であった。

気軽に海外へ行けるようになった今、過去とは違った国際的なスカウトを育成していかなければならない国際委員会となった。

国際行事としては、４年に１回の世界ジャンボリーを初めとして、各国主催のナショナルジャンボリーや各種国際会議等が行われており、群馬県連盟としても数多くのスカウトやリーダーを派遣している。身近なものとしては、日米フレンドシップパトローリーに、４地区が担当で参加している。これからも更に数多くのスカウトたちを海外に送り出すと共に、海外スカウトたちの受入れ・在住外国スカウトの増員、そして国内でも十分にできる国際感覚あふれるスカウトの育成を求めていかなくてはならない。幅広く限りのない委員会の任務である。

国際委員長　小野里清治

トレーニングチーム

県連トレーニングチームは昭和48年６月にトレーニングチームに関する規則により組織され日本連盟の方針に従い指導者訓練の運営と実施を担当し、県内指導者の資質の向上に寄与してきた。県連及び地区の主催する各種定型外訓練にも協力し、スカウト達のため楽しい活動ができるよう指導者のための支援を行っている。当初メンバーは少なく、他県連の支援を受け開催していた研修所も、メンバーの努力により独自に開催できるようになった。しかしながら、昭和59年度頃を境に、全国的にスカウト人口の減少が始まり、その対策が検討された。その対策の一つとして日本連盟の指導者養成委員会に於いて指導者訓練体系の見直しが行われ、平成２年度から実施された。その改訂のねらいは、積極的にこの運動に青少年を迎えるためには、スカウト達に魅力あるプログラムを提供できる能力を有する指導者を育成することを目標としている。

◎訓練の区分

隊指導者訓練　隊長・副長などの訓練

成人指導者訓練（Ⅰ）団委員長・団委員等の訓練

成人指導者訓練（Ⅱ）コミッショナーの訓練

成人指導者訓練（Ⅲ）トレーナーの訓練

◎段階的指導者訓練

前段階　ボーイスカウト説明会（従来の1日型指導者講習会）

1段階　導入訓練　ボーイスカウト指導者講習会（1泊2日型）

2段階　基礎訓練　ウッドバッチ研修所（3泊4日型）

3段階　上級訓練　ウッドバッチ実修所（5泊6日型）

この改訂により、特に指導者講習会に基本動作、営火、隊集会、ハイキング等の実技が取り入れられて、より訓練の質が高められた。一方ビーバー特修所、団委員長特修所等が基礎訓練の研修所として位置づけられ内容が充実された。これらの改訂に対応すべく、トレーナー研究集会、事前研修会、試行コース等に参加し開催に備えた。指導者講習会に於いては開催地区の協力を得て定着していった。団委員長特修所は団委員研修所となり団委員も対象とした成人指導者訓練として再出発した。ビーバー研修所は他の研修所と同様3泊4日の野営での研修が設定されているが、入所者のレベルを考えると困難と思われ、県コミ・指導者養成委員長と検討の上、野営生活は体験程度にとどめ除々に移行することとした。

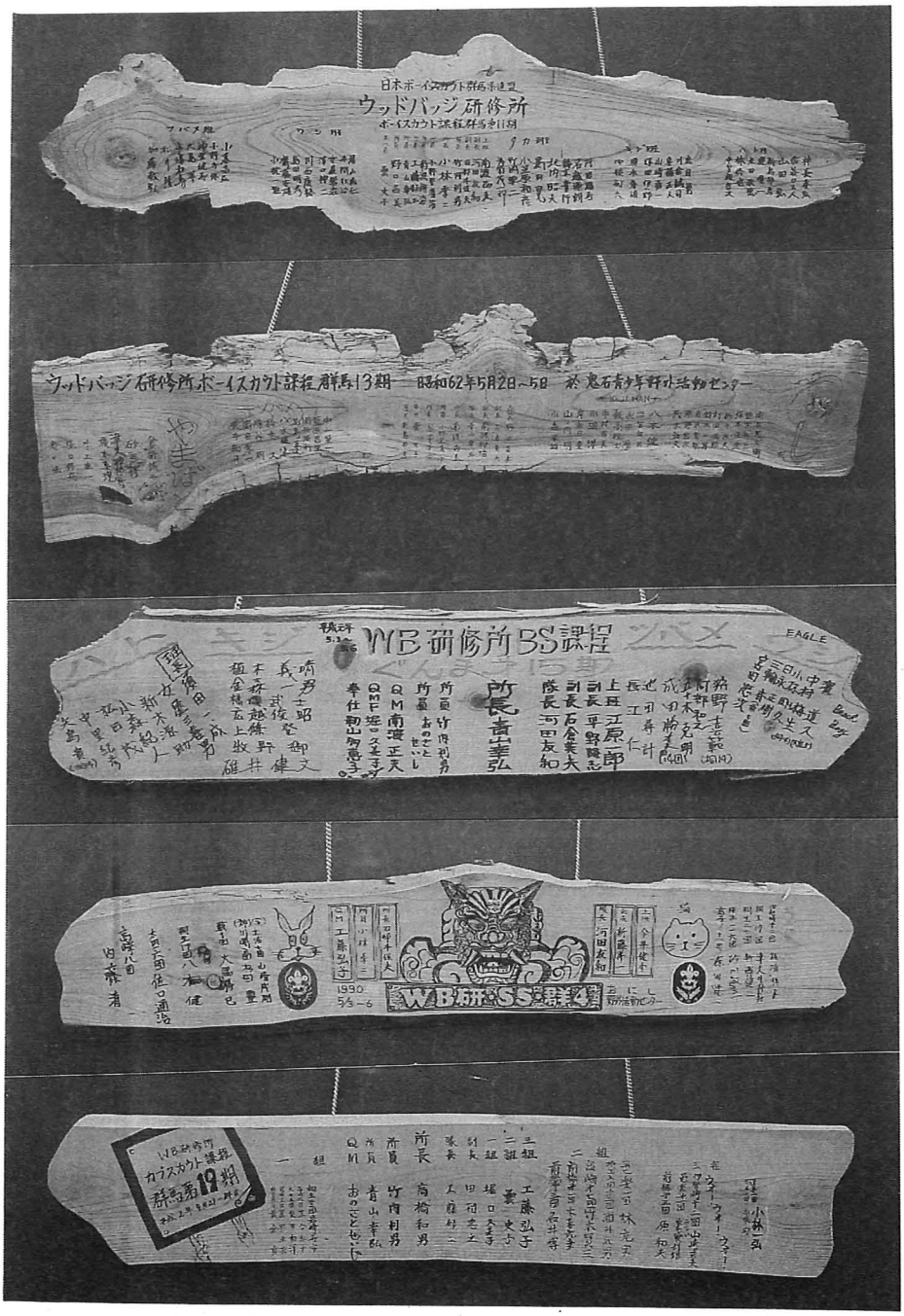
平成5年度の年次全国会議に於いて改正された教育規定の中に県連トレーニングチームの設置に関する条文が新設された。この事に関連し、県コミッショナーの責務に“県連トレーニングチームを統括する”との項が新設され、県コミッショナーと県連トレーニングチームの関係が明確に規定された。一方、環境問題が社会的に大きな問題として取り上げられる中で、日連の環境特別委員会の答申が平成6年3月中央審議会に提出された。その中で日本のスカウト運動における環境教育の進め方の項で、環境教育のスカウトプログラムへの定着化の為に、指導者訓練における環境教育の充実化があげられた。この目標に従ってそれぞれの指導者訓練に導入され、セッションとして定着して来た。

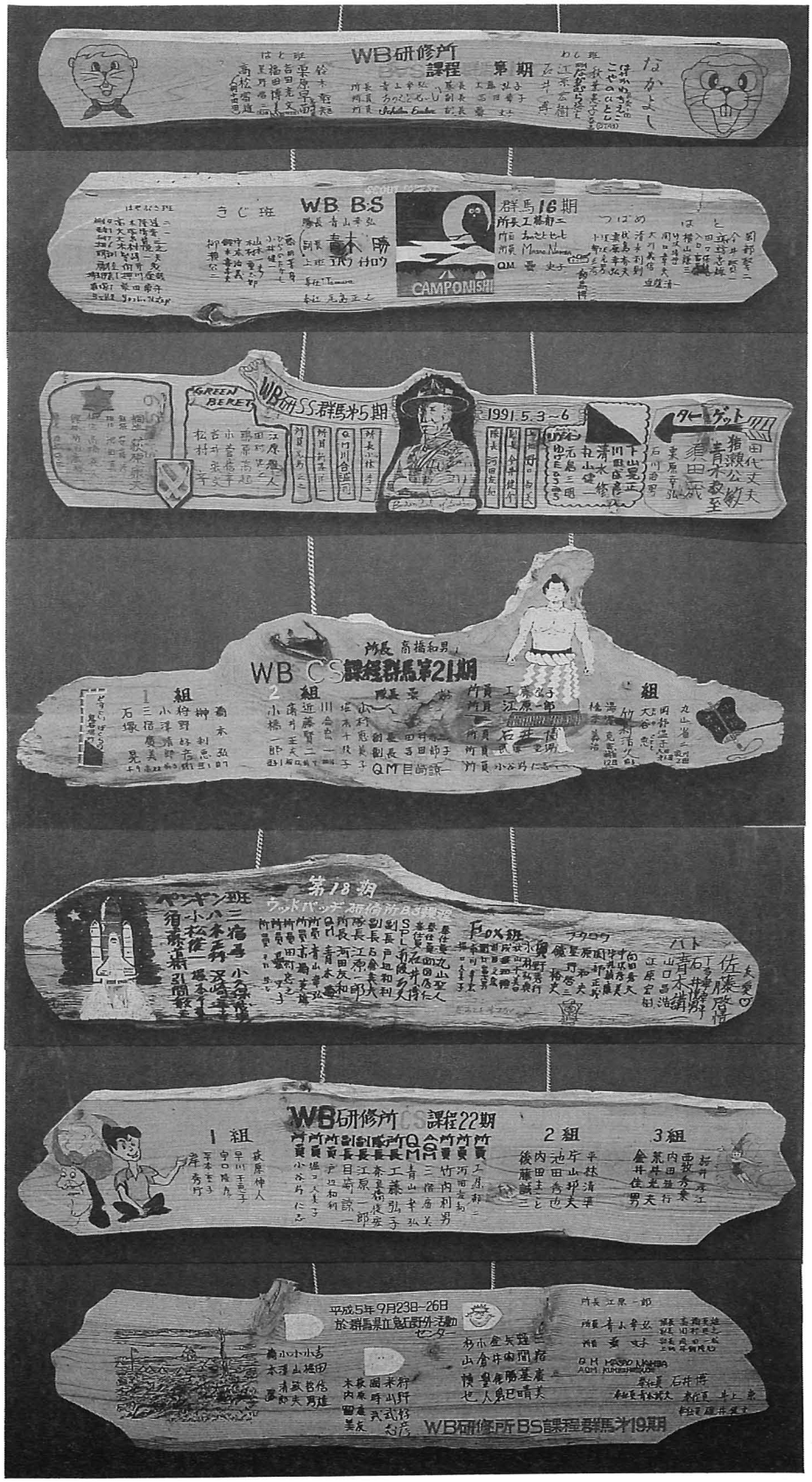
他方、アダルトリソーシスポリシーの導入に関し、21世紀を視野にいれた指導者訓練の見直し作業が平成8年6月より開始され、平成9年度には大幅な指導者訓練内容と、訓練体系の見直しが行われ、平成10年4月より試行コースとして全国的に展開された。その成果と反省をふまえて平成11年度から定型訓練として実施している。

その改正の要旨は、指導者講習会においては、1日型7時間コースとし修了者の地域での支援により、仲間としての定着をはかる。隊指導者訓練については参加者を基本的に成人として対応し必要に応じ隊編成をする。したがって参加者の個別支援はチューター（班担当）があたり、その役割は重要となる。訓練内容については各課程に共通のセッションを1日目、4日目に実施し、課程別のセッションを2～3日目に設定している。従来、隊指導者中心に運営していた我々スタッフにとっては、大いにとまどいを感じているが、研修と自己研鑽を重ね、参加者によりよい研修の成果が得られるよう努力したい。また、アダルトリソーシスの考え方がトレーナー部門より取り入れられることにより、新規委嘱、継続委嘱等に研修への参加、自己研鑽、個別支援、指導者訓練への奉仕などがより厳密に評価されることになり、トレーナーの資質の向上が求められることとなった。これらのことが県内のスカウト運動活性化の一助になればと思います。

ディレクター　田部井保夫

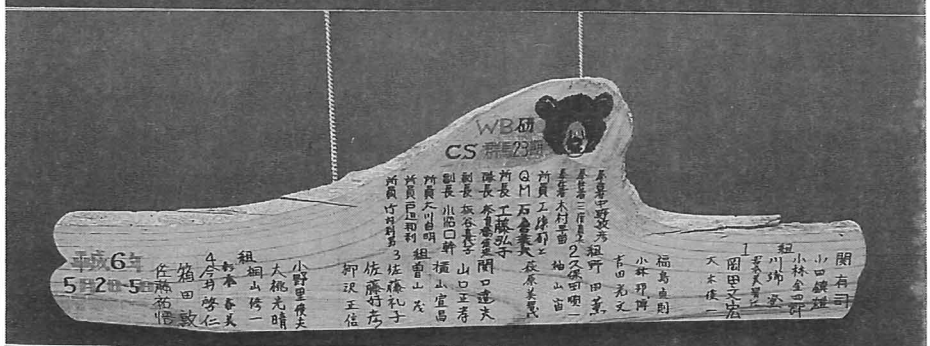
ボーイスカウト群馬県連盟
ウッドバッジ研修所修了者




WB研修所
課程
第期
なかよし
きじ班
WB BS
群馬16期
つばめ
WB CS 群馬5期
GREEN BERET
1991.5.3~6
ターゲット
WB CS 課程群馬第21期
1組
2組
3組
第18期
ペンギン班
BOX班
パト
WB研修所 課程22期
1組
2組
3組
平成5年9月23日~26日
於群馬県立総合青少年活動センター
WB研修所BS課程群馬第19期

"弥栄"
WB 研修所 SS 群馬 第6期
平成5年10月9日～12日

WB研修所BS課程群馬20期
平成6年4月29日～5月2日 於 鬼石野外活動センター


WB研
CS 群馬23期
平成6年
5月2日～5日

WB研修所CS課程群馬24期
「カビンシャンボで大空へ」
隊長 江原一郎
副長 須田一成
副長 中野敏彦

WB研修所CS課程
群馬第25期
平成6年
5月30日～6日

コミッショナー活動

間もなく私たちの前に姿を現す21世紀は、果たしてどんな時代なのでしょうか。それを予測することは大変難しいが、そのヒントは平成元年からの10年間にあると思います。日本も日本連盟も激しく動いた10年であり、とりわけ日本連盟では「全部門への女子加入承認」がそれでしょう。また、中途退団ということがクローズアップされたことでしょう。

女子加入に関しては、彼女たちを含めた子どもたちの自発活動に、万全の知識や技能で支援をすれば済み、中途退団に関してもプログラムへの不満、指導者への不信、組織への不信感を払拭すれば解決することです。

しかし、中途退団の問題点を我々コミッショナーグループは、「スカウトの言葉に耳を傾けていたかもしれないが、彼等の気持ちや心を本当に受け止めていたか」に重きを置いています。そこで地区コミッショナーとともにこれからの進みゆく時代を見据え、社会の変化に対応し、より強固にスカウティングを充実させるべく努力した10年でありました。周東元県コミ、重原前県コミから言われた「この運動に求められているのは何か、コミッショナーは、それにどの様に対応したらよいのか」この課題意識を持って日々のスカウティングに取り組んだ10年でもありました。

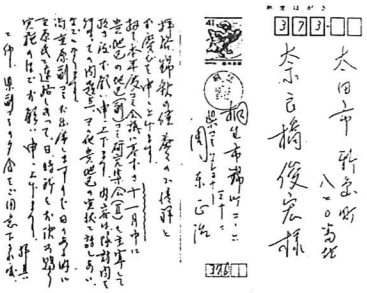
さらに、この社会の期待に応えるために、真にスカウトにとって楽しいプログラムを、スカウトや保護者また地域社会の人々から信頼される指導者の下で展開出来るよう県下統一方針のもと、そして各隊にまでゆきとどく工夫を図った10年でもありました。

以下、4地区コミッショナーからの活動報告を記述します。

県コミッショナー　小沼國幹

太田地区におけるコミッショナー活動の遍歴

地区におけるコミッショナー活動も時とともに変化を遂げてきた。私が昭和63年に太田地区副コミッショナーになった頃には、コミッショナーの活動もまだまだ初期の段階で地区コミッショナーが一人で全てをやっていたように思う。地区内の団、リーダー、スカウトとともに皆活発でコミッショナーの出番もあまりなかったのかも知れない。県コミッショナーとの連携も徐々にその密度を増してきた。(以前は年2回の地区訪問ぐらいであった。)以下は、平成3年 周東県コミッショナー在任のときの地区訪問通知文である。



重原さんが県コミッショナーに就任された頃から「グループ」という言葉が盛んに使われるようになってきた。地区でもラウンドテーブルが開催されるようになり、ビーバー、カブ、ボーイ、シニアーの各担当が選任され「グループ」によってコミッショナー活動が展開されるようになってきた。これによって、地区の指導者に対するサービスも徐々に向上していき、各種の研究集会なども開かれるようになってきた。県コミッショナーの我々に対する指導も頻繁に行われるようになり、県コミグループと各地区コミグループとの一体感が急速に高まっていったのである。

その頃の太田地区コミグループは、各種委員会の活性化にも率先して協力し、地区のイベントの企画実施なども先頭をきってやり、特に指導者養成委員会、進歩委員会、野営・行事委員会の代行的役割を果たした時代であった。これからの太田地区におけるコミッショナー活動は、時代のニーズを的確につかみ「スカウトの減少」「女子の加入」「社会環境

の変化」を踏まえたサービスの提供を最大の使命としなければならないと思う。

太田地区コミッショナー　奈良橋俊宏

桐生地区コミッショナーの活動

桐生地区のコミッショナーグループは、群馬県連盟が誕生してから半世紀、今年を飛躍の年にしたいと考えております。

昭和60年の1,700余名の登録をピークに少子化の影響を受けつつ減少する登録人口を我々は痛いほど肌で感じる中でスカウト運動の魅力を内外共に披瀝してきた今日、微速ではありますが活動への理解と魅力を示される方々が増えて参りました。技術が急速に進歩した今日、物が豊富になり情報がデジタル回線に乗って飛び交う中で次世代を担う青少年教育の在り方が見直されている昨今ですが、青少年の教育は家庭教育と学校教育そして社会教育の連携を以て成り立つと言われており我々のボーイスカウト活動は社会教育に属しておりますが子供に対する活動からの影響力を考えると家庭と密接な連携をとってこそ教育効果が期待できると確信しております。社会の変化とともに揺れ動く価値観、コンピュータが様々な情報をタイムリーに提供してくれる今日、利便性を追求した結果、人間性や人と人とのふれあいの暖かさを忘れかけている場面すら感じられますが、ボーイスカウト活動は個人を尊重し連携プレーを推進しております。ボーイスカウト教育の２大特色の一つは、「班制度」を展開するという小社会の触れ合いの場が提供されております。そしてもう一つは自分の可能性を身につける「進歩制度」がプログラム化されております。

この２大特色を日々の活動で展開していくことで、仲間との必然的な触れ合いや協調性、忍耐という学問的には学び得ない貴重な体験を重ね、年代に応じた成長を促しているのがボーイスカウト教育の特色です。

この２つの特色を余すことなく活用するためスカウトの家庭環境を理解し、スカウトと保護者の期待に応える活動を展開してこそ先輩諸兄の努力を将来に継承することにつながるのではないでしょうか。

一人ひとりの人間が如何に社会性を身につけ、視野を拡大できるかという人間教育の根幹を成す教育であるため、その活動は地味で即効性は期待できませんが、長期に亘り活動した或いは体験した結果がスカウトの自信と勇気を呼び起こしてくれることと期待しています。

桐生地区コミッショナー　須田一成

コミッショナー活動 この10年

昭和から平成に改まり早11年余、平成元年８月に県連40周年記念野営大会が尾瀬戸倉スキー場を会場に開催されたのがついこの間の様な気がする。この間ボーイスカウト活動も様々な事があり、そして又変化もして来た。

(1) 隊指導者への支援

当高崎地区におけるコミ活動は、隊指導者のまとめ役、調整役、そしていわゆる「ボーイスカウト運動の基準の維持と、その純正な発展」のために歴代コミッショナーを中心にコミグループとして頑張って来た。

特に毎月第２水曜日に行われている各隊指導者の自己研鑽、情報交換等を目的とした二水会（ラウンドテーブル）は、一度も休むことなく行われている。時には出席者が少なく数人の指導者同志で、悩み、疑問、果ては愚痴を零しながら時間を過ごした事もあったが、それでも昼間の仕事の疲れを押して参加して来る指導者がいると思うと元気も出ると言うものであるが、惜しむなくは出席率の向上がなんとか図られないものかと常に思うところ

である。

ラウンドテーブルの運営方法については、特に部門別（BVS、CS、BS、VS）研修の充実を心がけている。全体会議だけであると、どうしても一方的な連絡・報告事項のみに終始してしまうきらいがあるので、毎回部門別に課題を定め、それに基づいて研修討議、情報交換等を行うようにしている。同じ部門ということで、共通の話題、共通の悩みもあり、参加者各人から何等かの発言、意見等が引き出せることが出来る。

(2) 地区活動の支援

高崎地区では、この10年間地区の活動も大きく変わって来た。以前は、地区の会議といえば前述の二水会のみであり、その内容も今と違い、隊指導者の研修の場なのか、団指導者の情報交換・連絡の場なのか、その性格・目的があまり明確でなかったと様に思う。その反省にたち、地区の運営については明確に地区委員会として地区委員長主催のもとに、各種委員会委員長、地区コミッショナー、事務長等いわゆる地区役員を構成メンバーとする地区の運営組織として位置づけ、ラウンドテーブルは地区コミッショナー主催による隊指導者の会議として明確に区分した。そして、このことにより、各種委員会の機能が明確化され、委員会活動の充実が図られ活動も活発化してきたようである。従来は委員会に所属するメンバーもなかなか揃わず、名目だけの委員長一人というような委員会もあったが、近年は本来の委員会としての活動ができる体制がやゝ整ってきた。特に最近の加盟数の減少傾向の中にあって、組織拡張委員会の存在、指導者の確保と資質の向上を目的に指導者養成委員会の活動、諸行事の運営の中心として野営行事委員会、宗教章講座の開設等による進歩委員会の活躍が目覚ましい。

(3) 団運営への支援

団運営の最高責任者である団委員長の情報交換、研修の場として定例の団委員長会を設置している。団委員長としての役割、団運営上の問題点等について検討を行うとともに、同じ立場の団委員長同志の友好が図れ、地区運営上も団委員長の意見等を聞き、団のためになる地区運営が出来るメリットがある。

また、団への支援として各団の団委員会あるいは団会議に年１回程度訪問する計画を立て団訪問を実施している。団委員と団会議の機能分担が明確にされていない団が多いが、今後の課題と思われる。

(4) 今後のコミ活動の取り組み

今スカウトの中途退団がいわれているが、その原因の一つとして隊指導者の資質の問題も問われている。高崎地区としてもこのことについては強力に取り組まなければならない問題と認識し、各隊指導者の隊長は当然のこと副長以上は全員研修所を修了すること、さらに隊長の実修所への参加を積極的に呼び掛け、各団最低一人以上の実修所修了者を確保することを目標に進めている。平成11年度においては研修所参加７名、実修所参加者２名を送りだした。今後開設される両研実修所へも多数の参加者を送るべく現在事前課題訓練指導に取り組んでいるところである。

高崎地区コミッショナー　内藤　清

前橋地区コミッショナー活動

ここ10年間に地区コミッショナーは、南波・江原・平野・小松へと引き継がれて地区全般・団・隊に対して質・量共に維持・推進を図る為に夫々努力してきたが、ここ10年間の変化は目に余るものがある。10年前には前橋地区は、前橋１・３・４・５・７・11・12・13・渋川２・水上１の10ケ団があり、加盟員も現在の約２倍の人数が活動しており、ビーバー隊発足した３年目の頃であった。前橋地区の最盛期で、各隊の活動も活発で、かつ、地区行事も盛んで、各隊は地区行事の多さを指摘しながら縫うように活発に活動していた。その後はスカウティングへの熱意の低下か、スカウト数減少（現在問題となっている中途退団者も含め）があり、平成５年度までに、前橋４・11・13、水上１団の廃団があり、地区としても最大の危機であった。平成７年度前橋15団、平成９

年度大胡１団の新団発足ができ、低迷期の危機をコミッショナーグループと各団指導者の協力・努力によって切り抜け上昇傾向に転じ得たことは嬉しいことです。また、前橋１団が平成10年度に発団50周年を迎え、県下の関係者より祝福され、前橋１団の皆様の努力に感謝すると共に、前橋地区の誇りでもある。

故星野先達が群馬県にボーイスカウト運動を始め、県連50周年を今年迎えることは大いなる喜びである。前橋地区は、昭和38年発足で地区としての50周年は14年後に置いておくことで地区内役員の総意として決定し、４年後40周年を考えることとした。

前橋地区は比較的若手の役員登用が特徴的で、活動は動作性においても活発な人材を今は望んでいる。活発な活動の出来る人に片寄りが生ずる欠点もあるが、今は活動率上昇を目指す方を採用している。ＷＢ研修所・実修所参加者がここ３年位増加し、意識の高揚を促すことを、ＲＴや個々の指導者との日常的会話の中より推進出来ている。これは、コミッショナーグループのみならず地区役員の協力の賜物で、多数の力を持って役割分担が十分に出来ていれば組織としての活性化は出来ると確信していて、地区４役を始め夫々の役務分担と相互支援が、チームワーク向上に連がり、スムーズな動きを生き出す。

前橋地区は県都にあり、今日の少子化の中でもまだまだスカウト人口を増やす期待があり、日々の隊・団指導者の努力に負うところが大ですが、団委員長の指導力が団の存亡に関わることから、地区コミッショナーとしては団委員長との会話を意識的に増やし、団の問題点、地区支援の要望等を得るようにして、団委員長１人の無駄な努力・負担の軽減化も図っている。第三者に対して理解を得る１つの方法として、組織としても明確なもので団指導者に他団の者が聞いても一致した対応ある団は、意識交流が活発と見られることより、地区内指導者としての存在を互いに自覚しあい、情報交換の場としてＲＴ以下、戸扉を全開にして、個別の相談も含め如何に他の人達の貢献度を増やすか、理解度を高め指導者の頑張りの活力となれるようにと考えている。これらの事を行うには、まずコミッショナーグループが互いに話し合いが出来、意見交換が出来、個人の力よりグループの力となるように努め、今は比較的スムーズな運営状況と自負している。

10年前と比べても人々の生活状況の変化があり、日連・県連の方針・指示が、団・隊の現場に十分反映しなかったり、理解のされ方が異なったりする状況もあり、現場での消化の仕方、展開への相談には乗り、原則遵守は厳守で、コミッショナーは緩衝剤でもある。力強い地区コミッショナーと共に縁の下の力という存在もあり、コミッショナーグループへの負担は、要求は増加し、経時的に推移し変化する中で、各指導者へ日常的な細かな対応が今後も増加するでしょうから、グループとしての明確な役割分担と、少しの無理をしつつ行動していく場面を自ら課していかなければならないでしょう。地区コミッショナーとして一番注目することは、地区内の団の動静、活動率で、停滞する兆しを早目に認知し適格な対応に結びつけることである。

前橋地区コミッショナー　小松俊一

21世紀委員会

『ゴールデンジュビリーからの提言』

はじめに

創立50周年（GOLDEN JUBILEE: ゴールデンジュビリー）を迎えた群馬県連盟は、青少年の育成に貢献するため、20世紀から21世紀へという時代交換を足掛かりに、今その真

価が問われています。

21世紀の我々のあるべき姿の夢を語り、その夢を描き、そしてそれを実現するために、この創立50周年はまたとないチャンスといえます。

現代は少子化の時代といわれますが、子供が成長するステージは大きく3つに分けられます。それは家庭であり、学校であり、地域です。この3つが連携を保ち、協力しあって子供をどう育んで行くのかが重要な課題となっています。

特に、2002年から完全実施される学校週5日制に対し、地域がどのような受け皿になりうるか、地域における青少年団体の一つとして長い歴史と実績を持つボーイスカウトに、大きな期待が寄せられています。

本年度、群馬県連盟は「県連盟 55（GOGO）作戦 開始！」をスローガンに掲げ、「各団が中途退団を0にし、スカウトを5名以上増やすこと。」を目標にしています。そして創立55周年の5年後に加盟登録数5,000名を目指そうとしています。

21世紀委員会は21世紀に向けての群馬県連盟のあるべき姿を策定することを目的として設置されました。群馬県連盟が群馬県の青少年の成長に貢献するためには、年代と地域においてバランスの取れたサービスが必要であると考えます。そしてそのためにはボーイスカウトの受け皿として、指導者の質の向上と人材の活用、楽しいプログラムの展開そして組織の活性化の3つが重要なポイントになると考えます。

今回まとめた提言書は、次の5つの観点からそれらのことを考えます。

(1) 年　代
(2) 地　域
(3) 指導者の質の向上と人材の活用
(4) 楽しいプログラムの展開
(5) 組織の活性化

各提言は創立55周年を迎える、5年後の群馬県連盟のあるべき姿を想定したものです。そしてそのあるべき姿に至るための、具体的方策も示しました。

その内容は、形にできる夢であり、決して絵に描いた餅ではありません。県内の成人指導者と21世紀委員会がつきあげたスカウト餅を、スカウト一人一人に食べてもらいたいと切に願っています。

1．年　代

ゴールデンジュビリーからの提言

ボーイスカウトは年齢と経験に応じたプログラムを持っていることが特色です。小学校入学前から大学生年齢まで、青少年の成長に合わせた活動が展開されています。群馬県内において、青少年が希望する部門での活動の受入れ体制を、すべての加盟団が整えます。

具体的方策：

(1) 標準的な団の構成を目指す。
(2) ビーバー隊の募集に重点をおく。
(3) ビーバー隊、ベンチャー隊及びローバー隊の発隊を目指す。

2．地　域

ゴールデンジュビリーからの提言

ボーイスカウトは地域における青少年のための活動ですが、各加盟団に所属するスカウト・指導者の分布はかなり広いのが現状です。活動の拠点となる地域を狭めると同時に、県内に活動の拠点を増やします。

多くの人にボーイスカウトのことを知っていただき、理解していただきながら、より多くの青少年にボーイスカウトに参加する機会を与えます。

具体的方策：

(1) 地区内の未組織地域の開拓を行う。
(2) 地区外の未組織地域の開拓を行う。
(3) 地域との密着度を高め、一般参加の行事を行う。

3．指導者の質の向上と人材の活用

ゴールデンジュビリーからの提言

優れたプログラムも制度も、ボーイスカウトを支える大きな柱ではありますが、やはりさらに大きな要素は「人」に尽きます。成人指導者からの意見のなかで、一番多く寄せられたのは指導者の養成についてでした。

スカウティングは青少年にとってはゲームであると言えますが、成人指導者にとっては大きな責任ある仕事と言えます。その責任を果たすために、指導者の質の向上は不可欠の要素です。

そしてボランティアを基本とした成人指導者にとって、後継者の養成とより多くの成人の援助を受けることは同じように大切な要素です。スカウト運動における成人の役割を明確にし、地域社会から寄せられたボーイスカウトに対する期待に応えるために、人材の活用を図ります。

具体的方策：

(1) 指導者の質の向上
(2) アダルトリソーシスの導入

4．楽しいプログラムの展開

ゴールデンジュビリーからの提言

「ちかい」と「おきて」に代表される理念を基盤とし、青少年の成長において、班制度と進歩制度そして野外活動のもつ重要性をあらためて認識します。

その上で、生活様式や時代背景とともに変化する子供の興味に合わせた魅力あるプログラムを展開します。

具体的方策：

(1) インターネットを利用した情報交換および情報提供
(2) プログラム研究会の発足

5．組織の活性化

ゴールデンジュビリーからの提言

青少年の成長に貢献するという組織の目的からすれば、スカウトに教育を行う隊が所属する団を組織の中心にとらえるべきです。団を中心としたスカウト運動を助長するために地区があり、県連があるという考え方に立ちます。次に、各組織において審議と執行と監査の３つの機能を明確にします。スリム化した組織でアダルトリソーシスを導入した人材を活用して事業を推進することが、組織の活性化につながります。

具体的方策：

(1) インターネットを利用した情報交換および情報提供
(2) 地区・県連各種委員会の再編成
(3) 地区の再編成
(4) 理事構成の見直し

★編集部註：今回掲載しましたのは要約版ですので、詳細は「ゴールデンジュビリーからの提言」の本版を参照して下さい。

21世紀委員 委員長　今井健介

群馬県ボーイスカウト振興財団

㈶群馬県ボーイスカウト振興財団のあゆみ

群馬県内のボーイスカウト活動が活発になり、組織が増大すると、昭和47年頃より財団設立の機運が盛り上がり、特に 星野 宏 先達が募金を募り、又加盟員も一時期、登録費納入時に財団基金を納入しました。

然しながら、財団設立認可には基金が少ないことと、定款の素案を何回も書き直しては、群馬県教育委員会の指導を受けて、昭和63年７月14日に設立認可がおりました。

設立当初の基本財産は13,000,000円でしたが 福田 實 理事長に同道して、群馬県教育委員会に認可書を受領に赴いたとき、管理部長より今後の基本財産の増加目標を聞かれたとき、当時の群馬県連盟のスカウト登録人口が5,000名に迫る勢いだったことから、5,000万円が目標ですと答えてから、既に10年が経過した。

群馬県ボーイスカウト振興財団が、定款に最も重点をおいたのは第４条の事業であり、これが設立目標でもあります。

1．群馬県に於けるボーイスカウト運動の援助育成
2．群馬県に於けるボーイスカウト運動の普及
3．指導者養成の協力援助
4．国内並びに国際ボーイスカウト行事への協力
5．その他目的達成のための必要な事業

以上をバックボーンとして、群馬県連盟に助成金をおくっております。

具体的には組織拡張費として、新団、新隊

への祝い金、スカウト展覧会の補助、広報活動補助。

指導者養成費として、指導者講習会、研修会やウッドバッジ研修所開設補助金に助成。

特別行事補助金として、県大会やジャンボリー等の特別イベントに助成。

海外派遣に祝い金として些少だが餞別を贈呈。その他スカウト活動に限定して助成しております。

従って、群馬県ボーイスカウト振興財団の賛助会員として加入戴くことによって、間接的にスカウト運動を支援戴くことになります。

賛助会員の募集には県連盟財政委員会が、各地区社会奉仕団体や、企業の法人賛助会員加入に努力され、現在基本財産が31,400,000円になりましたが、さきの目標の60%であります。然しながら、昨今の低金利政策のあおりを受けて、設立当初は年利5.7%でしたが今は落ち込み0.3%であり、基本財産の果実で運用するのが困難な現状であります。

従って管理費を極度に節約して、上記事業の補助金を捻出し毎年80万円を継続助成し、多少なりとも基金に繰り入れを図っております。

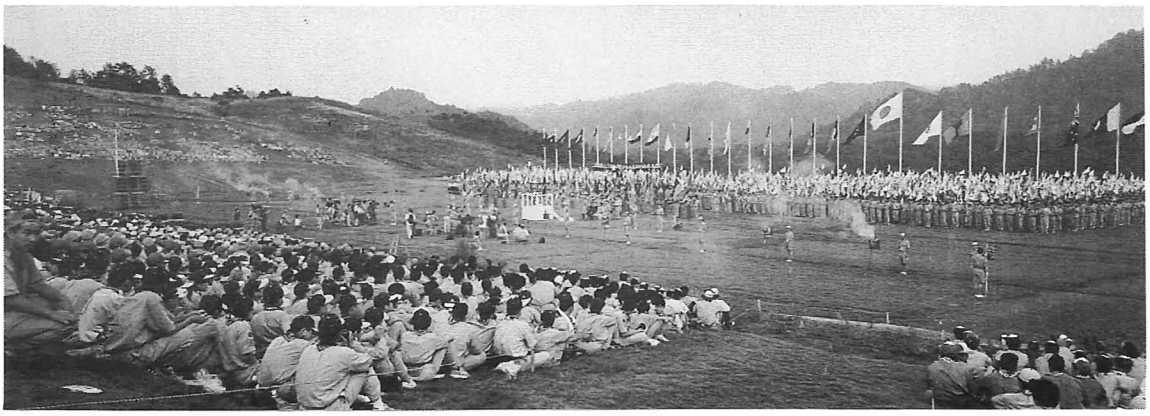
財団設立時の先輩も次々と役員を去り、新旧交替の時期を迎えております。

「賛助会員になってスカウト運動を支援しよう」を合い言葉にさらなる財団の発展を祈念いたします。

群馬県ボーイスカウト振興財団
副理事長　竹田賢一

桐生地区が開催しているボーイスカウト展

地区のあゆみ
各団プロフィール



太田地区のあゆみ

“つる”舞う形の群馬県、その頭の部分に当たる我が太田地区は太田市・館林市・大泉町・邑楽町・明和町の２市３町からなり、現在18個団約860名の加盟員で構成している。

地区の歴史は、昭和26年県の地区制により第一地区と称し太田・新田・邑楽で組織され地区委員長 高木良三氏、地区コミ 北条富司氏が就任、以来昭和48年に県内が７地区制となり太田地区となった。昭和54年県連規約の改正に伴い、現在の４地区制となった。

当時の所属団は９ケ団で太田と館林が中心で、以後大泉・尾島・邑楽町が加わり、平成元年に明和第１団が発団、その後平成３年に太田第10団、平成４年に太田第77団が発団、本年度11年５月に大泉第２団が復活し現在に至っている。

尚、残念ながらここ10年間に、太田第１団と尾島第１団は休団の状況にある。

平成の時代に入ったこの10年間は、平成２年９月に第一回ＢＶラリーが大泉の「御正作公園」で175名の参加で実施、ＲＴのＢＶ部門指導者の自主的運営として実施されている。

平成３年は、第一回地区スカウトラリーを11月17日、太田市渡良瀬川河川敷緑地公園で開催、40ケ隊932名の参加で大盛況であった。

平成４年は、５月３～５日第２回地区野営大会を明和町利根川河川敷で215名参加で実施、ＢＳの友情の輪を築いた大会であった。

平成５年は、10月24日ＣＳ合同球技大会を大泉町とね運動場で314名参加し開催した。

平成６年は、５月29日第８回ぐんまカブラリーを太田市運動公園で担当地区として開催、52隊1,660人の参加を得て大盛況であった。この大会で準備から本番と地区全員の結束が固まった行事になった。

平成７年は、地区活動活性化の為、小ブロック編成が実施された。太田Ａ・Ｂ、館林、郡部の４ブロック編成として行事の持ち回りとした。

７月には、指導者を対象とした地区初めてのソング・ゲーム研究集会を太田公民館で実施。

平成８年は、８月10～13日に第３回地区野営大会を館林市で開催。150名の参加、市教育委員会の支援によりテーマ“フレンドシップ”の輪を広げた大会であった。

平成９年は、８月２～６日第４回関東キャンポリー兼県野営大会に地区より188名参加、相馬ケ原で友情を深めた。又、日本連盟75周年記念の年としてＢＳを主体に11月８～22日まで、地区内を各団で約140㎞の自転車リレーを行った。

平成10年は、８月３～７日の第12回日本ジャンボリーに地区より116名が参加、秋田県森吉山麓で全国の仲間と「夢と感動」を味わいました。

11月８日は地区主催の第一回ビーバー・カブラリーを太田渡良瀬川河川緑地公園で実施、405名の参加で「風と緑とポケモンゲット」のテーマのもと、楽しい一日を展開した。

現在の太田地区は、各種委員会を中心にして地区内活動の活性化を強力に進めているが、組織拡張の面で加盟員の減少が課題となっている。平成４年度登人員1,172名をピークに減少し、平成11年度の年初登録は853名とピーク時に対し319名（27％）の減少となった。

組織拡張委員会と地区が一体となり、登録人員の増加に現在懸命に取り組んでいる。

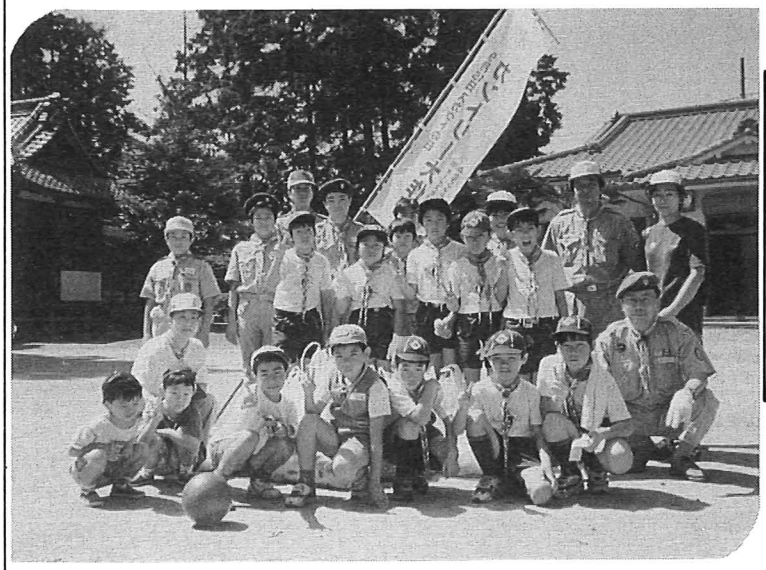
平成11年度は、協議会長に 田部井保夫氏、地区委員長に 小暮雅丈氏を新たに選任し、奈良橋俊宏地区コミと木村悦之事務長の強力な四役を中心に太田地区のスカウト運動をみんなで高め、更に発展させよう。

太田第2団

我が団のモットー!!
自分たちの子供は、自分たちで見よう

太田市の南部地域を中心に、利根川河川敷や野原など、自然が活動の場であり、地元に根ざしたのびのびスカウティングで家族全員参加の楽しい活動。今年もガンバッてます。

団登録番号
５６２５
初期登録
昭和58年３月10日
所在地
太田市本町15番11号



団委員

団委員長	橋本　力
副団委員長	金井　英文
〃	阿部　舜
団委員	土屋　博子
〃	松本　博
〃	矢島　正弘
〃	渡辺　和子

ボーイ隊

隊長	河田　友和
副長	小林　俊夫
スカウト	１１名

カブ隊

隊長	小林　良夫
副長	小林　直子
デンリーダー	白石　洋子
〃	須田　秀子
〃	井口　年枝
〃	飯塚みゆき
〃	小林佐登美
スカウト	１９名

ビーバー隊

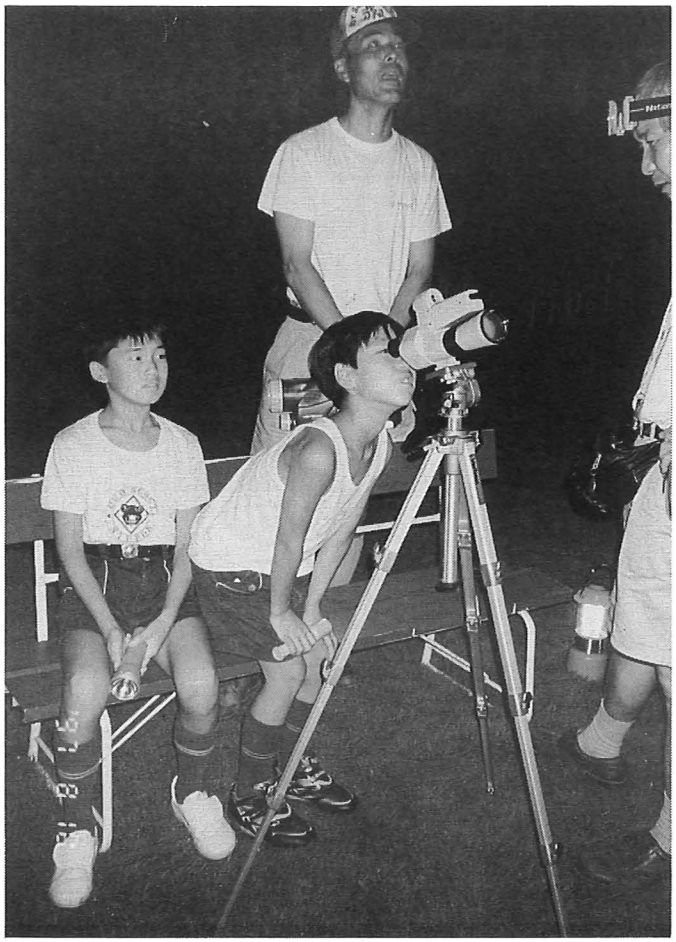
隊長	金井せつ子
副長	曽山　茂
〃	加藤　明男
スカウト	３名

いつも未来に目をむけて！

太田地区おおた３団
団委員長　石川昌男

初年度登録
ＢＳ隊・昭和４８年４月
ＣＳ隊・昭和４９年４月
ＢＶ隊・昭和６２年４月

活動地域　太田市西部
　　宝泉地区



太田地区　太田第４団

発団　昭和３３年１月２６日

団のモット---
おちついて　よく考える
なにごとも　すなおに
いっしょうけんめい頑張る

表彰

日本連盟公共奉仕綬　少年隊　於　明治神宮参集殿

太田警察署に協力して市の主催行事や通学路の交通指導奉仕を
継続し県及び全日本交通安全協会長表彰を受賞

昭和３８年５月１２日

日本連盟公共奉仕綬　カブ隊　於　京都市.国際会館

歳末助け合い街頭募金.　並びに特別養護老人ホ-ムの除草や
慰問を１８年間にわたり継続実践した功労

平成７年５月２０日

団委員長　石川治男　副団委員長　小内安蔵
育成会長　新島清民

太田地区・太田第5団　1958(昭和33年)4月1日

入間基地　航空ショー見学(ボーイマカウト隊)

太田スポレク祭　うどんや出店(カブ・ベーバーマカウト隊)

“感激も一入・４７年目の１５周年”

太田地区　太田第6団

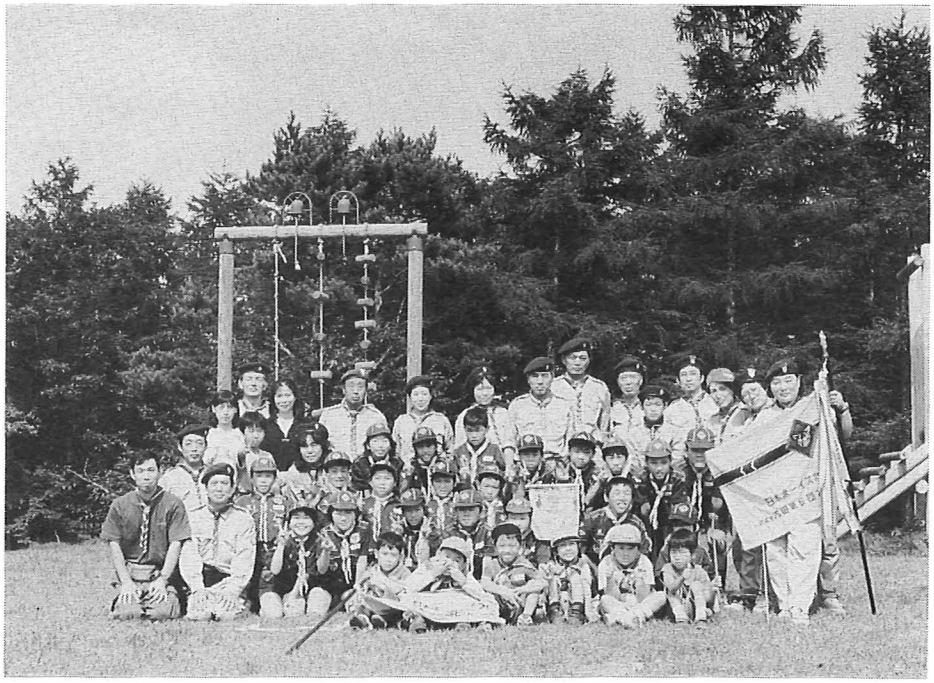
県連５０周年記念の年に当団も１５周年を迎えることになりました。

多くの関係者のご労苦の賜と、深甚より感謝を申し上げます。７５人のスカウトと３０人の指導者という大きな団に成長しました。新たな目標に向かい邁進してまいります。

・昭和27年1月25日、群馬県新田郡強戸村「新田第3隊・4隊」として発足。(登録番号：第3隊1724　4隊：1725)
・昭和27年7月24日、新田第6隊・7隊が発足。(登録番号　第6隊：1864　第7隊1865)
・昭30年登録をもって一時休隊。
・昭和32年強戸村が太田市へ合併。
・昭和34年7月28日、太田市第6団として再発足。(登録番号1345)
・昭和43年の登録をもって再度休隊。
・昭和59年11月23日ボーイ隊にて発足。(登録番号5726)
・昭和63年5月24日ビーバー隊、カブ隊発足。
　(登録番号　ビーバー隊：1114、カブ隊：5253)
・平成2年4月1日シニア隊発足。(登録番号3591)
・平成11年、発団15周年。

自他ともに誇りとする、地域性に富んだ私達太田第6団のホームグランドも、社会の動きの中で大きく変わろうとしております。

しかし、6団伝統のスカウト精神は今後も変わらず、引き続けられます。



思い出の団キャンプ：花見ケ原

団所在地：〒373-0074　太田市上強戸町1418　佐口通治(団委員長)宅　☎0276-37-0129

太田地区　太田第７団　発団 昭和５４年４月１日

◎わが団の歩み

当団は、昭和５４年４月１日に伸び行く韮川地域に健全なる青少年野成長を願い、２１年の長い歴史と伝統を持つ　太田第４団から分封発団以来、初代育成会長 故山崎 太一氏の「経験こそ宝なり」を信条に、いろいろな体験を積み重ねることにより、「知・徳・体」を兼ね備えたスカウトに成長し、正しく生きる力を育くみ、立派な人格と教養を身につけた社会人になるよう育成している。

◎活動の内容

毎週（２，３，４，５）日曜日午前１０時～１２時、韮川小学校の校庭を中心会場に、各隊の集会活動を行っている。各隊は、ボーイスカウトの教育規定に基ずいた技能を　身につけるべく訓練がなされています。

団行事として、新年会、上進・入隊式、サマーキャンプ、ウインタースポーツ教室、奉仕活動。スカウト展などを開催している。
さらに、太田地区のＢＰ祭、ビーバー・カブラリー、関東キャンポリー、日本ジャンポリー等に参加している。そして、太田第７７団との合同集会、２０周年記念「日光例弊使街道１４０ｋｍ踏破」も完歩しています。

団歌「緑の風」（作詞・作曲は育成会長）を持っています。

太田地区　太田第７７団　発団 平成4年4月1日

◎わが団の歩み

当団は、平成３年１２月　太田市立養護学校の生徒３名とリーダ３名での試行隊。　そして、太田第７７団ハンディキャップスカウト隊は、７団のもう一つの　”７団”として、平成４年４月にスカウト７名で発団しました。

平成４年５月２４日　太田市古代村「特設レンゲ畑」で、発団披露を行い、その後７月に　６名の追加登録が出来ました。

今年度の登録は、　スカウト１２名　役員、リーダー１０名です。

わが団は、７団斗同じく「経験こそ宝なり」を信条に、スカウトに適した活動の中で、まず第一に「自分のことを自分でやる・・・」「僕にもできるよ！！」を合い言葉に、一つでも多くの経験を重ね、親なき後の生活おも視野に入れて、親子・リーダーで頑張っています

◎活動の内容

毎週（２，３，４，５）日曜日、韮川小学校の校庭を中心会場に、生活習慣の基本・ゲーム・キャンプ・清掃奉仕と７団との合同集会等スカウティングを楽しんでいる。

第７回アグーナリーに　２４名参加　’９９年第８回アグーナリーに　１９名が参加予定です。（愛媛県松山市にて）

太田地区　第８団
昭和５６年６月５日発団

当団は発団して１８年を迎えました。活動記録として

☆金山清掃、ボランティア

☆地区行事の参加（文化祭、納涼祭、区民運動会）

☆道路・河川清掃（渡良瀬川、国道５０号バイパス、通学路）

☆地場産業の工場見学

☆夏期サバイバルキャンプ　離島シリーズ

	団	ボーイ隊	カブ隊	ビーバー隊
団委員長	久保田忠良、隊長	鹿山　康弘、隊長	堀越大祐、隊長	椎名常雄
育成会長	永岡　佐強、副長	五十木克明、副長	江原　睦	
			斉藤康弘	
			青木真彦	

太田第10団

地区名	太田地区
発団	初期登録：平成３年４月１日　団登録番号：５９４４
ベンチャー隊	初期登録：平成３年４月１日　隊登録番号：３６７１
ローバー隊	初期登録：平成３年４月１日　隊登録番号：１７６３

理解することは　　*知ると思う気持ちは*

完全なゴール　　*理解への第一歩*

当団は、平成３年４月１日太田第２団・３団・４団・５団・８団のスカウトを結集し、ワイルドなプログラムの実施展開を目的に発団し、常に課題意識をもって日々スカウティングに取組んでいるベンチャー隊・ローバー隊の団であります。また、ローバースカウトやローバー隊卒業スカウトは原隊の指導者となって、頑張っております。（原隊に還元を基本としています。）

登録状況　　（単位　人）

	H３	H４	H５	H６	H７	H８	H９	H10	H11
団委員	5	5	5	5	6	7	11	11	9
指導者	4	5	6	7	8	8	6	7	6
ﾍﾞﾝﾁｬｰｽｶｳﾄ	29	21	23	20	19	20	22	18	16
ﾛｰﾊﾞｰｽｶｳﾄ	10	15	16	19	15	17	14	9	13

館林第1団

団 初期登録 1960.7.5　ＢＶ隊 初期登録 1992.5.18　ＣＳ隊 初期登録 1972.7.8
ＢＳ隊 初期登録 1960.7.5　ＶＳ隊 初期登録 1980.4.1

スカウティングは、
つける魅力があるでいくらかでもわいだ。わたしは、長に大切にめんどればならないようウトではなく、荒自分でできる真の自信をもってもらが、元気よく何でていること、昔のたちの冒険心をか近代的なものがいるのにもかかわらいって自活し、野みたいと思っていている。私は、たか示唆し、君たちのを手助けしようだ。スカウティン気になって取り組ーむだ。他のゲーる内に、体力、知る。しかし、忘れは野外のゲームながあったらいつもしてすべてがうま楽しいキャンピンっている。

スカウトのモットー
そなえよつねに

裕保船橋忍橋本尚石島直樹山田哲馬加藤敬弘
一団古川正山小暮雅丈長柄純中山勉青山守治
小磯泰男後閑幸夫小暮飾子小峰富美子清水弘
之西上澄子横山裕信中島甲人荒井明空清水綾
岡安洋介西上和宏出井孝拓青木教和山本涼金
子伸和相川精一大西守舩生雅史金子ひとみ半
一団古川正山小暮雅丈長柄純中山勉青山守治
井悠太金子貴将竹内康裕佐竹豊中村和宏小川
智康西川智弘荒井晴之早川友孝片柳允寿相川
裕保船橋忍橋本尚石島直樹山田哲馬加藤敬弘
宜哉森田有機亀山秀一田部井博昭西川幸弘林
昌輝山口幸広飯塚達也小野寺保遠藤伸彦神田
脇千鶴岸本宏基志貴高広横田渉福原淳希須永
神田静一中村利光天笠博村山研介小磯泰男山
知亮間嶋義行寺田有岐根岸孝尚島津有宏渡辺
寛充相川真之介間嶋英樹小宮伸悟内山博允荒
井孝之阿部仁安岡智史鈴木隆紀二団丸山秀三
昌輝山口幸広飯塚達也小野寺保遠藤伸彦神田
知亮間嶋義行寺田有岐根岸孝尚島津有宏渡辺
神田静一中村利光天笠博村山研介小磯泰男山
田高廣結城豊大槻順一加藤美鈴江田政枝岸本
好美片柳美玲猿山久枝内田結花志貴裕子片柳
佑基猿山侑加浅海悠平江田登志成加藤敬之松
脇千鶴岸本宏基志貴高広横田渉福原淳希須永
裕保船橋忍橋本尚石島直樹山田哲馬加藤敬弘
亮介岩上和仁岡安慎介内田才也小林一雅小松
裕保船橋忍橋本尚石島直樹山田哲馬加藤敬弘
江原恭介大石鼻織後閑卯辰大槻勇太吉野祐亮
鈴木康洋鈴木拓也三団大西勇一沖田俊道高橋
脇千鶴岸本宏基志貴高広横田渉福原淳希須永
輝渡辺紳一郎小磯泰男大石一小川一美富博光
菊池久美子森田美奈子荒井大空林弘晃青木優
友富由佳森田荘洸菊池利典仙田美幸仙田悦子
昌輝山口幸広飯塚達也小野寺保遠藤伸彦神田

団委員長　古川正山

私たちみんなを引きことを、この本の中かってもらえたら幸君たちが、班長や隊うをみてもらわなけな隊の中だけのスカ野に出ても、すべてスカウトなのだと、いたいのだ。君たちも自分でやろうとし探検家や開拓者が君きたてていること、ろいろ発明されていず、独力で出かけて外生活の自由を楽しることはよくわかっだその方法のいくつが男らしい男になるとしているだけなのグは、熱意を持ち本めば、すばらしいげムと同様に遊んでい力、精神力が強くなてはいけない。これのだ。だから、機会野外に出たまえ。そくいって、君たちにグができることを祈

おかげさまで、発団　３９年　ヨロシク！

館林第１団

館林第2団

団 初期登録　1974．4.1　ＣＳ隊 初期登録　1974.4.1
ＢＳ隊 初期登録　1974.4.1

スカウトのモットー
そなえよつねに

スカウト諸君。
「ピーターパン」
る人なら、海賊の首
後の演説をするひま
思って、あらかじめ
ているだろう。私も
ぐ死ぬわけではない
思うので、君たちに
い。これは、君たち
るのだから、よくか
たまえ。私は、非常
た。それだから、君
同じような幸福な人
たいとねがっている
幸福に暮らし楽しむ
らしい世界に送って
私は信じている。金
会的に成功しても、
それによって幸福に
の第一歩は、少年の
体をつくっておくこ
おけば大人になった
立つ人になって、人
きる。自然研究をす
のために、この世を
らしいものに満ち満
におつくりになった

裕保船橋忍橋本尚石島直樹山田哲馬加藤敬弘
一団古川正山小暮雅文長柄純中山勉青山守治
小磯泰男後閑幸夫小暮節子小峰富美子清水弘
之西上澄子横山裕信中島甲人荒井明空清水綾
岡安洋介西上和宏出井孝拓青木教和山本涼金
子伸和相川精一大西守舩生雅史金子ひとみ半
一団古川正山小暮雅文長柄純中山勉青山守治
井悠太金子貴将竹内康裕佐竹豊中村和宏小川
智康西川智弘荒井晴之早川友孝片柳允寿相川
裕保船橋忍橋本尚石島直樹山田哲馬加藤敬弘
宜哉森田有磯亀山秀一田部井博昭西川幸弘林
昌輝山口幸広飯塚達也小野寺保遠藤伸彦神田
脇千鶴岸本宏基志貴高広横田渉福原淳希須永
神田静一中村利光天笠博村山研介小磯泰男山
知亮間嶋義行寺田有岐根岸孝尚島津有宏渡辺
寛充相川真之介関嶋英樹小宮伸悟内山博允荒
井孝之阿部仁安岡智史鈴木隆紀二団丸山秀三
昌輝山口幸広飯塚達也小野寺保遠藤伸彦神田
知亮間嶋義行寺田有岐根岸孝尚島津有宏渡辺
神田静一中村利光天笠博村山研介小磯泰男山
田高廣結城豊大槻順一加藤美鈴江田政枝岸本
好美片柳美玲猿山久棱内田結花志貴裕子片柳
佑基猿山俑加浅海悠平江田登志成加藤敬之松
脇千鶴岸本宏基志貴高広横田渉福原淳希須永
裕保船橋忍橋本尚石島直樹山田哲馬加藤敬弘
亮介岩上和仁岡安慎介内田才也小林一雅小松
裕保船橋忍橋本尚石島直樹山田哲馬加藤敬弘
江原恭介大石鼻織後閑卯辰大槻勇太吉野祐亮
鈴木康洋鈴木拓也三団大西勇一沖田俊道高橋
脇千鶴岸本宏基志貴高広横田渉福原淳希須永
輝渡辺紳一郎小磯泰男大石一小川一美富博光
菊池久美子森田美奈子荒井大空林弘晃青木優
友富由佳森田荘洸菊池利典仙田美幸仙田悦子
昌輝山口幸広飯塚達也小野寺保遠藤伸彦神田

の劇を観たことのあ
領が死ぬ時には、最
はないに違いないと
演説するのを、覚え
それと同じで、今す
が、その日は近いと
別れの言葉を贈りた
への最後の言葉にな
みしめてよんでくれ
に幸せな生涯を送っ
たち一人一人にも、
生を、歩んでもらい
。神は、私たちを、
ようにと、このすば
くださったのだと、
持ちになっても、社
わがままができても
はなれない。幸福へ
うちに、健康で強い
とである。そうして
とき、世の中の役に
生を楽しむことがで
ると、神がきみたち
、美しいもののすば
ちた、楽しいところ
ことがよくわかる。

団委員長　丸山秀三

おかげさまで、発団　２５年　　ヨロシク！

館林第２団

館林第3団

団 初期登録　1960.7.5　　ＣＳ隊 初期登録　1972.7.8

スカウトのモットー
そなえよつねに

スカウト諸君！
現在与えられている
をできるだけ生かし
悲観的にみないで、
持ってあたりたまえ
け与えることになる
が受け継いだときよ
るように努力し、後
きたなら、死ぬとき
自分は一生を無駄に
くしたのだという満
に死ぬことができる
死ぬために、この考
えよつねに」を忘れ
も、いつもスカウト
りたまえ。神よ、そ
たちを、お守りくだ

君たちの友

裕保船橋忍橋本尚石島直樹山田哲馬加藤敬弘
一団古川正山小暮雅丈長柄純中山勉青山守治
小磯泰男後閑幸夫小暮飾子小峰富美子清水弘
之西上澄子横山裕信中島甲人荒井明空清水綾
岡安洋介西上和宏出井孝拓青木教和山本涼金
子伸和相川精一大西守舩生雅史金子ひとみ半
一団古川正山小暮雅丈長柄純中山勉青山守治
井悠太金子貴将竹内康裕佐竹豊中村和宏小川
智康西川智弘荒井晴之早川友孝片柳允寿相川
裕保船橋忍橋本尚石島直樹山田哲馬加藤敬弘
宜哉森田有機亀山秀一田部井博昭西川幸弘林
昌輝山口幸広飯塚達也小野寺保遠藤伸彦神田
脇千鶴岸本宏基志貴高広横田渉福原淳希須永
神田静一中村利光天笠博村山研介小磯泰男山
知亮間嶋義行寺田有岐根岸孝尚島津有宏渡辺
寛充相川真之介間嶋英樹小宮伸悟内山博允荒
井孝之阿部仁安岡智史鈴木隆紀二団丸山秀三
昌輝山口幸広飯塚達也小野寺保遠藤伸彦神田
知亮間嶋義行寺田有岐根岸孝尚島津有宏渡辺
神田静一中村利光天笠博村山研介小磯泰男山
田高廣結城豊大塊順一加藤美鈴江田政枝岸本
好美片柳美玲猿山久枝内田結花志貴裕子片柳
佑基猿山侑加浅海悠平江田登志成加藤敬之松
脇千鶴岸本宏基志貴高広横田渉福原淳希須永
裕保船橋忍橋本尚石島直樹山田哲馬加藤敬弘
亮介岩上和仁岡安慎介内田才也小林一雅小松
裕保船橋忍橋本尚石島直樹山田哲馬加藤敬弘
江原恭介大石鼻織後閑卯辰大塊勇太吉野祐亮
鈴木康洋鈴木拓也三団大西勇一沖田俊道高橋
脇千鶴岸本宏基志貴高広横田渉福原淳希須永
輝渡辺紳一郎小磯泰男大石一小川一美富博光
菊池久美子森田美奈子荒井大空林弘晃青木優
友富由佳森田荘洸菊池利典仙田美幸仙田悦子
昌輝山口幸広飯塚達也小野寺保遠藤伸彦神田

団委員長　大西勇一

ものに満足し、それ
たまえ。ものごとを
なにごとにも希望を
。しかし、幸福を分
。この世の中を、君
り、少しでもよくす
の人に残すことがで
がきても、とにかく
過ごさず、最善を尽
足感をもって、幸福
。幸福に生き幸福に
えに従って、「そな
ず、大人になって
のおきてを、堅く守
れをしようとする君
さい。

「おきて」
ｽｶｳﾄは誠実である
ｽｶｳﾄは友情にあつい
ｽｶｳﾄは礼儀正しい
ｽｶｳﾄは親切である
ｽｶｳﾄは快活である
ｽｶｳﾄは質素である
ｽｶｳﾄは勇敢である
ｽｶｳﾄは感謝の心をもつ

おかげさまで、発団　１５年　ヨロシク！

館林第３団

大泉第3団（太田地区）　発団：1976年12月1日

群馬県連盟結成50周年おめでとうございます。
県連加盟の友団と共にお祝い申し上げたいと思います。
我が大泉第3団は発団以来本年で23年めを迎えようとしております。その間、先人皆様のご努力により現在まで継続して活動を行っています。
団スローガンとして『躍進大泉3団』を掲げておりますが、団の躍進、活性化ばかりでなく地区、県連盟の発展にも貢献してゆくことも狙いとしております。
その狙いを実践するために、過去、現在に至るまで県連理事、地区委員長又地区各種委員長等を選出して県連、地区発展のために努めてまいりました。
一方団の活動では、地元大泉中央公民館を基地に、指導者13名、ボーイスカウト15名、カブスカウト20名、ビーバースカウト4名総勢52名が大泉小地区の基幹団としての誇りを持って、小粒でもピリッとした味のある個性的な活動を進めております。
特に、スカウト、指導者、父兄がコミュニケーション図りながら一体となって、日頃の活動を進めている点が平凡ですが自慢とするところです。
現在大泉町には、4個団が登録されており、それぞれ特徴のある活動を続けておりますが、協力しあいながら団の活性化をしっかりと進め、これを基本に小地区、地区、そして県連発展のために今後も努力してゆきたいと思います。

団の紹介

地区名　　太田地区
団　名　　大泉４団
発　団　　１９７８，１０，５

ビーバー隊は、お友達と仲良く活動できて楽しいよ。川島隊長さんが、イチゴ狩りやハイキング、ゲームなどいっぱいやってくれるよ。ぼくビーバー大好きだよ。

カブ隊は、堀本隊長がいろんなプログラムを立ててくれるんだ。田んぼに入ってどろんこ活動したり、みんなで泊まったり、門松作ったり、工場見学もあるんだ。それに、カントリー作戦やボランティアにもいく。キャンプも楽しいんだ。友達いっぱいできるしね。

ボーイ隊は、野営をいっぱいやるぞ。協力して食事を作るんだ。メニューは、ぼくたちが決める。レポート書いたり、ナイトハイクにも行く。疲れるけど最高だ。手旗やいろいろなことも学べる。伊藤隊長のもと、みんな張り切ってるぞ。

大泉４団は、総員４４名である。
（ボーイ１１名、カブ１３名、ビーバー６名、と指導者）
各隊、協力しながら、今後もスカウトと共に規律ある楽しい活動を展開していきたいと考えている。

太田地区　大泉第５団　発団 1979年4月1日

団の歩み

昭和５４年４月発団以来、先輩リーダーの努力に支えられ２０年が経過しました。登録数の推移は、

	発団	５年	１０年	１５年	２０年	今年(21)
スカウト	２６	４５	８１	６１	５８	５８
リーダ	１２	２６	２９	２３	２５	２１
合計	３８	７１	１１０	８４	８３	７９

のように、初期１０年間は順調に拡大し、１０年目にピークを迎えその後は減少が始まり、今年はついに８０名を切った。就学児童の数の減少があるとは言え、初期の好調さを考えれば、１００名登録を保持したいが。　リーダー登録数も減少傾向にあるが、スカウト減少に伴うものである。

喜ばしいこととして、リーダーに若い力それも　”スカウト経験者”が　”５名”自団育ちが　”２名”加わっていることである。発団当時、素人・親のリーダーであったが、現在の　ＣＳ、ＢＳ、ＳＳの隊長はリーダとして入団したスカウト育ち。

現在　（９９年６月末現在）

ＢＶ：隊長 山崎千代子 副長 萩本　武士　　スカウト　　５名　（外国児童１名）
ＣＳ：隊長 池田　秀也 副長 松澤　勇　　スカウト　　７名
　　副長 服部千恵子 副長 長　京子
ＢＳ：隊長 市川　幸宏 副長 石井　悦男 副長 金田　勤
　　副長 大木　俊一 副長 服部　敏臣　　スカウト　１９名
ＶＳ：隊長 引間　敏夫 副長 上西　正久
　　副長 伊藤　博康(大泉4団)　　スカウト　２２名
ＲＳ：隊長 長尾　啓司　　スカウト　　５名
団委員：団委員長 高桑 幸望、副団委員長 諏訪勝太郎。育成会長 濱　道久　　団委員 入谷　忠
　　杉山 佳恵、大木 和江、鈴木 貞夫、　（兼）上西、　長尾

ボーイスカウト

大泉第2団

ボーイスカウト群馬県連盟創立５０周年記念年の年に伝統ある大泉第２団を復団致しました。

人格の高揚、健康づくり、知識・技術の伸長、奉仕の実践、の４つの基本理念を大切に、世界に適用できる、より人間性豊かな社会人、国際人づくり をモットーに、スカウト活動を展開して行きます。

団委員会

登録番号　第６１０３号　登録日　H.11.5.5

団委員長　波多野　健　・　副団委員長　福島　一夫・高柳　誠一（育成会長）

団委員　久保　明・中里弘子・酒井　厚志・横塚　佳弘・福島　清

ビーバー隊

登録番号　第２７９６号

登録日　H.11.5.5

隊長　福田　博美

副長　寒澤さゆき

補助者　森山　菊美

カブ隊

登録番号　第５６７５号

登録日　H.11.5.5

隊長　青山　幸弘

副長　養田　直人・村田　典子

デンリーダー　波多野元子

ボーイ班

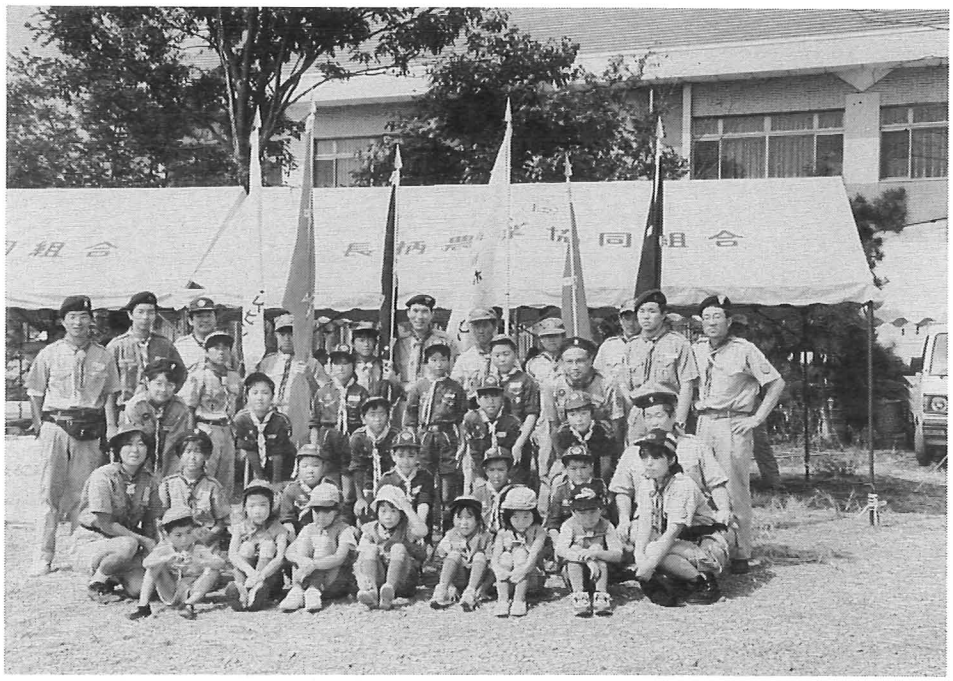
隊長　田沢　正弘

副長　中里　紀彦

副長補　山崎　広毅

［太田地区］ 邑楽町第１団 昭和５６年5月9日 発団

（邑楽町公民館にて）



団本部 〒370~0604 邑楽郡邑楽町石打１０８６－１原 義裕宅

団委員長	村山 勝栄	育成会会長	伊藤 辰夫
副団委員長	原 義裕	副会長	岡部 隆
団委員	広越 俊昭	会計	白井 浩美
	薬袋 利雄		
	浅沼 則孝		
	新井 保彦		
	鯉沼 良子		

ビーバー隊	カブ隊	ボーイ隊	ベンチャー隊
隊長→ 早川 千恵子	隊長→ 石垣 茂弥	隊長→ 広瀬 健二	隊長→内田 雅行
副長→ 岡村 祐美子		副長→ 大川 由明	

邑楽町第１団は、「緑と水の町」と言われる邑楽町にあり、平地林と田園に囲まれスカウト活動には、恵まれた環境にあります。

邑楽町第１団は、発団以来２０年、登録スカウト総数９８０余名、ますます充実発展し続けます。

太田地区　明和第１団〔発団　１９８９年4月2日〕

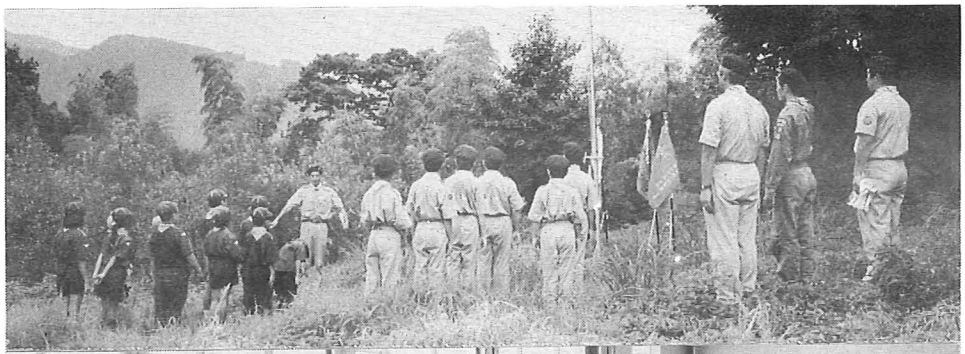
団の足あと

平成元年4月2日	カブ隊発隊　１６名	
平成2年4月1日	ビーバー隊発隊	ビーバー　９名 カブ　２７名
平成3年4月1日	ボーイ隊発隊	ビーバー　８名 カブ　１８名 ボーイ　９名
平成8年4月1日	シニア隊発隊	ビーバー　６名 カブ　１６名 ボーイ　１８名 シニア　５名

発隊当時は、団委員、指導者ともに、暗闇の中を手探りの状態であったが、「備えよ常に」のスローガンのもとに、奉仕と感謝と協調性を養いながら、「継続は力なり」をモットーに活動して来ましたが、１０年が経過致しました。

この後ろには、太田地区内の各団の皆様方の、御指導と御協力の御陰と改めてお礼と感謝を申しおげます。

本年は、１０周年の節目の年となりましたが、団委員、指導者、スカウトが一丸となって１５年２０年、３０年と頑張って行きたいと思います。



桐生地区のあゆみ

桐生地区協議会は市内団15ケ団を中心に、大間々・伊勢崎・藪塚本町の各１ケ団の合計18ケ団で組織をしております。

ビーバー隊14ケ隊・カブ隊15ケ隊・ボーイ隊15ケ隊・ベンチャー隊９ケ隊・ローバー隊５ケ隊の合わせて58ケ隊を擁し、登録人数も県下４地区の中で最大の1,100名を越える大地区として、すがすがしい活動を行っております。地区内ではここ数年、「減少傾向への歯止め策」「長期減少への危機感の認識と意識の改革」の必要性を深く感じ歯止め策と意識の改革に着手してまいりました。昭和61年の1,800名にならんとした時点から減少が始まり、10年前の40周年時の団数・登録人数（24ケ団1,600名を越える登録）には全くおよびませんが、部活・スポーツ少年団・塾等さまざまな減少傾向条件・又少子化社会の全国的減少傾向の流れの中にあって、前年度対比をプラスに転じる事が出来ました。運営の組織面でも、４ブロック政策から試行し基本の６委員会組織の組織拡張委員会14名、指導者養成委員会13名、進歩委員会15名、野営行事委員会20名、健康安全委員会14名、財政委員会16名として従来の2／3にスリム化しました。広報委員会、国際委員会、奉仕委員会はその都度その行事に対し組織する委員長１名方式として活動中です。正に少数精鋭の実践型（実務型）組織として徐々に真価を発揮してくれる事でしょう。

さて、桐生地区では昨年（平成10年）県連盟に先立ちまして、桐生地区結成50周年記念行事を行いました。11月１日には新設されました桐生市民文化会館シルクホールにおいて、大ホールを一杯にしよう！と沢山のスカウト・指導者・保護者が参加しました。ご来賓には桐生を中心とした関係行政、ライオンズクラブ、ガールスカウト役員、お世話になった関係団体、南武蔵地区の方々のご臨席を賜り盛大に行われました。又夕方よりレセプションをスカイホールにて開催し、240名を越える指導者・スタッフそして沢山のご来賓の方々で本当に盛大でなごやかなお祝いとなりました。節目の年としてあらためて考えますと桐生地区には特筆すべき組織活動がありました。その一つは、育成会組織の形成です。又もう一つは、スカウト募集の区割りがなくどこからでも自由に募集が出来る事です。

育成会組織については現在地区内18ケ団中12ケ団が同じ「若桐会」と言う育成会である事です。この形成は両刃の剣のごとく使い方運用方法によっては大変な弱点ともなりかねません。しかしながら「若桐会」は「金は出すが口は出さない」を通し、財政的に運営の不足分を援助する、協議会としては本当に力強い保護者であり団家族なのです。お金の心配が少なくなれば指導者は自覚と責任の中でのびのびとスカウトにサービスを提供出来るのです。周囲が動き出す事により、信頼と自信も生まれます。「一事が万事」のごとくなのです。活動においても「同じ釜の飯を食う」たとえの通り人間的つながりが好意的になりスカウト仲間でありながら仲間の中の仲間が出来るのです。桐生地区のひとつの強さかもしれません。区割りのない自由なスカウト募集は、桐生地区内であれば、どこからでもスカウト募集が出来ます。指導者は繋がりを通してどこでも募集します。用は「早い者勝ち」なのです。例えば、隣り同士が別々の団に入隊する事もまれではありません。その為、常に注意を払い自分の繋がり・友人・仕事仲間等々、誰れよりも早くスカウト活動を話し理解をもらうのです。子供同士でもその繋がりを大切に地道に友人関係を作ります。

桐生では必ずと言っていいほどスカウトの親同士、指導者とスカウトの親、スカウト同士いずれも人間的つながりの結果募集に成功しているのです。

対象年代の人員の減少、親の意識の変化、子供のニーズの変化等々沢山の問題もありますが、次世代の21世紀になっても「人間の繋がり」の重要性は変わる事はないと考えます。個性ある桐生の活動は21世紀にもさらに発展することと確信します。

桐生第一団

所在地	桐生市菱町二丁目１７３０
	（初期登録）
団	昭和４４年　４月　１日
カブ隊	昭和４４年　４月　１日
ボーイ隊	昭和４５年　４月　７日
ビーバー隊	昭和６３年　４月　１日
シニアー隊	平成　６年　４月　１日
ローバー隊	平成　８年　４月　１日

育成会長	河内　正美	県連理事 桐生地区副委員長
団委員長	小堀　順	桐生地区広報委員長
副育成会長	後藤　和俊	桐生地区副事務長
ビーバー隊長	山藤　節子	
カブ隊長	中村　博	
ボーイ隊長	角田　亘	
シニアー隊長	下山　晃正	
ローバー隊長	小堀　順	

桐生第2団

明日に向かって

ひとり一人個性があっていいなぁ
ひとり一人を尊重しょうよ　みんな仲間だよ
仲間は大勢いた方がいいよ　きっと力になるよ
あせらなくていいよ　いつの日かあなたが主役
子供も大人も大きな夢がある
みんな夢に向かって　みんながんばっているんだ
子供のために　何かしてあげようよ
時には　愚痴も出るさ　やりたいこもあるさ
でも子供の目は光り輝いているよ
輝きをいつまでも灯しつづけてあげようよ
輝きはいろいろなかたちになって大きくなるよ
それでいいじゃないか
報いをもとめず　子供のために何かしてあげようよ
みんなで小さな力を寄せあって

団　登　録	１９５８年４月１日
ビーバー隊登録	１９８８年５月２３日
カブ隊登録	１９７４年４月１日
ボーイ隊登録	１９７４年４月１日
ベンチャー隊登録	１９９９年４月１日

育成会長　斎藤 久雄
団委員長　小林 規男　副団委員長　岡部 晋久　石川　裕樹　小野里 俊夫
団委員　斎藤　晃一　三村　弥生　田島　晶平　山根　順一郎　新井　博次　月門　快憲

ビーバー隊　隊長　入沢　千賀子　補助者　竹ノ内　善章
スカウト　竹ノ内　俊介　常塚　浩士　長田　将　植竹　雄哉　横倉　太緒　入沢　教明

カブ隊　隊長　岡部　晋久　副長　加藤　隆一　常見　恵子
スカウト　髙橋　雅仁　田島　諒介　斎藤　勇介　加藤　卓実　常見　竜哉　山根　大希　入沢　彩華
植竹　唯香　大貫　順也　芹沢　悠介　長竹　真奈

ボーイ隊　隊長　小林　規男　副長　髙橋　一郎　小林　金四郎
スカウト　伊藤　伸之佑　横倉　光　中村　宏史　斎藤　久敏　小林　俊希　伊藤　邦晃

ベンチャー隊　隊長　西牧　秀乗
スカウト　三村　辰徳

祝 群馬県連盟創立５０周年
ボーイスカウト桐生第３団

私たちも３０周年を迎えることが出来ました。

プロフィール

昭和３３年 ４月２３日　桐生地区第３団 登録

昭和４５年 ４月　７日　ＢＳ隊　登録

昭和４５年 ４月　７日　ＣＳ隊　登録

昭和６２月 ４月　７日　ＢＶ隊　登録

現在、「そなえよつねに」、「スカウトは永遠」

をモットーとし活動中です。

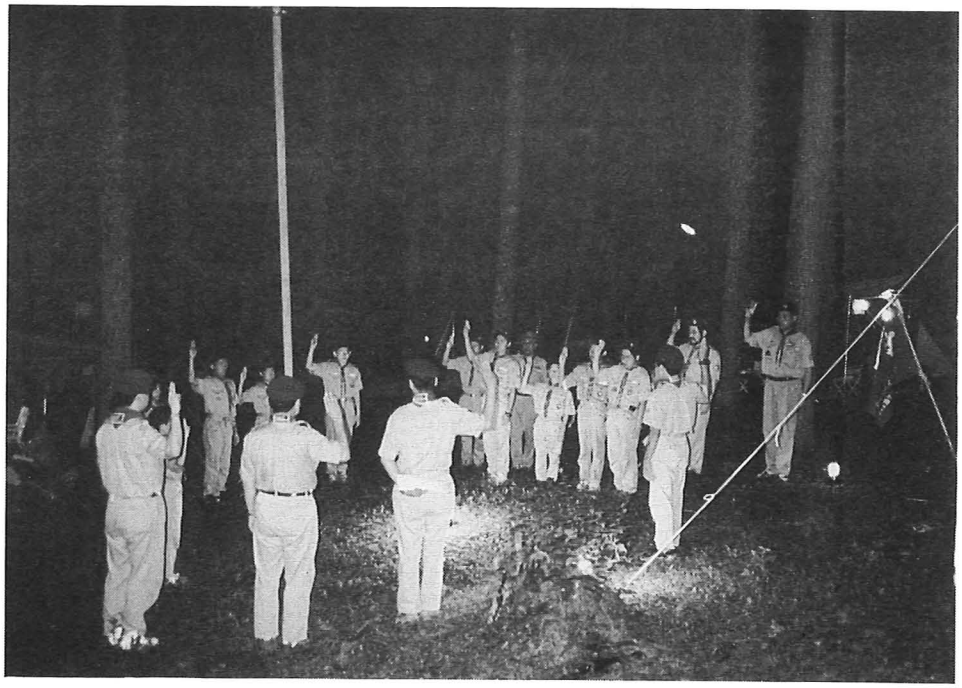
ボーイスカウト 5 KIRYU

昭和45年4月2日発団

この道
遠くて遙かな道
熱き心

ビーバー隊スカウト１０名リーダー２名
カブ　　隊スカウト１６名リーダー３名
ボーイ　隊スカウト２６名リーダー６名
ベンチャー隊スカウト１０名リーダー２名

団委員２０名



桐生地区

Boy Scout Kiryu 6

自然にやさしく
人にやさしい
元気なスカウト

みんなの思い

大自然の豊かな環境の中で
自然へのやさしさと思いやり
人へのやさしさと思いやりを
子供の頃から大人になるまで
じっくりと時間をかけて感じてほしい
そして　いつも前に向かってハツラツと歩んでほしい

ボーイ隊発隊　１９５４年１０月７日
発　団　１９５８年４月３０日

桐生第8団

創立 38年

所在地	桐生市東1-13-27 桐生カトリック教会
団登録番号	3676
初期登録	昭和46年 5月12日

ボーイスカウトの精神をもとに、キリスト教的社会観、道徳観を養い、円満な社会人となるべく、スカウトを訓育することを目的として、活動を続けています。

団委員長	彦部雪夫
副団委員長	荒井秀夫
ベンチャー隊長	関口雄三
ボーイ隊長	富井秀則
〃 副長	藤川幸男
〃 〃	小野幸代
カブ隊長	伊藤昇
〃 副長	関口安三
〃 〃	奈良尚示
〃 〃	大里隆
デンリーダー	吉田美代子
〃	藤田喜久
ビーバー隊長	椿律子
〃 副長	加藤紘之
〃 〃	茂木典子

BOYSCOUT桐生9団

桐生９団の歴史

No.2198　昭和38年6月発団登録
昭和38年6月　ボーイ隊発隊
昭和46年4月　カブ隊発隊
昭和63年9月　ビーバー隊発隊

近況報告

ビーバー隊	スカウト・リーダー合計１３名
カブ隊	スカウト・リーダー合計３２名
ボーイ隊	スカウト・リーダー合計　９名
団委員	7名

ビーバー隊　スカウト

隊長　下山秀一　下山志野　久保田沙紀　中島真美　蓮彩　夏　村田陽亮

副長　藤田晴美　中山　拓　藤田隼人　不破健富　角本見月　尾島宥俊

副長　村田雅美　会計　中山俊子

ボーイ隊　スカウト

隊長　横塚明久　米川裕基　小林直樹　高実子愛未　栗原圭祐　高瀬正瑛　遠坂友里恵　藤田　圭　姪間洋明

カブ隊　スカウト

隊長　村田欽也　木村仁美　岡田賢太郎　米川　淳　岡村秀希　遠度一貴　木村圭吾　下山文野　三河明日香　金井沙織　毒島舞生　中島　薫

副長　岡村恵美子　村田貴大　角本健太郎　茂木悠希　蓮　昌俊　木村朱美　住谷康成　高実子文哉　神山知世　中島真理菜　中島千晴

副長　高実子けい子　副長　角本恵子　副長　住谷真由美　リーダー　茂木真砂代　金井弘子　三河昌代　神山葉子　岡田和子　中島奈美

団委員長　金沢孝吉　育成会長　新木明夫

副団委員長　江泉文生　副団委員長　井田邦夫　団委員　朝倉　巌　団委員　木村正人　団委員　栗原　正人　団会計　藤田豊子

桐生第10団の紹介

{ 発 団 } 昭和 38年12月15日
{ 団員数 } スカウト、リーダー28名、団委員6名、計34名

[活動状況]

我が団は、全国でも極めて珍しい企業内に組織された職域スカウトの団です。現在のメンバーは、ほとんどの人がリーダーの資格を有しており、平均年齢が高い事もあり、派手な活動は少ないが、いざという時の結束力は強く、これが自慢です。

昭和38年12月、シニア隊として発団し、その後、昭和43年にローバー隊として発足現在は、ローバー隊のみで活動しています。

昭和40年代後半から昭和50年代前半にかけては、桐生地区内の指導者不足に対応し、多くの団に、隊長、副長として隊員を派遣し活動の活性化に貢献してきました。企業内においては、スカウト精神を発揮し、良き企業人である事を、心の支えとして、それぞれの隊員が、重要なポストをまかされています。又、毎年開催される、桐生祭りにおいては、ジャンボパレードの警備を担当し、祭りの盛り上がり役となっています。

我々の最も実力を発揮する場面としては、野営大会の奉仕活動で、日本ジャンボリーをはじめとして、関東野営大会、県野営大会、地区野営大会等への支援活動です。そうした活動を通し、人格を高め多くの人に役立つ事を続けて行きます。

[問い合わせ]

群馬県桐生市広沢町 1-2681 (株)ミツバ内‥‥TEL・0277-52-0111(代表)
育成会長、日野 昇 団委員長、上山 明 RS隊長、松井 栄三

ボーイスカウト桐生第１２団

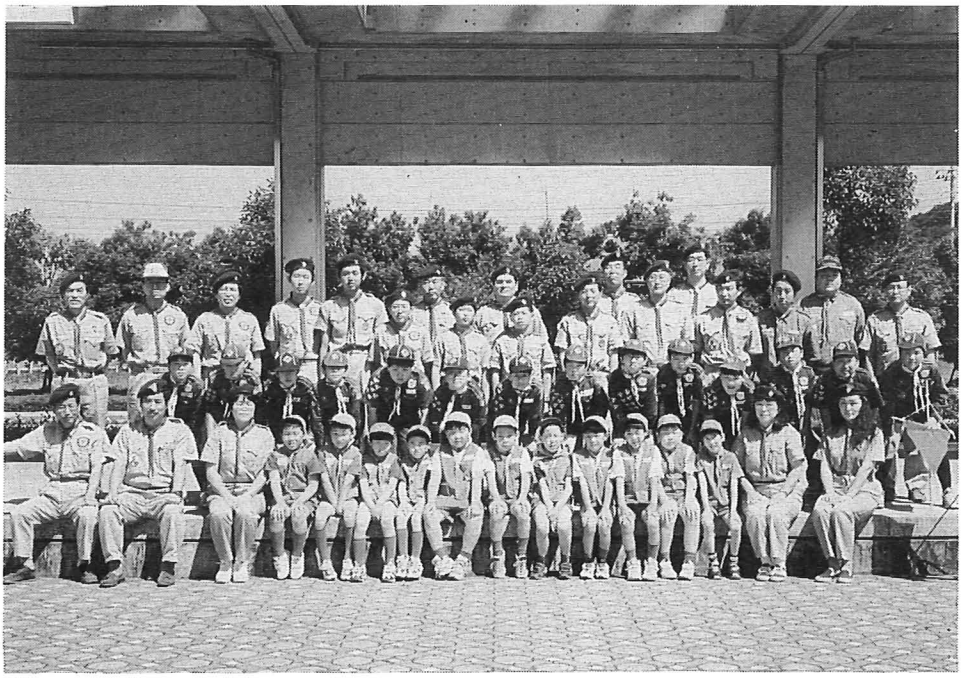
所在地　新田郡笠懸町鹿4152

発団　　昭和　42年　6月7日
登録番号　2979

シニア隊　平成2年4月1日
ボーイ隊　昭和42年6月7日
カブ隊　昭和42年6月7日
ビーバー隊　昭和62年4月1日

団員総数　71名

当団は、発足して満32年を迎えました。今後も野外活動を通じて、アウトドアスキルの向上と協力の精神を培います。
また、積極的に地域の奉仕活動を行い、青少年の健全な育成をめざします。



ボーイスカウト桐生１３団

発団年月日

シニア隊　昭和４８年４月１日　カブ隊

ビーバー隊　平成８年６月６日　ボーイ隊

団委員長　五嶌　實

副団委員長　飛田　清雄　　団委員他　１５名

育成会長　新井　庫太郎

カブ隊

隊長　伊藤　繁義

副長　牧　守

阿部　好野

スカウト

伊原　辰哉・伊原　航平・五嶌　絵美

今泉　直貴・石原　美帆・八木　崇泰

坂口　奈々・五十嵐　快・新井　里実

津久井　愛末・藤生　莉江・津久井　裕基

山口　将記・新井　美貴・早川　彩里衣

ベンチャー隊

隊長　新藤　洋一

副長　猪瀬　公敏

スカウト

横塚　勝久・高松　邦夫・久保　拓也

野崎　真史・清水　亮平・梶山　大輔

鳥島　一浩・窪田　俊

ビーバー隊

隊長　佐々木　千恵子

副長　長野　雄二

スカウト

田島　来美・町田　直弥

加藤　夕奈・石原　司

新井　美絵

ボーイ隊

隊長　吉田　節子

副長　横須賀　邦一

北川　久人

スカウト

五嶌　美加・八木　友美

石原　志保・藤生　有香

弥栄　ボーイスカウト群馬県連盟　50周年

桐生地区協議会

ボーイスカウト
桐生第14団

団	初期登録	昭和４９年４月１日	ボーイ隊	初期登録	昭和５１年４月１日
	団登録番号	４２１４		隊登録番号	６３１２
カブ隊	初期登録	昭和４９年４月１日	ビーバー隊	初期登録	昭和６２年４月１日
	隊登録番号	２５９６		隊登録番号	５６７

桐生第１６団

初期登録：　昭和５１年４月７日
登録番号：　第４５５１号

沿革：昭和５１年４月に桐生第１１団の分封団としてカブ隊のみで発団し、昭和５３年４月にボーイ隊が発隊、平成２年４月にビーバー隊が発隊する。来年、団の２５周年。本年８月にビーバー隊の１０周年記念行事を行いました。

育成会長　井上藤男　　団委員長　岩野和正
団委員　斎藤精一　今泉信子　田辺しず子　阿左美和巳　黒沢真理子

ボーイ隊

初期登録：昭和５３年４月１日　　登録番号：第６６４９号

隊長	岩野和正				
副長	須田一成	桑子伸一郎			
スカウト	牛房　博	金子有仁	二渡隆征	周東知希	津久井直樹
	金井　亮	大沢祐樹			

カブ隊

初期登録：昭和５１年４月７日　　登録番号：第３４３５号

隊長	周東忠志				
副長	津久井伸二	今泉信子	金井比呂子	向井靖江	
スカウト	神山好恵	白川真唯	神山弘美	新井貴之	向井孝行
	阿左美琴乃	曽根綾乃			

ビーバー隊

初期登録：平成２年４月１日　　登録番号：第１４７８号

隊長	二渡香代子				
副長	大沢久美子	宮田秀次	早川千代子	曽根祐子	
スカウト	大沢克帆	二渡飛竜	白川皓祐	石川潤哉	田辺勇輝
	阿左美和沙	曽根崇弘	早川知忍	宮田拓摩	井田佳佑
	新井鈴加	中川大理	藤生直恵	浅野大空	
	金子勝也	園田和也	藤生拓磨	浅野大地	

団委員と育成会				
八木　健　団委員長	赤石　一郎	大沢　正俊	松本　清子	須藤　敦子
松田　茂　副団委員長	内山　信	朝倉　式子	渋沢　岩生	栗原　秀雄
入口　富夫　副団委員長	野津　亮子	兒島　光枝	今泉　久枝	
阿部　和市　相談役	江原　毅　育成会長	武井　毅　育成会副会長		

ビーバー隊	[昭和62年4月1日　発隊]			
蛭沼　伸司　隊長	浅井　美穂	茂山　和利	山藤　修	
山田　沙武	蛭沼　伸彦	浅井　仁靖	稲村　仁	山洞　隆弥
山藤　渉	茂山　順弘	堀内　奎輔	板橋　怜史	山岸　亮太
山洞　雄真	今井　翼			

カブ隊	[昭和53年4月9日　発隊]			
飯野　方順　隊長	毒島　征子	菊地　清	大沼　由江	高田　惣一郎
小日向　正夫	浅田　良一	峰岸　茂樹		
峰岸　亮	河崎　大樹	飯野　雅陽	稲村　聡	立沢　貴志
大沢　武弘	辻　建佑	山藤　瞭	浅田　祐介	田島　恵介
大沢　知弘	茂山　晧正	田中　智大	渡辺　愛美	松島　利周
武井　陽香	石田　陽子	林　遼	高橋　和真	石田　和之

桐生第17団

昭和53年3月26日発団
番号　4911
平成11年4月1日現在
登録者数　133名

平成5年5月15日
日本連盟より、
公共奉仕綬を
贈られる。

17団　手作り　かど松

ボーイ隊	[昭和55年4月13日　発隊]			
八木　健　隊長	上條　登	桐山　修一	常塚　昌治	前原　幸夫
辻　和宏				
大川　翔太	前原　彬宏	高田　泰輔	桐山　弘章	須藤　大介
星野　友幸	神谷　知宏	吉沢　和也	吉野　雅人	岡部　雅法
関口　尚宏	辻　幸佑	横山　浩二	下山　有砂	浅井　菜穂
蜂須賀　悠	内山　亮	赤石　智孝	大沼　理也	桐山　彰一
今泉　紀寿	飯塚　紹光	赤石　貴宏	常塚　尚孝	斎藤　聖武
茂山　治久	別府　優樹	岡田　隆宏		

ベンチャー隊	[平成2年10月14日　発隊]			
大橋　昭雄　隊長	関口　達夫			
野津　将仁	横坂　尚幸	大塚　正博	朝倉　寛行	上條　広高
関口　智哉	田中　雅之	山口　裕次	佐藤　好一	河内　友久
新井　健弘				

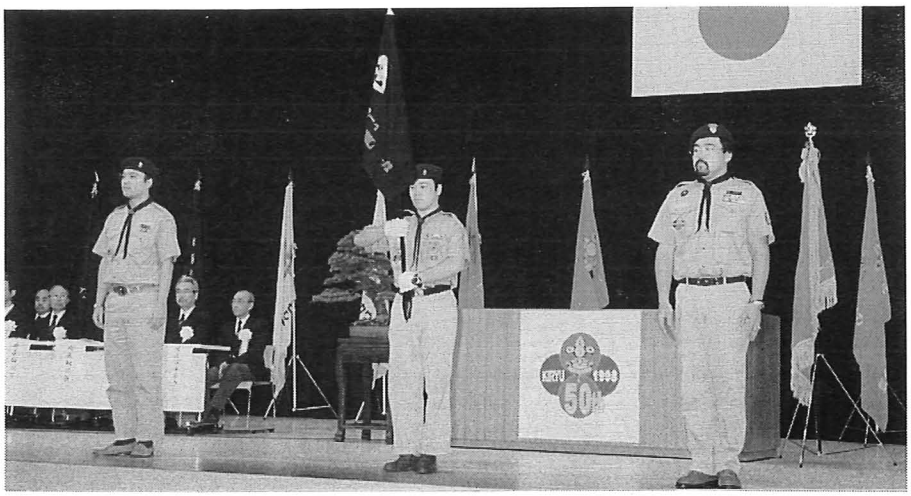
ローバー隊	[平成5年4月1日　発隊]			
阿部　真児　隊長	田中　千恵子	星野　裕之	山口　美代子	神谷　味代子
大川　知香子	斎藤　恵子	立澤　智子	河崎　祐子	
加藤　俊介	山田　直人	大橋　史紀	伊藤　智耶	北山　直紀
松本　光広	江原　洋介	武井　淳	高草木　紀彦	阿部　睦
細野　圭祐	荻原　正幸	八木　渉	武井　仁	丹羽　明宙
山本　高雅	藍沢　明道			

1980年4月26日発隊

桐生地区第20団
ローバー隊

団委員長
津久井　滋
副団委員長
堂前　久雄
団委員
渋木　羨夫
平方　敏郎
竹田　賢一
森山　照夫
須永　弁次
坪野　　茂
周東　正治
福田　英雄
鶴貝　忠七
平方　佳介
（順不同）

隊　長
川合　誠司
副　長
吉田　光宏
江原　雅人
スカウト
松井　雅広
杉山　慎也
岸　　克幸
森田　将行
長　成一郎
米山　武志
周藤　猛史
蛭間　基晴
岩野　功佳
籾山　友彰
毒島　邦男
須田　俊亮
（順不同）



１９９７年（平成９年）４月２０日発団

ボーイスカウト桐生第５０

10－02－01－050

曹洞宗スカウト協議会

登録 第10－1号

（発団概要）

目　的　　21世紀に向って、健全なる青少年の育成を目的とした、青少年の社会教育団体の一つとして、明日の日本をになう、りっぱな青少年を作るため、正しい社会生活を身につけ、心身とともにりっぱな公民を養成する公民教育を目的とする。　　（青少年育成事業）

ボーイスカウトの組織を通じて、青少年が自発的活動により，自らの健康を築き、社会に奉仕できる能力と人生に役立つ技能を体得し、かつ誠実、勇気、自信、及び国際愛と人道主義を把握して、奉仕活動が実践できるよう教育することを目的とする。

育成会　　**鳳仙寺スカウト育成会（桐生市梅田町1丁目58　℡ 32-1177）**

スカウト教育に必要な施設や用具を整え、教育、訓練、活動の資金援助をして、充分に目的を達成させる責任をおう。

支援団体　　**桐生ボランティア共和国　／　桐生市ボランティア協議会**
曹洞宗スカウト協議会

ボランティアスカウト（男女）募集要項

高校生、大学生、25才位迄の年代の方でボランティア活動に参加してみようと考えている人。又自分一人では活動も活動方法もわからないで二の足を踏んでいる人。　スカウトの一員として協力して役割と責任を分担すれば無理せずにボランティア活動ができます。

自分の将来をみつめ、進んで地域社会における役割と責任を学ぶことで、 他の人々や社会に奉仕できるよう日頃から訓練を積み、奉仕に必要な技能と正しい判断力、そして、行動力を身に付けておくことが必要です。

「 喜ばれる 悦び 」を肌で感じて見よう

大関々　第1団

発団 昭和40年 モットーは「質実剛健」

ボーイスカウト

薮塚第１団

団初期登録　昭和５８年４月１日

カブ隊発隊　：　昭和58年4月1日
ボーイ隊発隊　：　昭和59年4月1日
ビーバー隊發隊　：　平成4年4月1日

地域との連携深め、共存する社会奉仕に
スカウト家族で楽しい"スカウテイング"を

【活　動】

「ちかいとおきて」を実践したくましく思いやりのある薮塚本町の少年を育成することを目指し、「薮塚にボーイの火」を永遠に灯しつずけられるよう地域との連携を深める活動をしている。

【生い立ち】

赤城国体が開かれた昭和58年、桐生地区が広域のボーイスカウトの発展と充実を願って組織拡張を展開した際に発団した。発団当初は日々の活動の備品も不足していて苦労もしたが、スカウト家族の協力も有り平成4年には、ビーバー隊が発隊するなど軌道にのり、現在地域に定着している。

【主な行事】

5月：町民歩け歩け大会　8月：薮塚まつり　10月：町民運動会
10月：ゲラの巣箱かけ　赤い羽根募金運動参加
山と緑の会（自然をまもる運動）参加等々

【問い合わせ】

薮塚本町大原638の20　高橋新一方（TEL0277・78・2823）

桐生地区

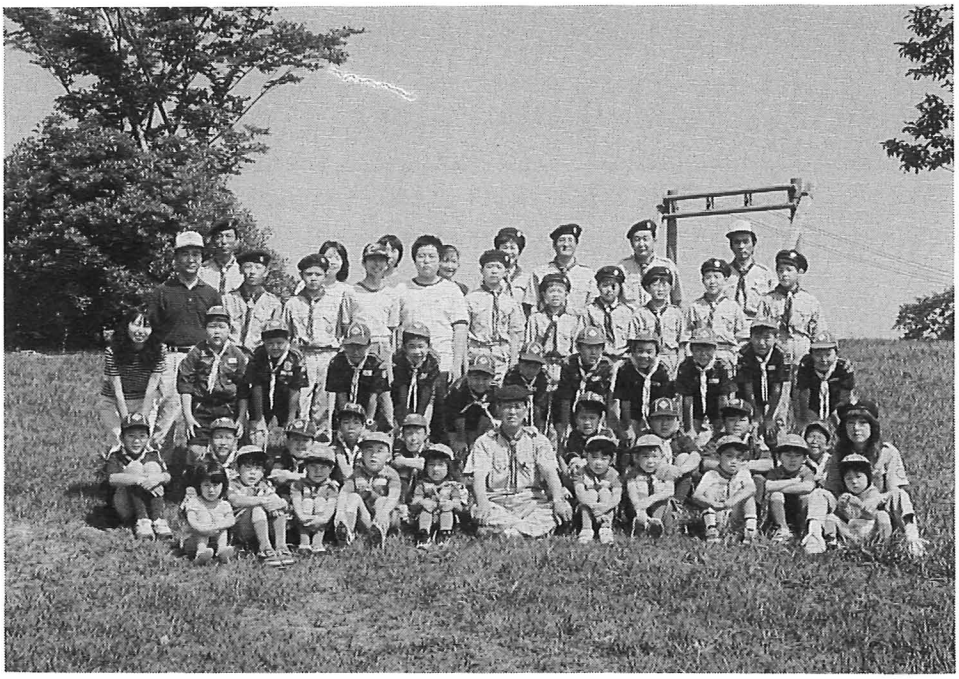
伊勢崎第１２団

発団　カ　ブ　隊　昭和５８年４月１日
　　ボーイ　隊　昭和６２年４月１日
　　ビーバー隊　平成１０年４月１日

発団以来１５年を迎えることが出来ました。伊勢崎市の中にただ一つの団であり、赤堀、東村よりスカウトが集まり県立青少年育成センターを拠点に、集会　ディキャンプ　等行なっています。

これも諸先輩の暖かいご協力があっ手こそ長い歴史が出来たものと思います。１２団が永遠に続くよう努力していきます。

育成会長	上岡敏明	ＢＳ隊長飯島克也	ＣＳ隊長梅掘公孝
団委員長	後閑茂一郎	副長志村幸枝	副長飯島江利子
団委員	新木源助	ＢＶ隊長萩原勝美	渡辺悦子
	板垣勝正	副長小関しげ子	鈴木淳詞
	山崎芳夫	佐藤千秋	木村利幸
	宮田忠次	小林くるみ	徳江昭治
	佐藤好彦	重田敦子	宮田　洋



高崎地区のあゆみ

昭和20年（1945）８月15日、長く苦しかった戦争に終わりを告げ連合軍の占領下で、新生日本の苦難に満ちた再建の道を歩み始めた。

昭和22年３月31日、新しい教育の基礎となる教育基本法、並びに６・３・３制の学校制度を定めた学校教育法が公布され、それに基づいて４月１日新制中学が発足しました。しかし当時は校舎がなく、旧市内の新しい中学生全員が高崎歩兵15連隊が明治17年より使用していた古い兵舎の跡でした。

当時は、机、椅子もなく教科書も充分になく、ほとんど勉強が出来ない現状でした。

そんな時、ユニセフ協会より文房具、食料品等の支援があり、多くの子供達が救われました。そんな苦しい時代を忘れずに、現在も紛争のため飢餓と病気に苦しむ子どもたちの為に、自分たちは何ができるかを考え、募金等のご支援をお願いします。

昭和24年７月10日高崎第１隊結成、同年10月１日加盟登録承認、５～６年の間に学校校区中心に22隊発隊、すぐに指導者不足のため消滅、その後一時、活動が低迷、38年頃より先輩の熱意により復活、昭和58年頃迄には順調に来ましたが、以後地域の児童数の減少、青少年に対するニーズの多様化、スカウト運動を取り巻く社会情勢のなか、登録人員減少に危機を感じている時に、組織拡張委員会の『募集の手引き』大人のためのスカウティングを平成７年９月発行を戴き、皆様の努力によりここ数年の間に減少に歯止めをかける事が出来ました。

現在、高崎地区は市内に９ケ団、箕郷町、群馬町、玉村町、吉井町、榛名町、計14ケ団登録人数約1,000名で活動しています。平成11年度県連年次総会に於いて、組織拡張優良団として、県連より、17団対前年度11名増加、19団12名増加、榛名町１団15名増加、３ケ団が表彰を受けられました。特に昭和41年６月１日高崎19団は加盟登録以降地方には数少ない、大学（高崎経済大学ローバー隊）として地域で活動しています。今年度も夏休み前に、20数名の追加登録の予定です。

松井田町１団が間もなく発団。

99-2 指導者講習会に松井田町より４名の方が参加受講、修了されました。

地区副コミ　ビーバー担当訪問指導。

発団に向かっての事務処理等手続きについて、地区として全面的に支援を行いたいと思います。今後近隣の市町村未組織地域への発団促進。

第９回カブラリー

『いってみよう、やってみよう、観音ワールド』

平成９年５月25日観音山丘陵を会場に実施されました。前日は他の地区スカウトをホームステイして受入れ、地区間の交流を図る事が出来ました。今回は高崎児童文化スポーツ連合会後援により、ガールスカウト、市内小学生も一緒に参加いただき、当日は約2,300名の参加のもと盛大に開催されました。スカウト活動のアピールを行う事が出来ました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

平成12年２月に地区スカウト運動50周年記念行事に向けて、ガールスカウトと共に実行委員会を開催し準備中です。同年は西暦2,000年の高崎市制100周年さらに21世紀にむかって、未来、げんき、高崎100年の記念事業の一環として、高崎市児童文化スポーツ連合会として姉妹都市アメリカ・バトルクリーク市のスカウトを祭りに招待ホームステイを計画中です。

発団以降継続行事その他

昭和28年　第１回高崎地区野営大会
　　7／26-28（東小学校々庭）現在４年に一度開催

昭和36年　高崎ボーイスカウト・ガールスカウトの歌“若さが いっぱい”

昭和56年　高崎地区スカウト運動30周年記念の歌“ふみだせ一歩 あすにむかって”

昭和38年　第１回観音山清掃奉仕
　　（全国スカウト奉仕週間）

昭和38年　高崎地区第１回B-P祭
　　現在２年おきに開催

昭和49年　第１回高崎祭り参加以降毎年実施

備えよつねに　**高崎第7団**　伝統の継承

高崎・横浜交歓会　妙義神社にて　（二・三・二八）

1　高崎第７隊結成　昭和２６年　９月１５日
日本連盟加盟承認　昭和２７年　３月　７日

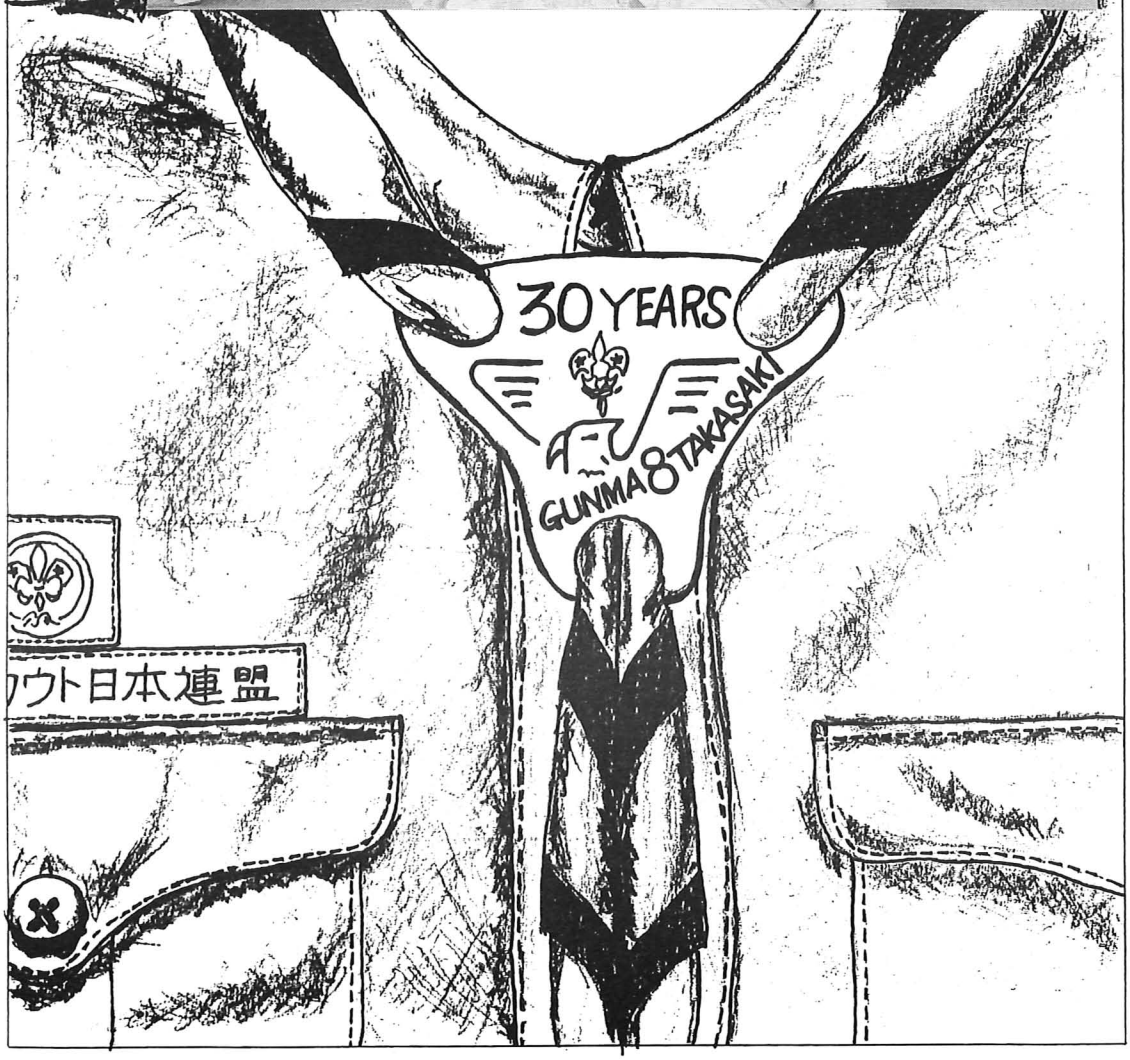
2　主な行事

昭和２７年　第４回全群馬野営大会参加　以後毎回参加
　　群馬県連盟結成記念大会（高崎市立南小学校）以後毎回参加
昭和２８年　関東地区招待野営大会（新鹿沢）参加
昭和３０年　第１回全国１級スカウト富士特別訓練大会参加
昭和３２年　日本連盟海外派遣（アメリカ）群馬県連盟第１号として１名が参加
　　鼓隊を編成　各種行事に参加
　　ＵＳＡカブスカウトとのお別れ交歓会（観音山）
　　第１回関東キャンポリー参加（銚子・君ケ浜海岸）
昭和３３年　日本連盟規定変更に伴い団名が高崎第７隊から高崎第７団に改称
昭和３４年　第１０回世界ジャンボリーに２名が参加
　　第２回日本ジャンボリー参加（滋賀県・あいば野）以後毎回参加
昭和３６年　第１回団スキー訓練開催　以後毎年開催
　　日本連盟海外派遣（沖縄）２名が参加
昭和３７年　第１回高崎第７団・横浜第３団交歓（横浜交歓会）開催　以後毎年２回開催
　　第１回群馬カブラリー（高崎市内パレード・護国神社）参加
　　第１回アジアジャンボリー（御殿場）参加
昭和５１年　２４時間サイクリング　シニアー隊　高崎～水戸往復
昭和５４年　高崎第７団友好団の横浜第３団結成３０周年記念行事に参加
昭和５５年　高崎第７団より高崎第６団分封　加盟登録
昭和５６年　高崎第７団結成３０周年記念行事「運動会」実施
昭和５８年　高崎第７団本部舎新築（高崎市高砂町）
昭和６２年　日米フレンドシップパトローリー参加（キャンプ多摩）
平成　元年　高崎ふるさと祭りの市中パレードにカブ隊の鼓隊が参加
平成　２年　高崎第７団結成４０周年・第６団１０周年記念行事「鹿沢キャンプ」実施
平成　３年　全国自然公園大会にボーイ隊・シニアー隊参加
平成１１年　高崎第７団結成５０周年記念前行事「尾瀬キャンプ」実施

輝く瞳にあいたくて

ボーイスカウト高崎第8団

発団 1969. 5. 20



高崎 第１２団

加盟登録　昭和３７年　４月１１日

ＢＳ	発隊	昭和３７年	４月１１日
ＣＳ	発隊	昭和３９年	４月　１日
ＢＶＳ	発隊	昭和６３年	４月　１日
ＶＳ	発隊	平成１１年	４月　１日

育成会長	山田 雅巳
団委員長	山中 正喜
副団委員長	滝沢 求
副団委員長	清水 広行
団委員	碓井 弘
団委員	中曽根 哲次

ボーイ隊	隊長	岡田 忠行
	副長	永田 裕之
カブ隊	隊長	吉田 晶徳
	ＤＬ	滝沢 春枝
	ＤＬ	清水 里子
ビーバー隊	隊長	竹内 賀美
	副長	清水 弘美
ベンチャー隊	隊長	山中 正喜

高崎１５団

地区：八幡町、剣崎町、町屋町、豊岡町、下豊岡、鼻高町、安中市
発団：１９５９年１０月１０日

小さい団ですが元気です！！

高崎１５団・ビーバー３人　カブ４人　ボーイ８人　は，お正月の餅つきから始まり、夏のキャンプ、夜間ハイク、年末のやみ鍋まで楽しく過ごそうをモットーにスカウト活動をしています。
また、年間を通じて体力作りのためにユニホックの練習もしています。

いま一番力を入れているのはログハウス建築への挑戦です。　基礎工事、丸太集め、丸太の皮むき、組み立て、すべて自分たちでやっています。現在、屋根のペンキ塗りまで仕上がっています。
出来上がれば、活動の拠点として利用し行動範囲が広がることを期待しています。

入団連絡先　原田　邦昭　（育成会長）　０２７－３４４－６０８８
　　または飯沼　正　　（団委員長）　０２７－３２３－３７１２

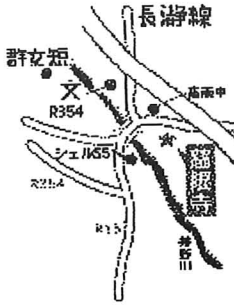
＜　建築中のログハウスの前で　＞

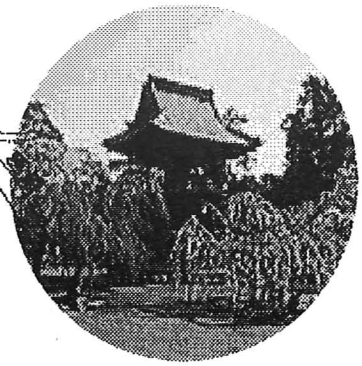
高崎第17団

日本ボーイスカウト群馬県連盟
高崎第１７団所在地
高崎市下滝町１９　慈眼寺
TEL. 027-352-8365
FAX. 027-352-8470
平成１１年４月１日現在登録数
７７名

初期登録
第２５７９号 昭和４０年４月１日
各隊発足年月日
カブ１隊　昭和４０年４月１日
ボーイ隊　昭和４０年４月１日
シニア隊　昭和４４年４月１日
ビーバー隊　昭和６１年７月１６日

活動場所である約２㌶の緑に包まれた慈眼寺境内は、高崎の緑地保全地区に指定されている。スカウトたちは、この広い敷地内で訓練キャンプを行ったり、ネイチャーゲームを行ったりと有意義な活動をしている。
また、花見の季節には奉仕活動として境内での誘導などを実践している。





慈眼寺

聖武天皇のころに建てられ 約1250年の歴史を誇る。 古来より「しだれ桜」の名所。なかでも「少将桜」は有名。
8000坪の広大な境内に101観音が祀られ、周りのシダレザクラが風雅な世界を醸し出している。
3月下旬に行われる慈眼寺花まつりでは、天茶をいただくことができる。。

●シダレザクラ、3月下旬～4月上旬

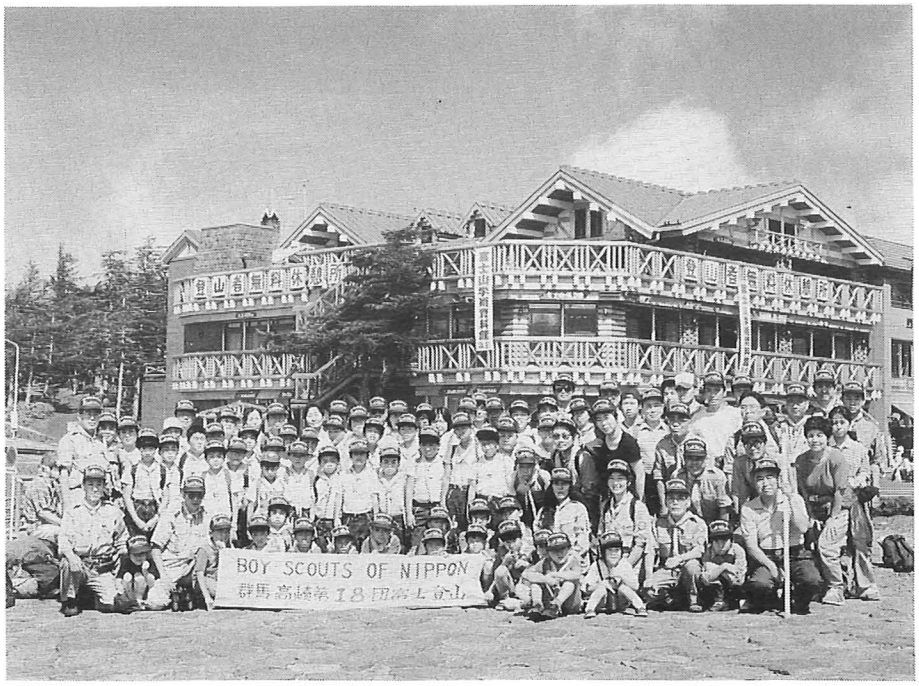
ボーイスカウト

高崎第１８団

所　在　地　　高崎市高関町１３８
団登録年月日　　昭和４０年１０月２５日（１９６５）

Look Wide

	平成１１年度登録人数	発隊年月日
ビーバー隊	スカウト　１４名	昭和６２年　４月１０日（１９８７）
カブ隊	スカウト　１９名	昭和４０年１０月２５日（１９６５）
ボーイ隊	スカウト　１６名	昭和４２年　４月２２日（１９６７）
ベンチャー隊	スカウト　１４名	昭和４８年　４月１７日（１９７３）
ローバー隊	スカウト　１３名	昭和５１年　４月　１日（１９７６）
	指導者　３５名	
	団委員　１１名	



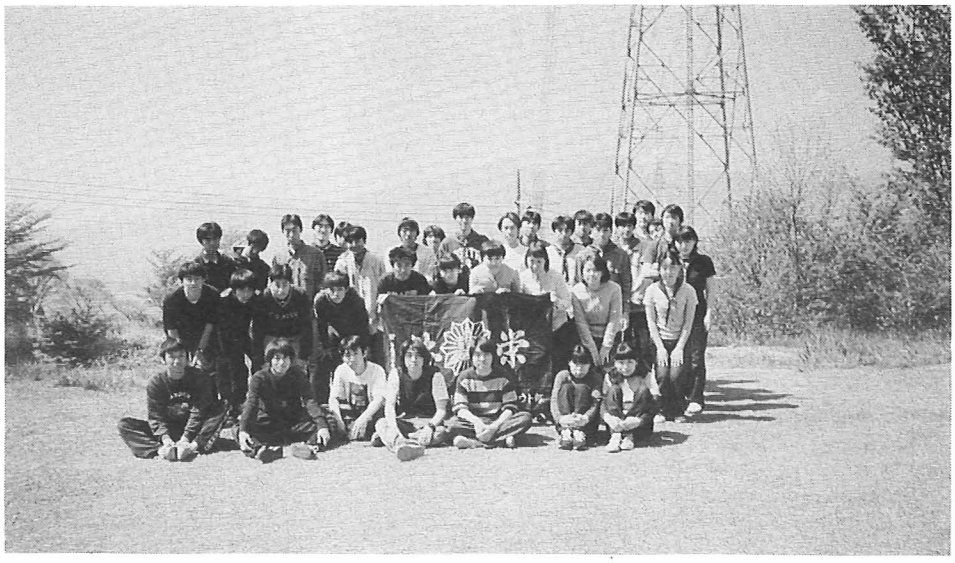
結団３０周年記念富士登山

高崎地区

高崎経済大学
ローバースカウト部

団登録番号　２８３１
発足日　昭和41年6月1日
高崎第１９団

我々高崎経済大学ローバースカウト部は、他の団と違い大学の部活動として活動しています。「集団における自己の役割」をモットーに日々頑張っています。



団構成　団委員長　長谷川 秀男

隊長　富田 政男

幹事長　小林 浩一　、斎藤 恭子

部員　45名

高崎　第２１団

§所在地　高崎市新高尾・浜尻地区

§団登録　昭和５３年５月１５日　カブ隊・ボーイ隊

☆昭和６０年４月　ビーバー隊　☆昭和６３年４月　シニアー隊

☆平成　２年４月　ローバー隊

BVS　梶原拓真

CS　野口幸介
重田将史
奥野あずさ
大谷美帆
塩崎晴香
登坂直人
田島洋平
井草祐介
井上俊平

VS　奥野裕一

BS　津久井隆人
鈴木一成
斉藤大斗
前田ともこ
重田光教
野口康之
斉藤佑輝
野口紗恵子
須藤秀之
斉藤浩智

RS　高野賢人
高柳大輔

TAKASAKI GUNMA JAPAN 21

ちょっと仲間が少なくなってきたけど、元気いっぱい活動してます

高崎第２２団

初期登録　　昭和５５年４月１日

登録番号　　第５２２０号

カブスカウト１２名で発団し、２０周年を迎えることができました。その間、社会の変遷と共にスカウト活動を進めてきました。数年前には、カブ・ビーバー隊が、構成できるかどうかの危機がありましたが、団委員会とリーダーの連携により、団をあげて年２回の募集デイキャンプが奏効し、徐々に登録人員が増加しております。因みに、ビーバー９・カブ２３・ボーイ１３・ベンチャー６・ローバー７のスカウト数ですが、募集活動は、活発に進められております。

この２～３年は、毎年菊スカウトも出ており、早く富士章に挑戦するスカウトを育てたいと努力しています。

団生え抜きの指導者も２人・３人と出てきており、全年代で構成される大家族の様相を呈しています。活動プログラムも、全員のニーズをもとに、楽しいスカウティングを実施しています。

団や隊の内部向けに、オリジナルのスカウトニュースなどを発行しておりますが、今後はインターネットのホームページにも挑戦していきたいと考えております。

E-mailは　nori_takahash17@hotmail.comまで

発団２０周年記念県外見学　　葛西臨海公園

吉井第１団

高崎地区
団登録番号　5541
初期登録　昭和57年4月18日
所在地　：吉井町多胡151ー8
富田滋団委員長宅

群馬のスカウトのみなさん元気ですか!!
私達吉井第1団は群馬県の南そして西側に位置しています。
有名な物は上毛かるたでは「多胡の古碑」，山では「牛伏山」が有ります。
『いつも元気』を合言葉に，豊かな自然の中元気一杯活動しています。
皆さんと会える日を楽しみにしています。元気に頑張りましょう！

育成会長
高橋　巌

団委員長
富田 滋

団委員
斉藤長太郎　綿貫真由美
山端亮子　鈴木容子

ビバー隊
隊長 鈴木章央

カブ隊
隊長 酒井忠夫
副長 清水春男
副長 富田玲子
ＤＬ 宮田さか江

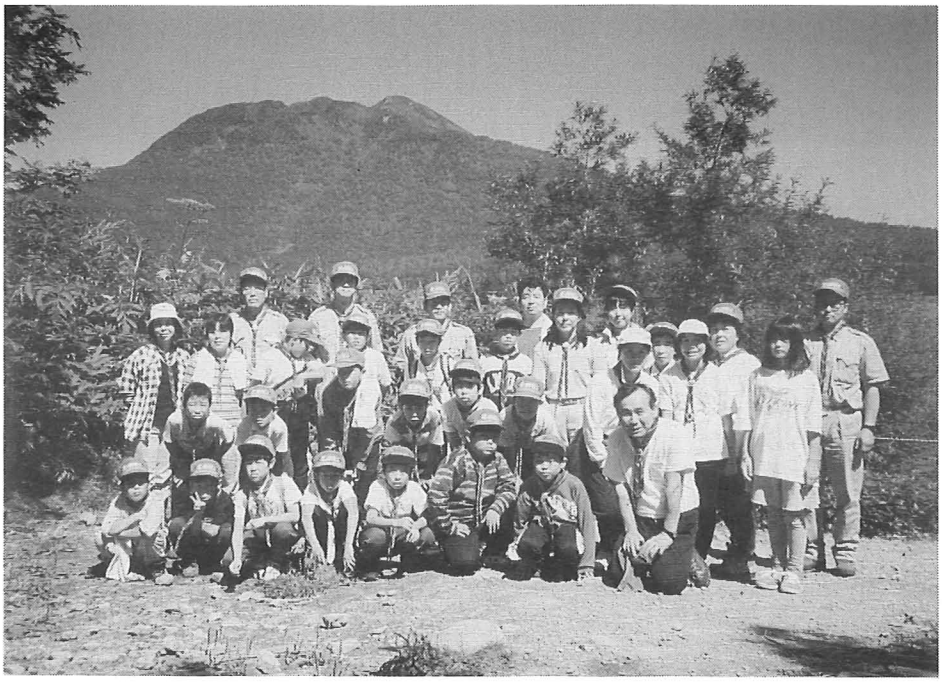
ボーイ隊
隊長 橋爪武士
副長 中野 宏

ベンチャー隊
隊長 川上辰衛

高崎地区

玉村町第１団

私達の団の恵まれているところは、町の中に『**角渕キャンプ場**』がある事です。
そのキャンプ場入り口に色鮮やかなトーテムポールが建ちました、発団 15 周年記念事業にてスカウトとお父さん達の合作で作った自慢の１品です。
今年の秋には、４泊５日の『**キャンプ&スクーリング**』を行います、キャンプ場から学校へ通学するのです、もちろん夜は勉強もします。



団初期登録　昭和 57 年 5 月 19 日
育成会　玉村町第１団　『にしきの育成会』
育成会長　上野節子　副育成会長　手島伸子
団委員長　関口利美　副団委員長　小林嘉司・安倍隆二
団委員　安曇千加子　大谷晋一　芦沢秀子　小鮒寿子　石川通夫
矢島義秋　飯島静江　西村理恵

ビーバー隊	カブ隊	ボーイ隊	ベンチャー隊
隊長　木暮由明	隊長　新井孝広	隊長　羽鳥和雄	隊長　小久保茂男
副長　原田政美	副長　内藤知幸	副長　青木武夫	
	DL　金井幸乃	〃　林　高行	
	〃　松浦美枝子		
スカウト 4 名	〃　大谷直美	スカウト 18 名	スカウト　7 名
	スカウト 17 名		

祝　群馬県連盟５０周年（１９４９年－１９９９年）

高崎地区

榛名第１団

加盟登録〔発団〕1993年12月 6日

BVS隊初期登録　1993年12月 6日

ＣＳ隊初期登録　1994年 4月 1日

ＢＳ班初期登録　1993年12月 6日

HARUNA 1

団委員長富田政男　BVS隊長石井義和　CS 隊長多胡　勉　BS 隊長清水啓志郎

団委員　荻野房江　副長杉本雅子　副長宮川智子　副長高橋正江

団委員　清水邦雄　副長吉田登喜子　副長春山邦男　副長笹岡三喜雄

団委員　三木公明　副長清水正人

団委員　得田隆保

育成会長加藤道子

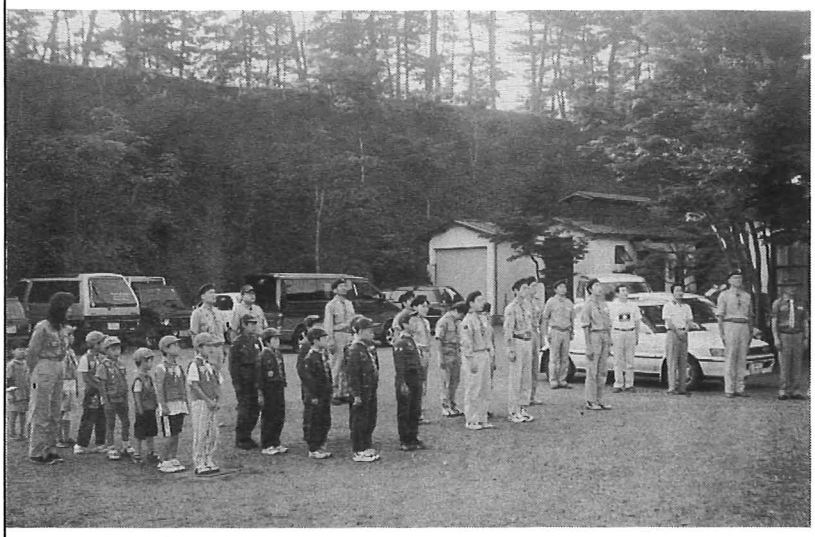
「一番大切なときに

一生に残る体験を」

高崎地区

自然が友だち

箕郷第1団



団のれきし

団	S49. 8. 4
ビーバー隊	S62. 4. 1
カブ隊	S49. 8. 4
ボーイ隊	S50. 4. 1
ベンチャー隊	S53. 4. 1

ベンチャー隊

隊長：野中光好
南波孝宏、萩原良太
関原一馬、真尾周平

ビーバー隊

隊長：橋本義治
副長：狩野秀子
山口聡久、都竹研太
下田峻大、狩野敦郎
青山薫英、桑名悠太
矢野祥平、小林岳人
渡辺雄太、岸　拓見
石田大地

カブ隊

隊長：渡辺泰敏
副長：小平光好
〃　：花垣秋彦
山口崇彦、白石和則
茂木伸之、紋谷　輝
都竹創太、橋本侑樹
今井祐樹、花垣和宏
堀内勇利、浦部裕次
狩野　翔

ボーイ隊

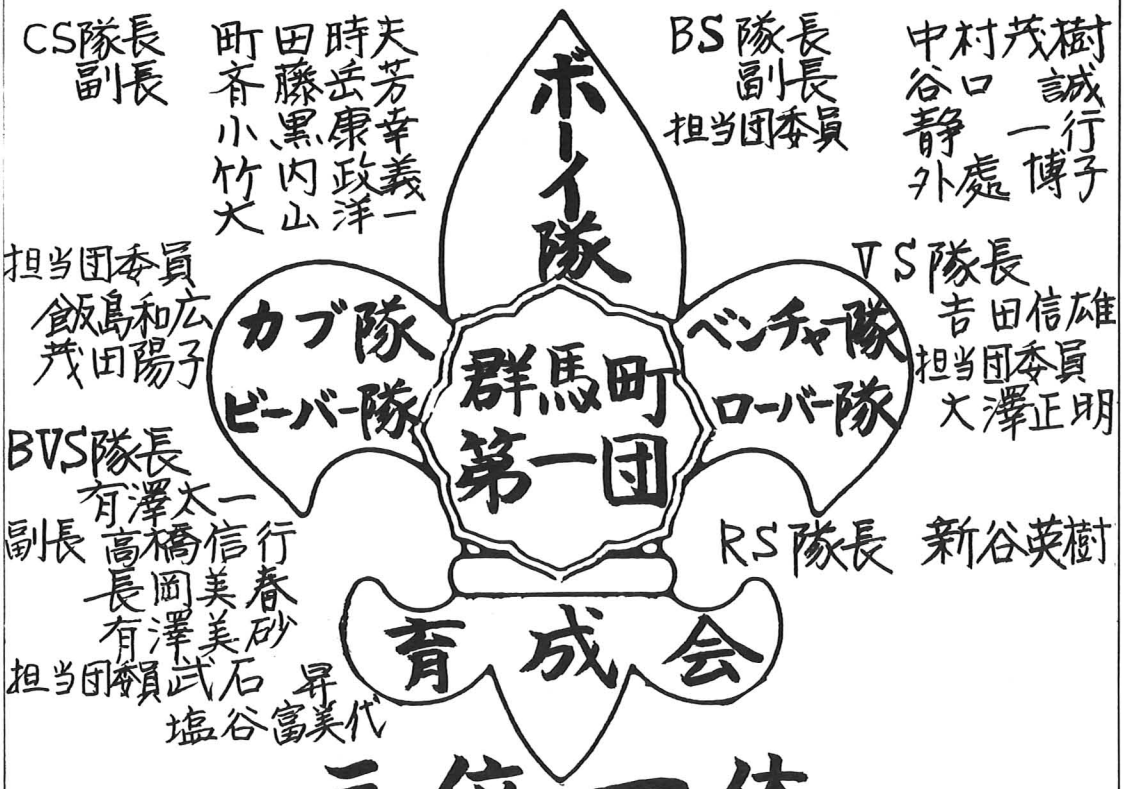
隊長：後閑豊治
副長：小林浩二
〃　：中嶋　豊
中嶋浩充、依田直樹
福田康輔、福田　俊
山口裕毅、小林達也
狩野嵩大、下田雄士
野中　守、南波昭範

団委員会

育成会長：新井三知夫
団委員長：南波柳治
副　〃　：青柳孝義、福田政俊
団委員：依田邦男、林　徳史
山口　勝

団皆勤賞マーク（蓮の花）

ボーイスカウト運動の基本を追求!!



三位一体

我々は、健全な団運営をめざし、育成会、団委員会、隊指導者が三位一体となり より多くの人たちにスカウト運動を理解し 参加していただけるよう楽しく魅力的な活動を 常に追求しております。

育成会長	布施芳一	団委員長	田渕契之助
副会長	外處勝	副団委員長	谷口喜久雄
会計	布施勝江	会計	大澤久子
		団委員	田中れい子

松井田第1団

私たちはスカウト精神をモットーに心身ともに健全で社会性豊かなたくましい青少年の育成を目ざして頑ばります

1999
9.1
発団

団委員長　小崎芳男

ビーバー隊

隊長　安藤功雄
副長　金井寛美
リーダー　根岸久美子
　　岩崎充恵
スカウト　飯塚悠介
　　内堀将太
　　金井和貴
　　土谷祐斗
　　安藤弘喜

育成会長　鈴木裕子

カブ隊

隊長　橋　勢太
副長　岩井貞治
Dリーダー　安藤由紀子
　　山崎裕子
スカウト　金井温史　安藤健人
　　佐藤崇徳　石川貴宣
　　塩谷健太　岩井馨
　　樋口翔平　小黒友輔
　　山崎浩平　鈴木駿
　　田中達也

前橋地区のあゆみ

1　地区の沿革

昭和24年11月６日、前橋公園においてボーイスカウト群馬県連盟が結成されましたが、11ケ隊のうち現在の前橋地区に関係する隊は、前橋第１隊、第２隊、第３隊そして勢多郡第１隊の４ケ隊でした。

前橋第１隊は現在前橋第１団として継続されており、昨年県連内では唯一日本連盟から50年の隊褒賞綬を受けました。

昭和27年３月の県連総会において、県内は６地区に分けられ、前橋が第三地区、北群馬が第五地区そして利根・吾妻が第六地区となりました。その後、地区の構成や名称の変遷がありましたが、現在は前橋市と渋川市の団に大胡町の団が加わり、前橋地区となっています。

2　地区の構成

この10年間に、前橋第11団、第13団そして水上１団と３つの団が廃団となりましたが、新たに平成８年に前橋15団、平成９年に大胡第１団が発団しました。

現在、小野里清治地区協議会長、平野隆志地区委員長そして小松俊一地区コミッショナーのもとで、このほか50年綬を受けた前橋第１団を筆頭に、前橋第３団、第５団、第７団、第12団そして渋川第２団の合計８ケ団で地区を構成しています。

平成11年４月現在の登録数は610名で４地区のなかでは一番少ないですが、前年同期に比べると増加しています。

団　名	団委員長	登録数
前橋第１団	磯部　直正	57名
前橋第３団	関口　修一	155名
前橋第５団	小野里清治	83名
前橋第７団	北澤由起夫	109名
前橋第12団	関口　　茂	52名
前橋第15団	石倉　英夫	52名
渋川第２団	狩野　文二	53名
大胡第１団	剣持平三郎	49名
合　　計		610名

3　活動状況

年一回の通常総会のほかに、総会より委任された審議機関として団委員長会議を月一回開催しています。また執行機関として地区委員会を同じく月一回開催しています。

また指導者の研修と情報交換の場でもあるラウンドテーブルも地区コミッショナーの指導のもとで月一回開催されています。

各種事業も年間の事業計画に基づき実施されています。年代に応じたプログラムとしてはビーバーラリー、カブキャンプ、そしてボーイスカウト対象の地区キャンプなどがあげられます。特にベンチャースカウトが中心になって企画運営されるオーバーナイトハイクも平成11年度で14回目となりました。

組織拡張においてはスカウト展が実施されています。25回を数えるホリデーイン前橋では共催団体として参画しており、モンキーブリッジや一日入隊コーナーなどを設けています。また前橋まつりでは、各団ごとに子供みこしに参加しＰＲに務めています。

地区主管の指導者講習会や定型外訓練も毎年実施され、研修所・実修所への参加も意欲的に行われています。

ボーイスカウト隊の上進スカウトを迎えるにあたっての新任の班長・次長を対象にしたパトロールリーダートレーニングも毎年実施されています。平成10年度はベンチャースカウト制度移行前の最後の隼スカウトが１名誕生しましたが、富士スカウトは過去１名のみであり、今後の課題となっています。

前橋で開催される50周年記念式典及び事業を足掛かりとし、さらに来年前橋で開催される群馬カブラリーをさらなる飛躍の場としたいと念願しています。

ボーイスカウト前橋第1団

50年の重み

Maebashi No.1
BOYS SCOUT

発団：昭和24年8月3日

平成10年10月25日、前橋カトリック教会において、我がボーイスカウト前橋第１団は発団50年の記念式典を行いました。

発団当時の団委員長の小井戸哲夫さんや、ボーイ隊員であった半沢さん等多数の諸先輩や、萩原前橋市長さんをはじめとした来賓の方や関係者約150人を集め行われました。

前橋第１団は、前橋カトリック教会において発団しましたが県下３番目の発団でした。また同時期に同教会でガールスカウト群馬第５団も発団しています。教会とガールスカウト第５団とは当時から今日に至るまで、毎年正月の餅つき大会を一緒に行うなど、さまざまな活動に理解と協力を得ています。

発団50年にあたりこの間に在籍した方々の名簿を作成したり、協力をお願いしたりする中で、非常に多くの人が巣立っていったのだという50年の重さを痛感しました。

現在の我々も次の世代への橋渡しであり、その重責を担っていることを確認し、75年、100年へと引き継いでいきたいとおもいます。

Boy Scouts Of Maebashi Group 3

SINCE 1975.4.1 No4347

IM POSSIBLE

団委員長
関口　修一

副団委員長
重原　進
星野　忠夫
南波　正夫

団 委 員
女屋　かほる
鈴木　郁子
桑原　和子
高橋　明美
滝島　みえこ
伊平　玲子
佐藤　充子
阿部　隆
中澤　健
江原　美晴
竹　あき子
野口　千賀子

育成会長
森田　健子

ビーバー隊
隊長　田中　敦
副長　掛川　悦子
副長　瀬戸　優子
副長　関口　ひとみ
副長　内山　剛直

カ ブ 隊
隊長　横山　宣昌
副長　内田　八千代
副長　高島　祐一
副長　中山　雅史
副長　藤井　秀人
デンリーダー
梅山　美砂
須賀　昭子

ボーイ隊
隊長　吉田　稔
副長　井上　英明
副長　伊藤　一明
副長　渡辺　保
副長　竹　伸夫

ベンチャー隊
隊長　原　和夫
副長　堀口　久美子

ローバー隊
隊長　江原　一郎
副長　重原　拓也

Baden Powell of Gilwell

（平成１１年７月現在）

日本ボーイスカウト群馬県連盟
前橋地区　前橋第５団
（昭和３８年５月５日発団）
ビーバー隊・カブ隊・ボーイ隊・ベンチャー隊・ローバー隊

昭和３８年５月５日、群馬県内でもっとも伝統ある前橋第１団から分封し、第５団となる。

当日、新前橋にできた団の集会場に、当時の理事長・コミッショナー等県役員の方々や、県内のガールスカウトを迎え、発団式を行った。各来賓からのご祝辞・県連盟から承認証をいただき、大々的なセレモニーであった。その後、参加者全員で県庁までの大行進。当時のベストヒットであった『史上最大の作戦マーチ』を先頭の宣伝カーで流しつつ、ボーイスカウト前橋第５団の発団を市内の人達にアピールして回った。にわか仕込みの鼓隊も最後部につき当時としては、大パレードであった。

終了後また集会場に戻り野外炊飯を行い食事会。その後昼間ではあったがキャンプファイヤーを行い、インデイアンの扮装で踊り、そして歌った。

記念すべく我が団の出発の日の事を今でも覚えている程の衝撃的な１日であった。

時がたち、団もますます充実し、４団・６団・８団・10団・13団と分封を重ね、前橋地区に貢献できたことが誇りである。

群馬県連盟５０周年にあたり、３７周年になった前橋第５団を今まで支えて下さった方々に深く深く敬意を称し、これからの更なる発展を誓うものである。

『団の紹介』

前橋地区　前　橋　第　7　団
発 団 日　昭和４４年8月１１日

わが団は昭和４４年ボーイスカウト前橋みやま育成会を育成母体として前橋第５団より分封し、カブ隊、ボーイ隊をもって発団しました。その後昭和５９年にシニア隊、昭和６１年にビーバー隊、平成５年にローバー隊を発隊し、全隊をもつ団に発展しました。スカウト運動を通して次代を担う青少年の育成を目標に、それぞれの年齢や経験に応じたプログラムで活動を続けてまいりましたが、今年は発団３０周年を迎えることとなりました。
活動は前橋公園や敷島公園を主にして橋山にはスカウトハウスがあります。これまでのスカウトの登録の累計は６００名を超えています。

主な団行事としては、発団記念日合同隊集会、クリスマス会、新年拝賀式、スキー訓練などがあり、特に冬季赤城舎営訓練ではビーバー隊は湖畔周遊、カブ隊は地蔵岳への登山、ボーイ隊は黒桧山への登山を毎年実施しています。
又、前橋地区行事やクリーン前橋、前橋花火大会清掃等の奉仕活動にも積極的に参加し、クリスマス会では毎年上毛新聞の『愛の募金』への募金も行っています。

平成１１年１月新年拝賀式

前橋地区　　ボーイスカウト前橋第１２団　　1982年 4月21日発団

団連絡先　　前橋市駒形町５９３－４
　　〒３７９－２１２２
　　TEL０２７－２６６－２６０３

団委員長　　関　口　　茂

育成会長　　浦　上　　敏子

団の概況　　前橋市の東南部、駒形・山王地区を中心に、11町在住のスカウト、リーダーで構成し、保護者の積極的参加のもとスカウト運動を展開しています。
　　主集会場所・山王町二丁目公園　　1999年度登録　44名

歴代役員　　（団委員長）馬場　威. 三浦俊夫. 関口　茂.
　　（育成会長）星野仁男. 三浦俊夫. 浦上敏子.
　　（隊　　長）三浦俊夫. 関口　茂. 北爪寿子. 星野幸宏.
　　石井　博. 中村立男. 荒井　完.

前橋地区「ボーイスカウト前橋第１５団」
平成８年４月２１日発団

平成１１年６月末日現在の団の構成は次のとおりです。
団委員長　　石倉英夫　連絡先　前橋市西片貝町３－１８０（自宅）
　　ＴＥＬ　０２７－２２４－７８５０
副団委員長　中曽根秀　　育成会長　田村豊作
　　団委員　阿部信、岡崎万里子、青木百合子、浅田由美子
ボーイ　隊　スカウト13名、指導者　２名（隊長山下保、副長町田秀仁）
カ　ブ　隊　スカウト16名、指導者　５名（隊長萩原義彦、副長町田かおる、デンリーダー前原孝子、小林陽子、樺沢律子）
ビーバー隊　スカウト　９名、指導者　３名（隊長井上勝利、副長山本恵理子、副長後藤智美）

我が団は、平成８年４月に前橋第３団から分封し前橋市城南地区を中心に発団しました。活動拠点は前橋城南運動公園を中心に活動し、勢多郡大胡町にスカウトハウスを設けており、いつでもスカウトハウスでキャンプが出来る体制にあります。発団式には、萩原前橋市長をはじめ城南地区を中心とする幼稚園・保育園・小学校の園長・校長先生等を来賓に迎え、盛大のうちに発団しました。

活動は地域密着を重点に位置づけ、城南地区での各種行事に積極的に参加してきており、なかでも「城南地区のびゆく子どもに集い」「城南公民館文化祭」には定例参加するとともに、公民館文化祭においては運営にも積極的に協力してきております。

我が団のモットーは「スカウト運動の基本方針を忠実に実践すること」としており、楽しい中にも規律ある活動を心がけております。

平成１１年５月２３日「のびゆく子どもの集い」で信号塔を建設

（前橋地区）

ボーイスカウト
渋川第２団

団登録　　１９７０年４月１日
（昭和４５年）

団本部　〒379-0031 渋川市阿久津５０－１

［団役員］　団委員長　狩野文二　・育成会長　阿部光廣
副団委員長　杉木浩親
〃　中澤範一
団委員　津久井　実
〃　田中礼子

・ビーバー隊	１９９０．４．７登録	隊長	入澤　功
・カブ隊	１９７０．４．１登録	隊長	丸山省二
・ボーイ隊	１９７０．４．１登録	隊長	中澤範一
・ベンチャー隊	１９９８．４．１登録	隊長	井上　崇

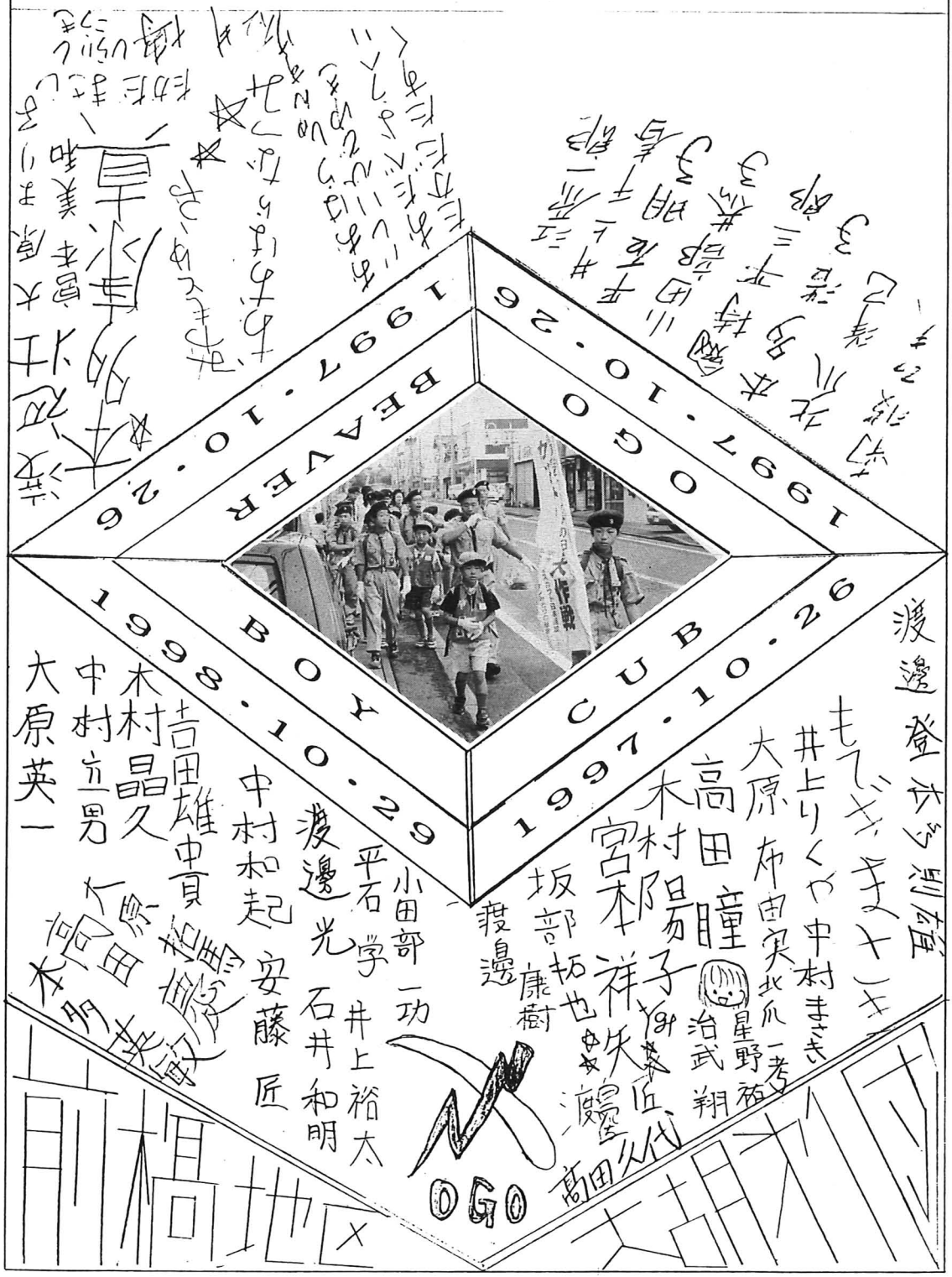
連絡事務所
〒379-2123 前橋市山王町１－３４－２３
☎ ０２７－２６６－５９８７

ボーイ・スカウト大胡第1団

発団平成１０年１０月２６日

団委員長　劒持　平三郎　　育成会長　本多　浩子

Ｂ・Ｖ隊長　石井　博　　Ｃ・Ｓ隊長　本多　則雄　　Ｂ・Ｓ　大原　英一



資　料　編

＜年表＞ 群馬のボーイスカウト50年のあゆみ

西暦	元号	群馬県連盟のうごき
1916年	大正５年	◦多野郡新町に少年団運動が始まる。 高木勇一郎氏が中核となりボーイスカウト訓育方式の訓練で活動。
1922年	大正11年	◦少年団日本連盟結成と同時に新町少年義勇団は正式に日本連盟に加盟。 幼年健児隊７名　少年健児隊15名　青年健児隊14名
1936年	昭和11年	◦富岡市にて300名余のスカウトが参加し、群馬県下連合少年団大会開催。 この大会を機に群馬地方連盟が発足した。
1941年	昭和16年	◦国の施策「大日本青少年団」設立により統合された。
1947年	昭和22年	◦ボーイスカウト日本連盟が再発足。５月
1948年	昭和23年	◦第１回少年指導者公認講習会開設。７月　富岡市一の宮公民館にて
1949年	昭和24年	◦合同野営大会開催（第１回大会）８月　高崎市岩鼻 ◦第１回全国大会　９月　皇居前　群馬より196名参加。 ◦群馬県連盟結成式　11月　前橋公園
1950年	昭和25年	◦全群馬野営大会　８月３日～５日　沼田公園　32隊　822名参加 ◦国際復帰祝賀　第２回全国大会　８月　新宿御苑 ◦県連盟結成１周年記念式典大会　11月　高崎公園
1951年	昭和26年	◦第３回全群馬野営大会　７月　伊勢崎華蔵寺公園　650名参加 ◦第３回全国大会　８月　山形県蔵王　群馬から220名参加 ◦県連盟結成２周年記念式典大会　11月４日　太田市東山球場
1952年	昭和27年	◦第４回全群馬野営大会　８月　榛名湖畔 ◦県連盟結成３周年記念大会　11月　高崎
1953年	昭和28年	◦全群馬ＢＳ関東招待野営大会　８月　新鹿沢 東京・埼玉・茨城・山梨　1,200名参加 ◦県連盟結成４周年記念大会　11月　桐生
1954年	昭和29年	◦第６回全群馬野営大会　８月　赤城大沼湖畔 ◦県連盟結成５周年記念大会　10月　前橋
1955年	昭和30年	◦第７回全群馬野営大会　８月　桐生市相生 ◦県連盟結成６周年記念大会　11月　渋川
1956年	昭和31年	◦第８回全群馬野営大会　８月　軽井沢 ◦第１回日本ジャンボリー　全国11,640名　本県400名 県連盟結成７周年記念大会　11月　伊勢崎
1957年	昭和32年	◦関東キャンポリー　８月　千葉県銚子市君ケ浜 第９回全群馬野営大会　18隊 287名参加 ◦県連盟結成８周年記念大会　11月　藤岡

西暦	元号	群馬県連盟のうごき
1958年	昭和33年	◦組織改正により団・地区制度となる。
		◦第10回全群馬野営大会　8月　前橋市敷島公園
		◦年長隊富士野営参加　7月　山中野営場　9名参加
		◦県連盟結成9周年記念大会　11月　桐生市
1959年	昭和34年	◦第2回日本ジャンボリー参加　8月滋賀県あいば野　本県348名参加
		◦第11回全群馬野営大会　8月　太田　700名参加
		◦第10回世界ジャンボリー　フィリピン　12名派遣
1960年	昭和35年	◦スカウトシンポジウム開催　伊勢崎　600名参加
		◦県連盟結成13周年記念大会 11月 安中小学校　1,170名参加
1961年	昭和36年	◦第12回全群馬野営大会　8月　利根郡丸沼湖畔　500名
		◦県連盟結成12周年記念大会　10月　前橋群馬会館　700名
1962年	昭和37年	◦第1回群馬カブラリー　高崎市　300名参加
		◦アジアジャンボリー（第3回日本ジャンボリー）8月
		（兼第13回全群馬野営大会）静岡県御殿場市
		◦県連盟結成13周年記念大会　群馬会館ホール　700名参加
1963年	昭和38年	◦全国カブラリー参加　3月　大宮市　本県400名参加
		◦第14回全群馬野営大会　8月　相馬原自衛隊基地　600名
		◦県連盟結成14周年記念大会　館林市　1,300名参加
1964年	昭和39年	◦関東合同野営大会（兼第15回全群馬野営大会）8月 榛名山　1,000参加
		◦県連盟結成15周年記念大会　前橋市
1965年	昭和40年	◦第1回スカウトラリー　9月　伊勢崎市華蔵寺公園　1,500名
		◦第1回群馬B-P祭　2月　高崎市城東小学校
1966年	昭和41年	◦関東カブラリー　5月　千葉県稲毛海岸　本県388名
		◦第4回日本ジャンボリー　8月　岡山県日本原　本県360名
		◦第2回群馬B-P祭　2月　前橋市　群馬県連盟歌制定
1967年	昭和42年	◦第5回関東カブラリー　4月　高崎市観音山　6,000名参加
		◦第12回世界ジャンボリー　8月　米国　本県5名派遣
		◦第3回群馬B-P祭　桐生市産業文化会館　1,200名
1968年	昭和43年	◦第16回県野営大会　7月　高山村大原キャンプ場
		◦第4回群馬県B-P祭　2月　高崎市第3中学校
1969年	昭和44年	◦第6回関東カブラリー　7月　日光市
		◦県連盟結成20周年記念大会　10月　沼田小学校
		◦第5回群馬県B-P祭　3月　伊勢崎豊受小学校
1970年	昭和45年	◦第5回日本ジャンボリー　8月　朝霧高原

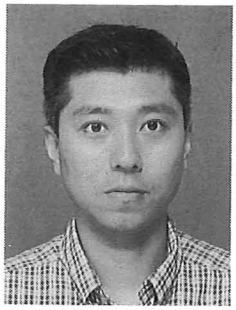
西暦	元号	群馬県連盟のうごき
1971年	昭和46年	◦第６回群馬県Ｂ-Ｐ祭　４月　前橋工業高校
		◦第13回世界ジャンボリー　８月　朝霧高原
		◦第７回関東カブラリー　８月　桐生市公園
		◦第17回県連盟野営大会　８月　大原キャンプ場
1972年	昭和47年	◦日本連盟結成50周年記念式典参加　11月　明治神宮会館
1973年	昭和48年	◦第18回県キャンポリー　８月　赤城山小沼湖畔　416名参加
1974年	昭和49年	◦第６回日本ジャンボリー　８月　北海道千歳原
1975年	昭和50年	◦第２回群馬カブラリー　５月　前橋市敷島公園　2,200名
		◦第19回県キャンポリー　８月　バラキ高原　814名参加
1976年	昭和51年	◦第１回県シニアースカウト大会　８月　新潟佐渡　33名
1977年	昭和52年	◦第２回県シニアースカウト大会　８月　相馬原
		◦第20回県野営大会　８月相馬原
1978年	昭和53年	◦第７回日本ジャンボリー　８月　静岡県御殿場　本県305名
1979年	昭和54年	◦第３回群馬カブラリー　８月　桐生市　1,274名参加
		◦県連盟結成30周年記念祝賀会開催　11月　前橋市商工会議所
1980年	昭和55年	◦財団設立発起人合同会議開催　前橋市諏訪会館
1981年	昭和56年	◦地区組織の基準を定め、県内４地区に統合した
		◦第３回県シニアースカウト大会　８月　佐渡ケ島
		◦群馬県連盟創立30周年記念第21回県野営大会　８月 相馬原　1,150名参加
1982年	昭和57年	◦青少年会館が落成　県連盟事務局を移転　６月
		◦第４回群馬カブラリー　６月　館林市茂林寺　2,293名
		◦第８回日本ジャンボリー　８月　宮城県蔵王　360名
		◦世界スカウトの年・日連創立60周年記念 全国自転車キャラバン隊に奉仕　10月
1983年	昭和58年	◦アニバーサリー75記念群馬スカウトラリー　７月
		「いどめスカウト技能へ」桐生市陸上競技場　1,046名
1984年	昭和59年	◦第１回シニアースカウト大会　７月　宮城県蔵王　55名
		◦つくば科学万博オープニング協賛派遣　茨城県　12名
1985年	昭和60年	◦県内４地区でボーイスカウト展
		◦第５回群馬カブラリー　５月　高崎市観音山　2,039名
		◦第１回関東ジャンボリー　自衛隊12師団相馬原演習場　８月
		茨城・栃木・埼玉・山梨・群馬　8,500名参加
1986年	昭和61年	◦第９回日本ジャンボリー　８月　宮城県蔵王　450名
1987年	昭和62年	◦第４回県シニアースカウト大会　８月　石川県能登島　112名

西暦	元号	群馬県連盟のうごき
1988年	昭和63年	◦群馬県連盟創立40周年記念事業委員会を組織
		◦新しい「おきて」が制定される
		◦第６回群馬カブラリー・第１回ビーバーラリー　５月　前橋市　2,300名
		◦群馬県ボーイスカウト振興財団認可（７月14日）
		◦第２回シニアースカウト大会　７月　朝霧高原　97名参加
1989年	平成元年	◦創立40周年記念第23回県野営大会　８月　尾瀬戸倉　2,600名
		◦群馬県連盟創立40周年記念式典　10月　前橋市青少年会館
1990年	平成２年	◦第10回日本ジャンボリー　８月　妙高高原　本県539名参加
		◦故 星野 宏 先達を偲ぶ会開催　12月　伊香保
1991年	平成３年	◦第７回群馬カブラリー　５月　桐生市水道山　1,500名
		◦第５回県シニアースカウト大会　８月　石川県能登島
		◦第17回世界ジャンボリー　８月　韓国　本県40名派遣
1992年	平成４年	◦第３回シニアースカウト大会　８月　滋賀県あいば野　103名
		◦学校週５日制「９／12キャンペーン」実施
1993年	平成５年	◦第24回県野営大会　８月　太田市渡良瀬河川緑地公園　800名
		◦技能章考査員・指導員制度スタート　122名委嘱
1994年	平成６年	◦第８回群馬カブラリー　５月　太田市運動公園　1,690名
		◦第11回日本ジャンボリー　８月　大分県久住高原　本県460名
1995年	平成７年	◦女子スカウトの加入承認
		◦阪神・淡路大震災に各地区で集めた義援金107万８千円を送金
		◦第６回県シニアースカウト大会　８月　三重県伊勢市・鳥羽市
		◦第18回世界ジャンボリー　８月　オランダ　本県29名派遣
1996年	平成８年	◦第４回シニアースカウト大会　８月　島根県三瓶山麓
1997年	平成９年	◦第９回群馬カブラリー　５月　高崎市観音山　2,300名
		◦第４回関東キャンポリー・第25回県野営大会　８月　相馬原演習場
		茨城・栃木・埼玉・群馬　5,000名参加
		◦日本連盟創立75周年記念自転車全国一周友情リレー
		◦日連創立75周年記念式典 10月　東京都日比谷公会堂・帝国ホテル
1998年	平成10年	◦「ピースパック・プロジェクト」への協力
		◦第12回日本ジャンボリー　８月　秋田県森吉山麓　本県441名
1999年	平成11年	◦県連盟創立50周年記念事業スタート
		◦第７回県ベンチャースカウト大会　８月　会津磐梯　92名
		◦群馬県連盟創立50周年記念式典　10月31日　前橋市
		◦群馬県連盟創立50周年記念祝賀会　11月14日　前橋市

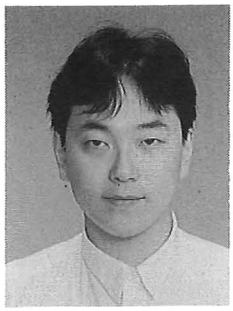
群馬の“富士スカウト”

スカウトの憧れの目標としている「富士スカウト章」は、平成11年度で終了し、新たに「ベンチャー富士章」となります。

これまで、果敢に挑戦し栄えある「富士スカウト章」を取得した群馬のスカウトを50周年記念として、紙上にて紹介をいたします。

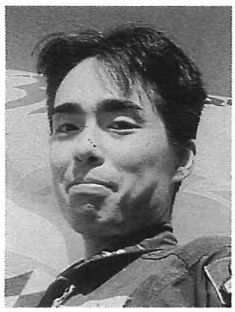


田沼　寿
桐生第13団

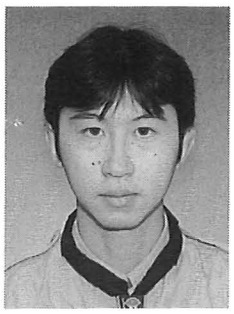


松本英久
太田第５団

荻野隆二
桐生第13団



小堀昌孝
桐生第19団



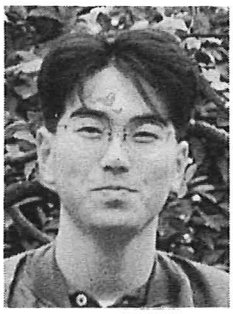
松井雅広
桐生第19団

長　成一郎
桐生第19団

北川久人
桐生第19団

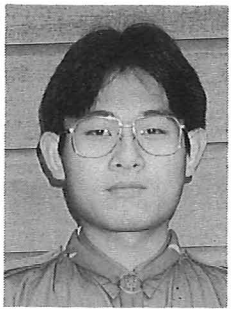
米山武志
桐生第13団

岸　克幸
桐生第13団



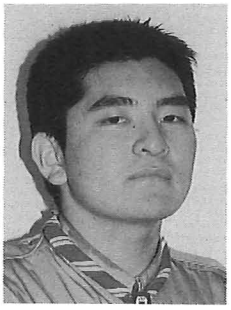
岩 野 功 佳
桐生第13団

山 下 征 志
前橋第３団



松 本 光 広
桐生第17団

飯 塚 利 昭
太田第10団



松 井 良 介
群馬町第１団

1.	田 沼 寿	桐生第13団	昭和58年取得	取得No. 377
2.	吉 田 信 久	桐生第19団	昭和61年取得	取得No. 733
3.	星 野 裕 之	桐生第13団	昭和61年取得	取得No. 755
4.	田 村 諭	桐生第13団	昭和62年取得	取得No. 860
5.	松 本 英 久	太田第５団	昭和62年取得	取得No. 904
6.	小 堀 剛	桐生第19団	昭和63年取得	取得No. 998
7.	新 井 育 夫	桐生第19団	平成元年取得	取得No.1159
8.	荻 野 隆 二	桐生第13団	平成２年取得	取得No.1224
9.	小 堀 昌 孝	桐生第19団	平成２年取得	取得No.1279
10.	松 井 雅 広	桐生第19団	平成２年取得	取得No.1280
11.	長 成一郎	桐生第19団	平成３年取得	取得No.1335
12.	北 川 久 人	桐生第19団	平成３年取得	取得No.1424
13.	小 堀 哲 男	桐生第19団	平成３年取得	取得No.1425
14.	米 山 武 志	桐生第13団	平成３年取得	取得No.1468
15.	岸 克 幸	桐生第13団	平成３年取得	取得No.1567
16.	岩 野 功 佳	桐生第13団	平成５年取得	取得No.1600
17.	鈴 木 孝 明	桐生第13団	平成５年取得	取得No.1775
18.	山 下 征 志	前橋第３団	平成７年取得	取得No.1935
19.	松 本 光 広	桐生第17団	平成８年取得	取得No.2313
20.	飯 塚 利 昭	太田第10団	平成９年取得	取得No.2407
21.	松 井 良 介	群馬町第１団	平成９年取得	取得No.2408

ボーイスカウト群馬県連盟広報のあゆみ

昭和32年10月27日発行　日本ボーイスカウト群馬県連盟事報

発行所　群馬県桐生市相生町　日本ボーイスカウト群馬県連盟

編集兼発行者　事務局長 後 藤 龍 堂

指導者の皆様へ

副連盟長　久保田茂一郎

ボーイスカウト運動に日夜献身努力を以つて御奉仕下さいます県連当局の皆様及各隊の指導者の皆々様に深甚なる謝意を表するものであります。

尚且又県連盟名誉賛助会、隊役員の皆様にはいつも変らぬ御援助と御協力とを賜り厚く御礼申し上げる次第で御座います。

皆様にはすでに御承知の如くボーイスカウト運動は世界及日本に二つとないその運動の目的とその指導法とが真に明瞭且つ規律正しく純正に実行され、尚全世界に共通した立派な組織体とを保持した青少年に訓育を実施する社会教育の教法は他にないと思うのであります。

しかしこれ程立派な組織体をもつたボーイスカウトの訓育法が何故もつと発展且つ採用されないのでありましようか私は真に不思議でなりません。

しかし皆様の熱意ある奉仕的指導は必ずや近い将来に於いて青少年に大きな希望と幸福とをあたえ日本の再建に大いに役立つ事と思います。

さて指導者の皆様に一つお願いを致したいと思います事は、もとより私しは指導的立場にある者では御座いませんからはつきりと申し上げる事は出来ませんが私の指導者の皆様に御願致したい事は左記によつて御検討且つ、御研究賜り度く存じお願い申し上げる次第で御座います

記

一、ボーイスカウトの指導者が日本連盟、県連盟の指導方針を厳守され全県下各隊に徹底され、より以上の指導面の統一を期して頂きたい。

二、全県下各隊に於けるスカウトの訓練の成果が、一定した水準を保ち、各隊との教育の程度が大差のないように努めて頂きたい。

私は昨年軽井沢ジャンボリーに於いて一参加者として初めてその現地で経験をしたのでありますが、私ばかりではなく、参観された心ある御父兄の皆様にも多少なりとも感じられたのではなかろうかと思うのであります。

それは隊個々としての訓練の程度は別として集団的に一大会場に合同訓練を実施するスカウトの日常訓練の成果を発表する訓練大会を目前に見た時にあまりにも訓練教育の優劣的差別のある事は真に見にくいものではないかと感ずるものであります。

しかしそれは、隊の財政的の面ではなく、どこまでもスカウトとしての日常の訓練の成果を申し上げるのであります。地区的、又隊の色々の事情によつて多少の差は生ずるかと存じますが、指導者の皆様の御協力によつて多少なりとも大差のない訓育が出来得るならば誠に幸甚に存じます。

かつて私は仙台へロータリークラブの会合に出席をした際ボーイスカウトの諸君が駅に出迎え私達のバッチを見て各県ごとに会場及その座席に案内をしてくれましたが真にわざとらしくなく、大変気持のよい感じを受けて今も尚ふすれる事の出来ない思い出となつて居ります。

今後共にこの運動に邁進し蔭ながら協力をさせて頂きたいと念願致して居ります。

一九五七、一〇、一〇

指導者講習会を受講して

私達育成会の方々は意義深き青年会館に於いて去る八月二十七～三日間ボーイスカウトの指導員として講習を受ける事になつた。

二十七日の朝八時には主任講師の後藤先生が来られた、緑の滴つた新鮮な空気を胸一杯吸いながら一同庭先へ整列した、君が代と共に国旗は掲げられ屋上高くひるがえつた、実に厳そかな感じを覚え思はず心が引きしまつた。

愈々待望の講義が始まつた。一年生としてスカウトの勉強を教えて頂く事になつた、勉強の内容は思つたよりむずかしかつた。やはり年を経るといくら若い気になつても記憶力が悪く自分ながら閉口した。

しかし熱心なる、後藤先生、星野先生福田先生の講義にたいし一生懸命勉強させて頂きボーイスカウトの精神に恥じない様に邁進したい覚悟であります。

尚今宵のキャンプファイアーに子供達と一緒になつて唄い又踊り童心のような気持になつて実に嬉しかつた、これからは子供達が一人でも沢山ボーイスカウトに加入し社会から良い子供のモデルになつて頂く様に努めて頂くように及ばずながら頑張ります。（伊香保講習会感想文中より　筆者　萩原亮平）八、二七

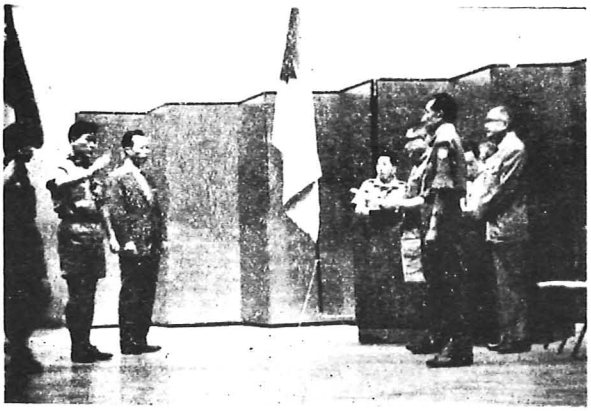
ボーイスカウト群馬県連盟広報のあゆみ
B.S.G No.10　昭和38年7月10日発行　群馬県連盟広報
発行所　群馬県桐生市高砂町　日本ボーイスカウト群馬県連盟
発行者　事務局長 吉川亀吉　編集　太田市連合隊 小内安蔵

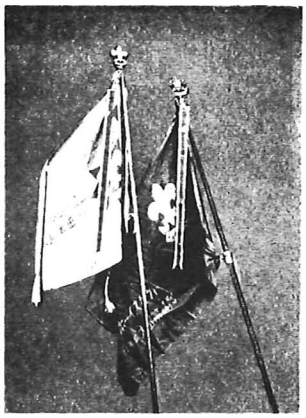
B・S・G

そなえよ　つねに★一日一善

日本ボーイスカウト群馬県連盟広報　第10号

日連公共奉仕授 太田連合隊に輝く!!





久し振りの五月晴れ、5月12日(日)東京代々木明治神宮参集殿において、日連表彰式が行われた。この日群馬県関係では特に太田連合隊に名誉ある「公共奉仕授」が服部育成会長へ授与された。当日太田連合隊のスカウトは公共奉仕授にふさわしく太田市警察署に協力して、市内の交通指導に、また駅前の美化推進に汗だくの奉仕を展開した。

ボーイスカウト リーダー養成講習会開催　太田会場

緑深き金山の麓　ヒマラヤ杉に囲まれ　プールをもつ関東唯一の太田市公民舘においてスカウト運動強力推進のためにリーダーの養成を下記の通り計画いたしました。各隊の御盡力によりまして多数御参加下さい。

期　日　昭和38年7月20・21・22日
会　場　太田市公民舘
受講料　￥500
携行品　筆記具．洗面具．ネツカチーフ
　　ロープ．米1升
服　装　活動するのにさしつかえない服装
申　込　7月10日までに太田市教育委員会
　　社会教育課または、県連事務局へ
　　註　寝具不用（個人ベット 毛布 有）

受付時間　7月20日（土）午前11時
受講開始　　仝　　午後1時
主任講師　星野　宏
講　師　後藤龍堂
　〃　村沢信夫
　〃　櫻井玉寿
　〃　吉川亀吉
助　教　太田連合隊各隊長
世話係　　〃　　団委員長

ボーイスカウト群馬県連盟広報のあゆみ

県連だより　第2号　昭和49年1月1日発行

„そなえよつねに"
„いつも元気"
„日々の善行"

県連だより

第　2　号
昭和49年1月1日
ボーイスカウト群馬県連盟
広報委員会

年頭にあたり

連盟長　群馬県知事　神　田　坤　六

明けましておめでとうございはす。団員の皆さまお元気で新春を迎えられたことと存じます。

さて、いよいよきびしい年を迎えました。今日の社会が激しく変動する時代といわれるなかで、私たちをとりまく諸情勢が、かくも大きくゆれ動いたこともまれであります。このような時にあたり青少年によせる期待は、前にもまして大きくなっております。青少年自身がその使命と役割を自覚し、自らの啓発向上につとめるとともに社会の一員として、進んで社会参加することが今日強く要請されております。

年頭にあたり心を新たにして、皆さまとともに勇気をもって進みたいものと思います。そして今年もすばらしい伝統と組織を生かし郷土群馬に力強く根をおろし、各地域でご活躍下さることを心より期待してごあいさつといたします。

年頭にあたって

県教育委員会
社会教育課長　日　野　敬　三

明けましておめでとうございます。

本年度は、4年に一度の日本ジャンボリーが開催される年でもあり、格別の期待と希望をもって、新春を迎えられたことと心からお祝い申しあげます。

本県におけるボーイスカウトも、発足以来たゆまぬみなさまがたの努力と熱意により、大きく発展し、現在2,800名を越す団体に成長されましたことは、みなさまがたと共に喜びに堪えないところであります。

ところで、最近の社会は急速に変化をし、幾多の問題も生じております。その中にあって、ボーイスカウトの精神にもありますように、身体を鍛練し、知性を養い、他の人々を援け、おきてを守り、豊かな連帯意識をもって、世界の人々と親善と友情を深め、本県ボーイスカウトの発展と世界平和のために、ますます活躍されるようお祈りいたします。

新年を迎えて

理事長　渋　木　義　夫

昭和49年の新春を迎え謹んで指導者各位の弥栄をご祈念申しあげます。当県連盟も皆様方のご熱意により昨年末の登録数は3,000名に達し、日本連盟内のスカウト勢力は遂に12位まで躍進することができました。

これは日本連盟の長期拡大計画である人口比1.5%を上回ったことになるわけでありますが本年も実質的なスカウト活動を更に進め一般社会の理解を一段と深めることにより一層の飛躍を期待いたしております。

本年はまた第6回日本ジャンボリーに600名を越える多数の参加が予定されておりますが、昨年11月のオイルショックに基づく経済情勢の激変から幾多の問題が発生しており円滑な運営が危ぶまれておりますけれども、スカウト特有の創意工夫によりこの難関を無事に突破して参りたいと存じます。

なお、日本連盟におきましては昨年来50周年記念を契機として運営面ばかりでなくスカウティングの方法につきましても新しい時代に対応すべく鋭意研究が続けられておりますが、本年からこのような情報は県コミ、県連だより等を通じて出来るだけ速やかに指導者各位に伝達しスカウティングの伸展に寄与すべく計画を進めております。

どうか昨年と全く異質な年を迎え、主として財政面から厳しい制約を受けることが必定の折、指導者各位におかれましては先に申しあげた創意工夫を大いにご活用下さいまして所期の目的に邁進されますようお願い申しあげる次第です。

1974年の年頭にあたって

県コミッショナー　青　山　寿　延

新年明けましておめでとうございます。

本年もよろしく御協力の程をお願い申し上げます。

私はつね日頃から人と人との和がすべての組織をしっかり結び、その運動を伸ばすと信じております。自分をおさえて人との調和をはかり、常に笑顔で話し合い、そしてユーモアを理解するこれが一番大切だと思います。

昨年1月、県コミッショナーという重責をお引き受けした時にこの気持で県内のすべての人達と接してゆこうと決意を固めました。

就任時に立てた、三つの目標は

1　県内全指導者と仲よく、そしてサービスのよいコミッショナーになる。
2　現代にマッチしたスカウティングをしてゆく。
3　指導者づくりとその質を高める。

でした。そして目標を達成するために

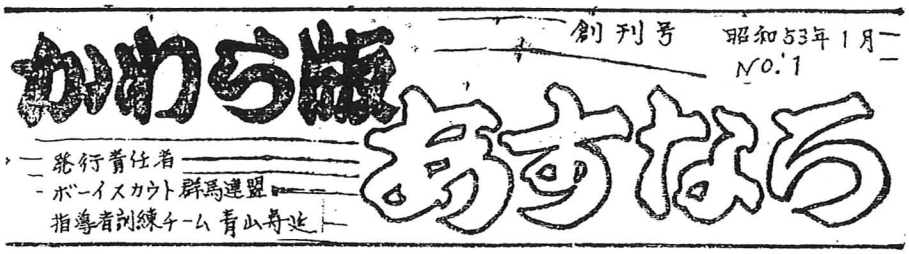
(イ)　各地区へ行って指導者と話し合いをする。
(ロ)　地区の正副コミッショナーと出来るだけ多く集会をもつ。
(ハ)　一人でも多くの人々にボーイスカウト運動を理解してもらい、又一方では一人でも多くの人に指導者になっていただくために、講習会を一日型にして参加しやすくする。
(ニ)　若い指導者に研修要員になっていただき次代の県連の柱となる人をつくる。
(ホ)　日本連盟の考えをそのまま聞いていただく指導者研修会を開く。
(ヘ)　県キャンボリーも楽しい内容で開く。

等考えました。しかし1年は夢の様に過ぎてしまい、第一

ボーイスカウト群馬県連盟広報のあゆみ

かわら版「あすなろ」創刊号　昭和53年1月発行

発行責任者　ボーイスカウト群馬県連盟
指導者訓練チーム 青山 寿延



発刊のご挨拶

理事長　浜木茨夫

ボーイスカウトのルーツがスカウティング　フォア　ボーイズにあることはご承知のとおりですが、教育規定に則してスカウティングを実践する場合の規範は極めて少なく　指導者各位にはときに不安を感ずる向もあろうかと存じます。

今般県連の訓練チームにおいて企画いたしました"かわらばん　あすなろ"がそうした不安感の解毒剤となり、スカウティング実践のさっそくかなヒントとして活用されますならば幸甚です。

年頭にあたり、指導者各位の益々のご健康と発展を祈念し、発刊のご挨拶といたします。

「かわら版」の初版によせて

県コミッショナー　根岸　努

新年おめでとうございます。リーダーのための「かわら版」の創刊をお喜び申し上げます。年末年始にかけて　ある本を読みかえして感じました。それは　つぎのようなエミールの文であったからです。

「人はこどもを保護することしか考えない。が、それでは充分でない、人間としての我身を護り、運命のさまざまな衝げきに耐え、どんな境遇にも対処し・・・・生き抜くことを教えねばならない。あなた方はいたづらに　彼等がしないようにと、さまざまな取り越し苦労をするが、それでも彼等は　おそかれ、早かれ　死なずばなるまい・・・・彼を生きさせることの大切なのに比べると　死なないようにとの心配など問題にならない。生きること、それは息をしているということではない。それは　活動である。」

一つは、B・S・Aの　スカウトマスターズ　ハンドブックの　次のような問答に出合ったからです。（経験をつんだ　S・Mへの問と答の形）

「あなたは　集会を自分で運営しないのですか？」（いいえ、それは上班の仕事ですから）

「あなたは　記録をつけないのですか？」（それは、書記の仕事です）

「集会は　だれが立案しますか？」（もちろん　子ども達です）

「でも　会議の秩序は　誰が保つことになりますか？」（いうまでもなく班長達です）

「あなたは、少年達をリードすることが、すきですか？」

（はい、でもそれは私の仕事ではありません。私は彼等に、自分をリードすることを学ばせます。つまり、リーダーシップとは何かを知ってほしいからなんですよ。彼等はきっとやると信じます。私のリーダーシップが正しければの話ですけれど）

年の始めに　余り新しくないお話で恐縮です。でも私にとっては、初心忘れ得ずとは、とてもいかなかったこの一年でしたので、昭和53年のスタートにふさわしい寄りどころを以上の話のなかに求めたく存じます。

（1）

ボーイスカウト群馬県連盟広報のあゆみ
かわら版「あすなろ」No.６８ＮＪ特集　昭和57年11月発行
発行・編集　ボーイスカウト群馬県連盟広報委員会

昭和57年11月　No.6
ボーイスカウト群馬県連盟　発行

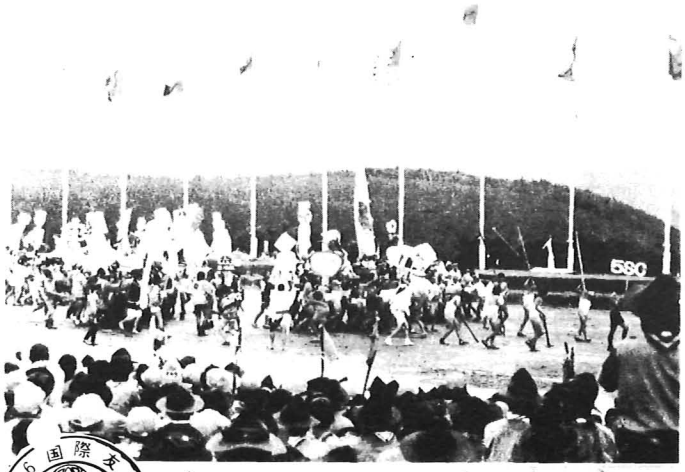
かわら版 あすなろ

8th NIPPON JAMBOREE
白 1982 石
MINAMI ZAO
日本連盟創立60周年
世界スカウトの年

第8回 日本ジャンボリー特集！

宮城県白石市の南蔵王山麓で開かれた、デッカイ大会。４年に１度のボーイスカウトの祭典第８回日本ジャンボリーは、８月２日より５日間にわたって「友情と躍進」をテーマに、全国47都道府県から選抜されたスカウト、指導者、それに外国派遣団、17ヶ国を含む約３万人が集い、群馬県からは８個隊、320名と奉仕要員45名のスカウト及び役員達が蔵王の大自然にチャレンジした。

大会のメーンエベント
ジャンボリー大集会



ジャンボリー会場に着いた群馬のスカウト

ボーイスカウト群馬県連盟広報のあゆみ
かわら版「あすなろ」第16号　昭和62年１月発行
発行・編集　ボーイスカウト群馬県連盟広報委員会

昭和62年１月　№16
ボーイスカウト群馬県連盟　発行

かわら版 あすなろ

全国各地から３万名が参加し、８月２日から５日間にわたってくり広げられた第９回日本ジャンボリー。南蔵王の山麓で得た数多くの経験・友情は、貴重な財産となって一人一人をさらに大きく育てていくことでしょう。

「自然と創造」

ボーイスカウト群馬県連盟広報のあゆみ
かわら版「あすなろ」第24号　平成元年11月発行
発行・編集　ボーイスカウト群馬県連盟広報委員会

平成元年11月　No.24
ボーイスカウト群馬県連盟　発行

かわら版 あすなろ

ボーイスカウト群馬県連盟
40周年記念式典厳粛かつ盛大裡に挙行

ボーイスカウト群馬県連盟が昭和24年11月6日に創立されてより40年を記念しての式典が、平成元年10月22日、群馬県青少年会館に団委員長、各団指導者代表、県連新旧役員、地区役員そして御来賓として、中島前文部大臣、高井県青少年課長、広瀬日連中央審議会議長の他、多くの方々の御出席をえて、厳粛なうちにも盛大裡に挙行された。

連盟長式辞（澁木副連盟長代読）に続き、根岸理事長から「この活動にも、いろいろな障害がないとは言えないが、それらを乗りこえ、この活動に輝かしい未来があることを信じ、今後も一層努力を重ね、歩み続けてゆく」との挨拶の後、御来賓より御祝辞を頂き、この活動に長年、挺身してこられた指導者に感謝状の贈呈があり、終りに、「花は薫るよ」を全員で声高らかに感激のうちに斉唱し、次の50周年への10年の道程(みちのり)へ力強い第一歩をふみ出した。

ボーイスカウト群馬県連盟広報のあゆみ

かわら版「あすなろ」第53号　平成11年７月発行

発行・編集　ボーイスカウト群馬県連盟広報委員会

ボーイスカウト群馬県連盟　発行
(財) 群馬県ボーイスカウト振興財団　発行

かわら版 あすなろ

第53号
平成11年７月

“弥栄”　スカウト顕彰

特集　平成11年度リーダーフォーラム「小寺連盟長特別講演」

（写真右より…後藤英行君、新井健弘君、小寺知事、河内友久君、今井俊輔君）

３月29日、群馬県庁知事室において隼スカウトに進級の４名は、連盟長の小寺知事よりお祝いと激励の言葉を受けました。出席した隼スカウトの後藤英行君（桐生第１団)、新井健弘君（桐生第17団)、河内友久君（桐生第17団)、今井俊輔君（前橋第７団）は、全員が緊張の中にも喜びあふれる雰囲気を味わい、スカウト活動の節目として貴重な経験をいたしました。

― 目　次 ―

	頁		頁
1．スカウト顕彰	1	7．スカウト活動	7～8
2．県連年次総会	2	8．進級状況	9
3．平成11年度 重点目標	3	9．研修会報告	9～11
4．県連役員　50周年記念事業について	4	10．地区ニュース	11～13
5．特集 リーダーフォーラム「小寺連盟長特別講演」	5	11．財団だより	14～15
6．委員会だより	6	12．県連だより	16

日本連盟表彰　(40周年記念誌以降)

たか章

平成2年	新藤信夫	桐生地区	平成8年	小寺弘之	県知事
平成3年	北条富司	太田地区	平成9年	金井英文	太田地区
平成4年	高橋和男	前橋地区	仝	中嶋正義	高崎地区
平成5年	周東正治	桐生地区	仝	星野忠男	前橋地区
平成6年	平方敏郎	桐生地区	平成10年	坪野茂	桐生地区
平成7年	郡司博	前橋地区	仝	堂前久雄	桐生地区

かっこう章

平成2年	山川巌	高崎地区	平成8年	吉井良弘	高崎地区
仝	小野里清治	前橋地区	仝	工藤郁二	高崎地区
平成3年	島田保彦	桐生地区	平成9年	茂原幸夫	高崎地区
仝	橋本力	太田地区	仝	小暮雅丈	太田地区
平成6年	重原進	前橋地区	平成10年	奈良橋俊宏	太田地区
仝	斎藤久雄	桐生地区	平成11年	小沼國幹	太田地区
平成7年	田部井保夫	太田地区	仝	津久井滋	桐生地区
仝	松崎栄一	桐生地区			

日本連盟感謝章

平成2年	橋本力	太田地区

日本連盟公共奉仕綬

平成5年	桐生第17団ボーイスカウト隊	平成7年	太田第4団カブスカウト隊
平成6年	桐生第5団ボーイスカウト隊	仝	大間々第1団ボーイスカウト隊

群馬県連盟表彰

県連盟特別有功章

平成4年	横山仁一	太田地区	平成8年	渡辺和子	太田地区
仝	宮野昌之	高崎地区	平成10年	長野雄二	桐生地区
平成5年	津久井義雄	太田地区	仝	大竹修二	桐生地区
仝	飯沼正	高崎地区	仝	町田幸男	桐生地区
平成7年	渋沢喜代春	太田地区	仝	森田賢一	高崎地区
仝	古川正山	太田地区	平成11年	石川昌男	太田地区
平成8年	小谷野富	太田地区	仝	内田忠幸	太田地区

県連盟感謝章

平成2年	高井求	県教委	平成5年	吉井良雄	高崎地区
仝	伊藤都幸	仝青少年課	平成8年	唐沢太市	前県教育長

県連有功章

平成2年	新島清民	太田地区	平成4年	杉戸恵司	桐生地区
〃	落合政夫	桐生地区	〃	加藤弘一	桐生地区
〃	小林規男	桐生地区	〃	荻原康夫	桐生地区
〃	花岡史子	高崎地区	〃	長京子	桐生地区
平成3年	竹内重四郎	太田地区	〃	米山重男	桐生地区
〃	塚越法男	太田地区	〃	石関和夫	桐生地区
〃	河田友和	太田地区	〃	平野隆志	前橋地区
〃	原義裕	太田地区	〃	江原一郎	前橋地区
〃	金子武男	桐生地区	〃	冨岡実	前橋地区
〃	高城明	桐生地区	平成5年	手塚和義	太田地区
〃	北川紘一郎	桐生地区	〃	清水英男	太田地区
〃	岩崎信一	桐生地区	〃	野口実	太田地区
〃	金子章	桐生地区	〃	高山孝	太田地区
〃	田子忠雄	高崎地区	〃	小笠原和彦	太田地区
〃	加島正明	高崎地区	〃	諏訪勝太郎	太田地区
平成4年	竹沢哲	太田地区	〃	荒井鞆保	太田地区
〃	岡田英子	太田地区	〃	内山政治	高崎地区
〃	清水清治	太田地区	〃	青木勝	高崎地区
〃	沖田俊道	太田地区	〃	加藤敬弘	高崎地区

平成６年	高橋道彦	太田地区	平成８年	鈴木国男	桐生地区
〃	大畠清	太田地区	〃	丸山聖人	前橋地区
〃	今枝彰	太田地区	〃	青木武夫	高崎地区
〃	川西康裕	太田地区	平成９年	石川治男	太田地区
〃	山田宏	太田地区	〃	戸辺和利	太田地区
〃	山岡仁	桐生地区	〃	石関美千代	前橋地区
〃	斎藤隆次	桐生地区	〃	桜井勉	高崎地区
〃	富沢輝夫	桐生地区	〃	小根澤敏雄	高崎地区
〃	関谷茂兵衛	桐生地区	〃	川山豪彦	高崎地区
〃	杉山友幸	桐生地区	〃	深沢光男	高崎地区
〃	田村忠之	桐生地区	〃	野中光好	高崎地区
〃	内藤清	高崎地区	平成10年	河内正美	桐生地区
平成７年	木村悦之	太田地区	〃	石井博	前橋地区
〃	佐口通治	太田地区	〃	須田寛	前橋地区
〃	清水広子	太田地区	〃	林高行	高崎地区
〃	上西正久	太田地区	平成11年	小林良夫	太田地区
〃	小野寺保	太田地区	〃	中村利光	太田地区
〃	下山関雄	桐生地区	〃	浜道久	太田地区
〃	石川裕樹	桐生地区	〃	村山勝栄	太田地区
〃	中山栄一	桐生地区	〃	伊藤辰夫	太田地区
〃	関口保	桐生地区	〃	五十木忠男	桐生地区
〃	福島貞則	桐生地区	〃	大隅勝己	桐生地区
〃	小林信行	桐生地区	〃	後閑茂一郎	桐生地区
〃	堀口久美子	前橋地区	〃	小倉豊人	前橋地区
平成８年	稲垣タカ子	太田地区	〃	原和夫	前橋地区
〃	深沢長平	太田地区	〃	中野敏彦	前橋地区
〃	小林礼子	太田地区	〃	金井秀人	前橋地区
〃	大西勇一	太田地区	〃	国時武	高崎地区
〃	高桑幸望	太田地区	〃	㈱小暮紀幸	前橋地区
〃	茂木完勇	太田地区			

県連盟善行綬

平成２年	高崎第７団カブスカウト隊	平成４年	太田第５団カブスカウト隊
平成３年	太田第４団カブスカウト隊	平成６年	桐生第14団カブスカウト隊
〃	桐生第５団ボーイスカウト隊	〃	大間々第１団ボーイスカウト隊

県連盟善行章

平成５年	前田洋樹	高崎第17団ＳＳ

歴代県連盟役員

職　年	2.4～3.3	3.4～4.3	4.4～5.3	5.4～6.3	6.4～7.3
連盟長	清水一郎	清水一郎	小寺弘之	小寺弘之	小寺弘之
副連盟長	渋木羨夫	渋木羨夫	渋木羨夫 根岸　努	渋木羨夫 根岸　努	渋木羨夫 根岸　努
理事長	根岸　努	根岸　努	新藤信夫	新藤信夫	新藤信夫
副理事長	新藤信夫 金井英文	新藤信夫 金井英文	金井英文 竹田賢一	金井英文 竹田賢一	金井英文 竹田賢一
事務局長	竹田賢一	竹田賢一	郡司　博	郡司　博	郡司　博
理　事	稲垣　稔 内田忠幸 杉山安正 松崎栄一 島田保彦 松井　隆 津久井　滋 今井健介 高橋和男 山川　巌 中嶋正義 宮野昌之 茂原幸夫 郡司　博 竹田賢一	稲垣　稔 内田忠幸 杉山安正 松崎栄一 島田保彦 松井　隆 津久井　滋 今井健介 高橋和男 山川　巌 中嶋正義 宮野昌之 茂原幸夫 郡司　博 竹田賢一	稲垣　稔 内田忠幸 新井章信 小暮雅丈 松崎栄一 島田保彦 松井　隆 津久井　滋 今井健介 磯部直正 吉井良弘 中嶋正義 森田賢一 茂原幸夫 加藤敬弘 郡司　博	稲垣　稔 内田忠幸 新井章信 小暮雅丈 松崎栄一 島田保彦 松井　隆 津久井　滋 今井健介 磯部直正 吉井良弘 中嶋正義 森田賢一 茂原幸夫 加藤敬弘 郡司　博	稲垣　稔 内田忠幸 新井章信 小暮雅丈 松井　隆 江原　毅 高橋英雄 津久井　滋 今井健介 磯部直正 吉井良弘 中嶋正義 森田賢一 茂原幸夫 加藤敬弘 郡司　博
名誉会議員	清水清治 森山照夫 星野忠夫 金井佐伝	清水清治 森山照夫 星野忠夫 金井佐伝	清水清治 森山照夫 星野忠夫 金井佐伝	清水清治 森山照夫 星野忠夫 金井佐伝	清水清治 星野忠夫 島田保彦 金井佐伝
監　事	斎藤久雄 原藤吉郎	斎藤久雄 原藤吉郎	斎藤久雄 高橋和男	斎藤久雄 高橋和男	高橋和男 松崎栄一
県コミ	周東正治	周東正治	重原　進	重原　進	重原　進
県副コミ	田部井保夫 重原　進 森田恒夫	田部井保夫 重原　進 森田恒夫	田部井保夫 小沼國幹	田部井保夫 小沼國幹	田部井保夫 小沼國幹 工藤郁二

職　年	7.4～8.3	8.4～9.3	9.4～10.3	10.4～11.3	11.4～
連盟長	小寺弘之	小寺弘之	小寺弘之	小寺弘之	小寺弘之
副連盟長	渋木羨夫 根岸　努	渋木羨夫 根岸　努	渋木羨夫 根岸　努	渋木羨夫 根岸　努	渋木羨夫 根岸　努
理事長	新藤信夫	新藤信夫	新藤信夫	新藤信夫	新藤信夫
副理事長	金井英文 竹田賢一	金井英文 稲垣　稔	金井英文 稲垣　稔	金井英文 稲垣　稔 今井健介	金井英文 稲垣　稔 今井健介
事務局長	津久井　滋	津久井　滋	津久井　滋	津久井　滋	津久井　滋
理　事	稲垣　稔 内田忠幸 新井章信 小暮雅丈 田部井保夫 松井　隆 江原　毅 高橋英雄 井上藤男 今井健介 磯部直正 小野里清治 吉井良弘 中嶋正義 森田賢一 茂原幸夫 加藤敬弘 津久井　滋	新井章信 小暮雅丈 田部井保夫 奈良橋俊宏 松井　隆 江原　毅 高橋英雄 井上藤男 加藤弘一 今井健介 磯部直正 小野里清治 吉井良弘 中嶋正義 森田賢一 茂原幸夫 加藤敬弘 津久井　滋	新井章信 小暮雅丈 田部井保夫 奈良橋俊宏 松井　隆 江原　毅 井上藤男 河内正美 今井健介 磯部直正 小野里清治 吉井良弘 中嶋正義 小根澤敏雄 茂原幸夫 谷口喜久雄 津久井　滋	新井章信 小暮雅丈 田部井保夫 野口　實 松井　隆 江原　毅 河内正美 彦部雪夫 吉田節子 小野里清治 平野隆志 中嶋正義 小根澤敏雄 茂原幸夫 谷口喜久雄 川山豪彦 津久井　滋	新井章信 小暮雅丈 田部井保夫 野口　實 松井　隆 江原　毅 河内正美 彦部雪夫 吉田節子 小野里清治 平野隆志 中嶋正義 小根澤敏雄 茂原幸夫 田子忠雄 川山豪彦 津久井　滋
名誉会議員	清水清治 星野忠夫 島田保彦 金井佐伝	津久井義雄 星野忠夫 島田保彦 金井佐伝	津久井義雄 星野忠夫 島田保彦 金井佐伝	高山　孝 星野忠夫 島田保彦 金井佐伝	高山　孝 星野忠夫 島田保彦 金井佐伝
監　事	高橋和男 松崎栄一	高橋和男 松崎栄一	高橋和男 松崎栄一	高橋和男 松崎栄一	高橋和男 松崎栄一
県コミ	重原　進	重原　進	重原　進	小沼國幹	小沼國幹
県副コミ	小沼國幹 工藤郁二	小沼國幹 工藤郁二 江原一郎	小沼國幹 工藤郁二 江原一郎	工藤郁二 江原一郎	工藤郁二 江原一郎

財団法人　群馬県ボーイスカウト振興財団

理　　事　　1999～2000年度

役　務	氏　名	役　務	氏　名	役　務	氏　名
理事長	福田　實	理　事	金井英文	〃	山川　巌
副理事長	根岸　努	〃	稲垣　稔	〃	平方敏郎
	竹田賢一	〃	今井健介	〃	堂前久雄
	新藤信夫	〃	江原　毅	監　事	松崎栄一
常務理事	津久井　滋	〃	橋本　力	〃	金井佐伝
理　事	桜井玉壽	〃	小野里清治		

評　議　員　　1999年度

周東　正治	田部井保夫	高橋　和男	田子　忠雄	江原　一郎	吉田　節子
星野　忠夫	小暮　雅丈	中嶋　正義	小沼　國幹	野口　實	平野　隆志
重原　進	松井　隆	茂原　幸夫	工藤　郁二	彦部　雪夫	川山　豪彦
新井　章信	河内　正美	小根澤敏雄			

ボーイスカウト群馬県連盟名誉役員　　1999年

役　務	氏　名	役　務	氏　名	役　務	氏　名
顧　問	中曽根康弘	相談役	郡司　博	〃	堂前久雄
〃	神田坤六	〃	竹田賢一	〃	横山仁一
相談役	佐藤春重	〃	重原　進	〃	古川正山
〃	桜井玉壽	参　与	上山　明	〃	山川　巌
〃	福田　實	〃	岩田正男	〃	森山照夫
〃	周東正治	〃	坪野　茂	〃	斎藤久雄
〃	小内安蔵	〃	須永弁次	〃	清水清治
〃	北条富司	〃	高橋亜夫	〃	内田忠幸
〃	村沢信夫	〃	新井三知夫	〃	吉井良弘
〃	小井戸哲夫	〃	平方敏郎	〃	森田賢一

県連トレーニングチーム　　1999年度

☆田部井保夫	小沼國幹	平野隆志	丸山聖人	国時　武
○江原一郎	大川由明	花岡史子	中野敏彦	工藤郁二
○河田友和	高橋英雄	吉田　稔	今井健介	原　和夫
青山幸弘	田村忠之	堀口久美子	小松俊一	碓井健文
戸辺和利	吉田節子	小野里清治	南波正夫	内田八千代
木村早苗	須田一成			

☆印　ディレクター　　○印　サブディレクター

地区コミッショナー　　1999年度

太田地区	☆奈良橋俊宏	小笠原和彦	沖田　俊道	大川　由明	木村　早苗	堤　順一	堀本千枝子
桐生地区	☆須田　一成	久保田順一	青柳　明美	川合　誠司	横塚　明久	関口　雄三	
前橋地区	☆小松　俊一	吉田　稔	石関美千代	原　和夫	中沢　範一		
高崎地区	☆内藤　清	工藤　弘子	青木　武夫	国時　武	吉井　宏文	江原　宏樹	

☆印　地区コミッショナー　　他は、地区副コミッショナー

地 区 協 議 会

地区名	協議会長	地区委員長	コミッショナー	事務長
太田地区	田部井保夫	小暮雅丈	奈良橋俊宏	木村悦之
桐生地区	松崎栄一	松井　隆	須田一成	井上藤男
前橋地区	小野里清治	平野隆志	小松俊一	竹　伸夫
高崎地区	山川　巌	茂原幸夫	内藤　清	小根澤敏雄

指導者養成記録

1．指導者講習会修了者

年　　度（平成）	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年
合　　計	286	70	65	91	91	81	101	103	102	142

2．デンマザー・デンダット研修会

年　　度（平成）	元年
合　　計	97

3．ビーバー隊長特修所

年　　度（平成）	元年
ビーバー特集所群馬第2期	21

4．ウッドバッジ研修所

年　　度（平成）	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年
ビーバー課程		12	19	17	15	20	21	24	8	11
カブ課程	31	15	19	18	15	28	24	23	13	24
ボーイ課程	26	33	21	29	16	14	20		14	27
シニアー課程		12	24		12			2		

5．団運営研修所

年　　度（平成）	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年
合　　計		団特 8	15	9		13			関東1 27	4

6．ウッドバッジ実修所

年　　度（平成）	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年
ビーバー課程										1
カブ課程					1		2		2	
ボーイ課程					3		5	4	2	5
シニアー課程						1	1	1		1
副リーダートレーナー					2				3	1
リーダートレーナー	1				1	1		2		
コミッショナー研修所							3	1	4	
コミッショナー実修所						2	3	2	2	1

平成11年度重点目標

1949年（昭和24年）戦争の爪痕が癒えていない物資欠乏の時代、ボーイスカウト群馬県連盟は、郷土復興の使命感に燃えた11ケ隊297名のスカウト・指導者により結成された。

以来県内各地で、幾多の先輩たちが「スカウトの火を絶やすな」を合い言葉に、スカウティングが守られ、育まれてきた。しかし21世紀を目前に控え、家庭や地域社会など青少年を取り巻く社会環境の変化と、物の豊かさや便利さに反し、いつしか心の豊かさが失われ誠に憂慮すべき状況であり、国際化・情報化・少子化等内外ともに課題が山積みしており、今まさに変革の時期にあると言えよう。

今年、本連盟は創立50周年を迎え、記念事業を展開してまいります。ただ単に年輪を重ねることのみがこの運動の趣旨でなく、常に次代を担う青少年が、激しい社会の変化に対応し、健全な身体と、社会に奉仕できる能力を身に付けるよう励まし、導くことが我々の任務である。

50周年を21世紀の出発点として指導者各位が自己啓発し、質の高いプログラムを提供して、楽しいスカウティングによりスカウト人口の減少に歯止めをかけ、地域社会と密接に連携を保ちながら飛躍すべく、本年度の重点目標を定め、組織を挙げてこの達成に努める。

＜スローガン＞

GOGO

県連盟「５５作戦」開始

創立55周年にスカウト５千人をめざそう

平成11年度目標「各団 中途退団０ スカウト増強＋５運動の展開」

１．人に役立つ魅力ある青少年の育成

◦スカウトから慕われ、地域社会から信頼される指導者の養成。

◦中途退団者をなくす運動の展開と団組織の拡充並びに重点地域の新団開拓。

２．創立50周年記念事業の展開

◦50周年の記念行事を通してスカウト運動の更なる発展に努める。

◦群馬県ベンチャースカウト大会を成功させよう。

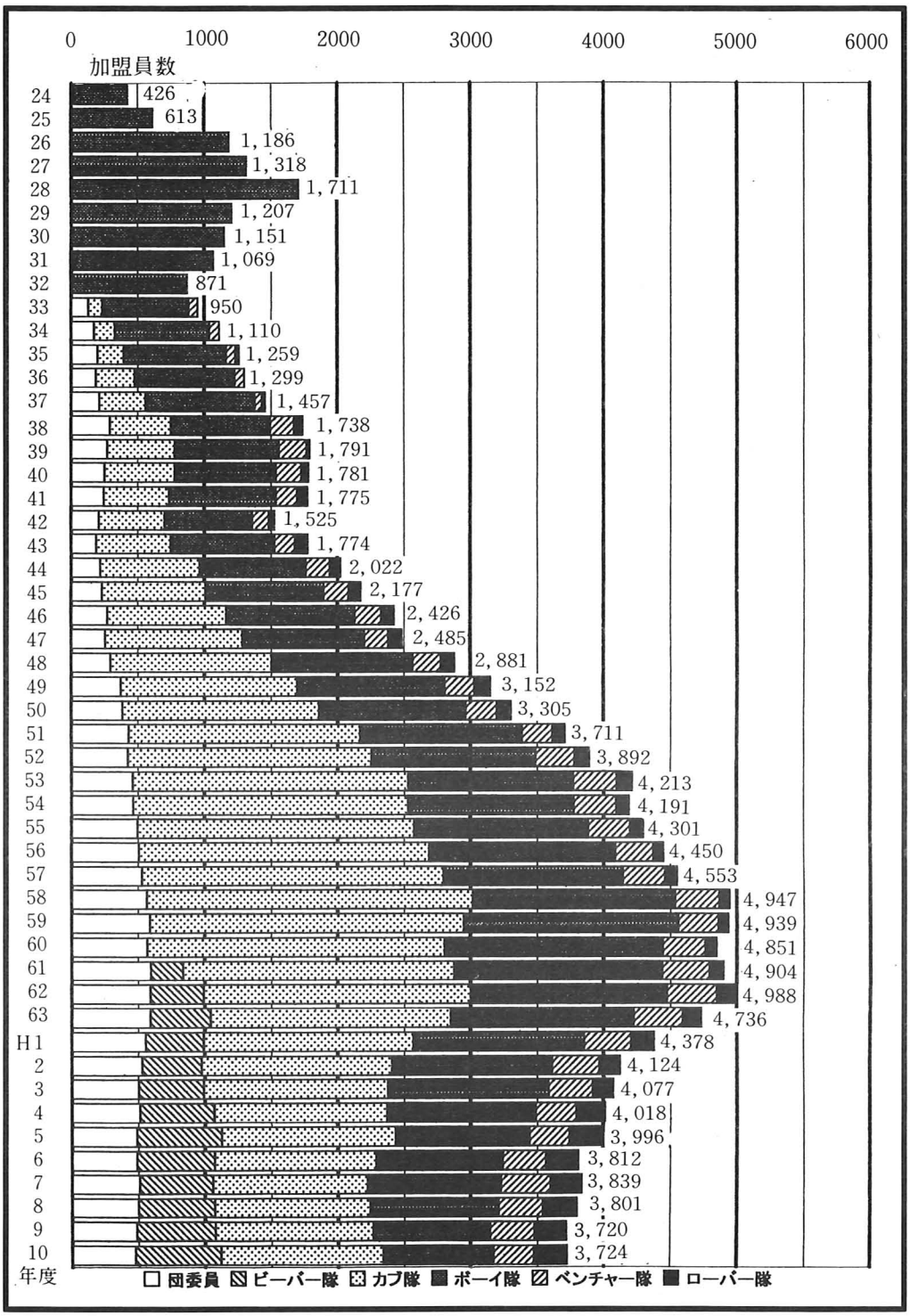
３．21世紀にむけてスカウト運動の飛躍

◦組織・プログラム・指導者養成・スカウトの資質向上など、県連盟の将来のありたい姿を考えたい。

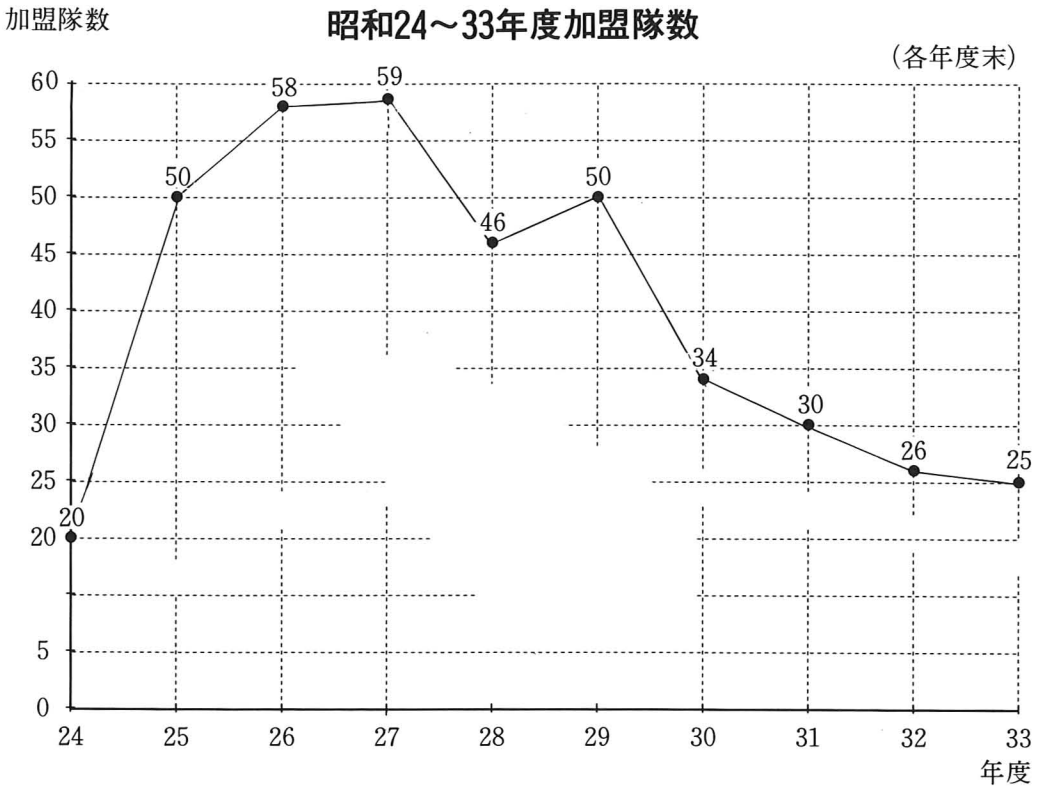
群馬県連盟　加盟員の推移

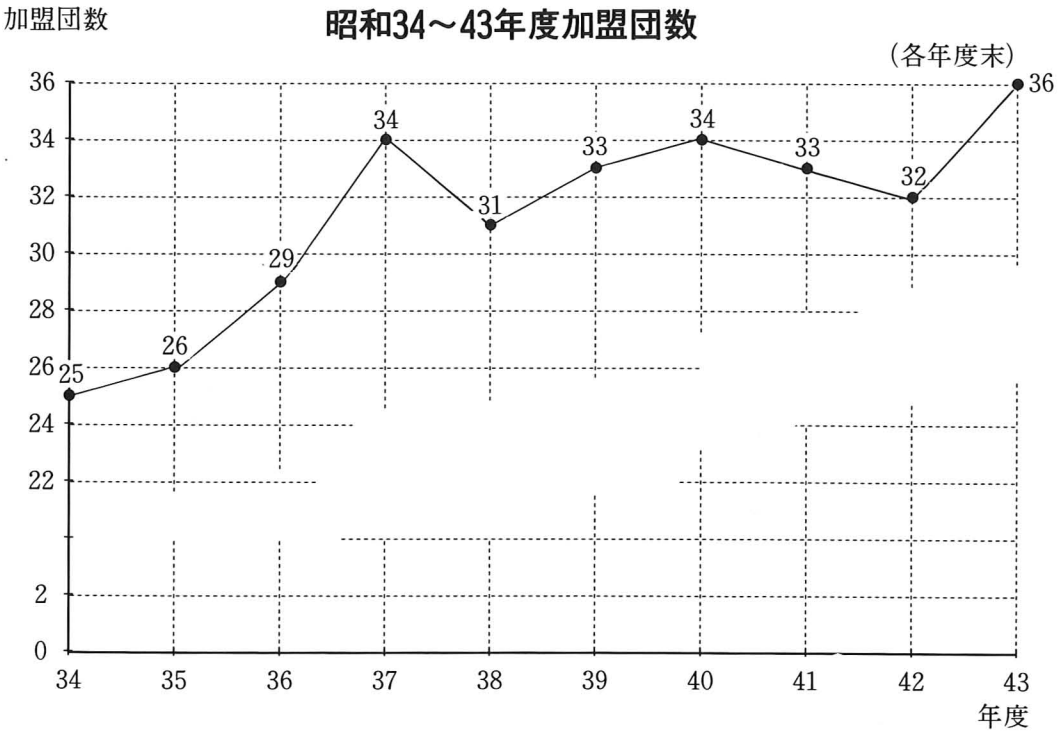
ボーイスカウト活動の原点として、スカウト数の増減は深刻な問題として存在している。40周年以降の10年間は出生率の低下に伴い減少の一途を辿ってきた。50周年を機に加盟員の増加を「中期計画」や「21世紀委員会」の対応策で乗り切るため、実情を調査した。

〔創立時から50周年時まで〕　　各年度末

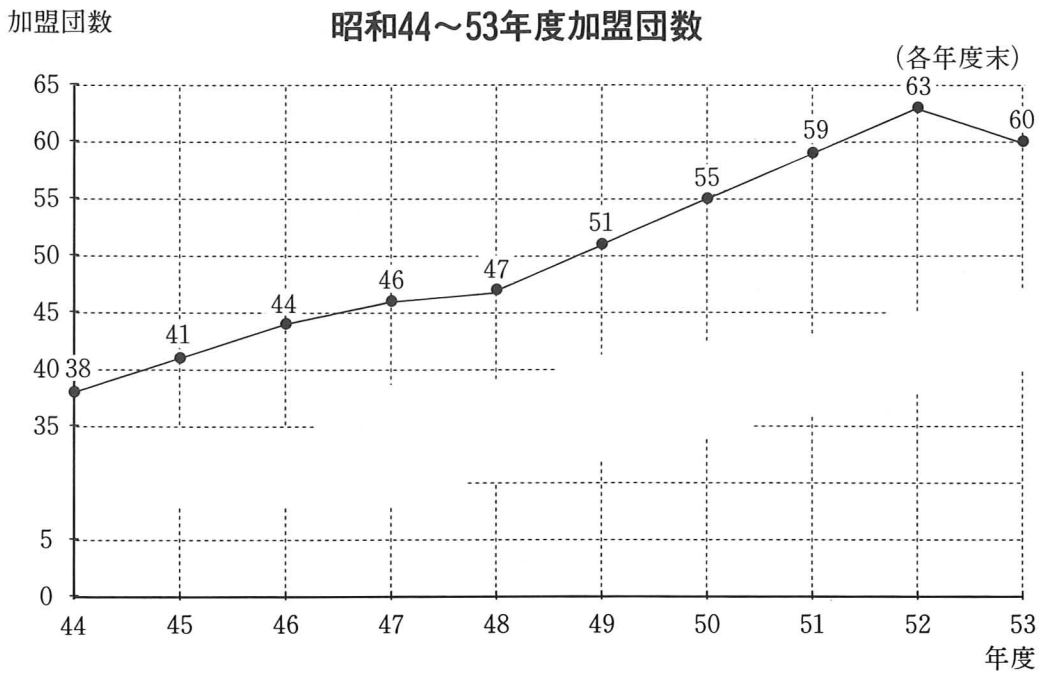


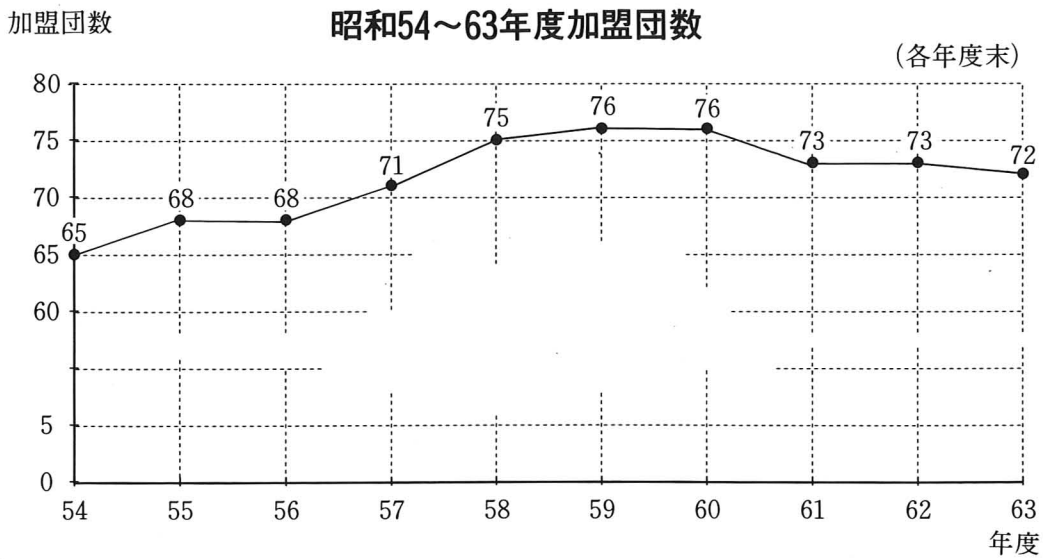
加盟団・隊数の推移（各年度末）



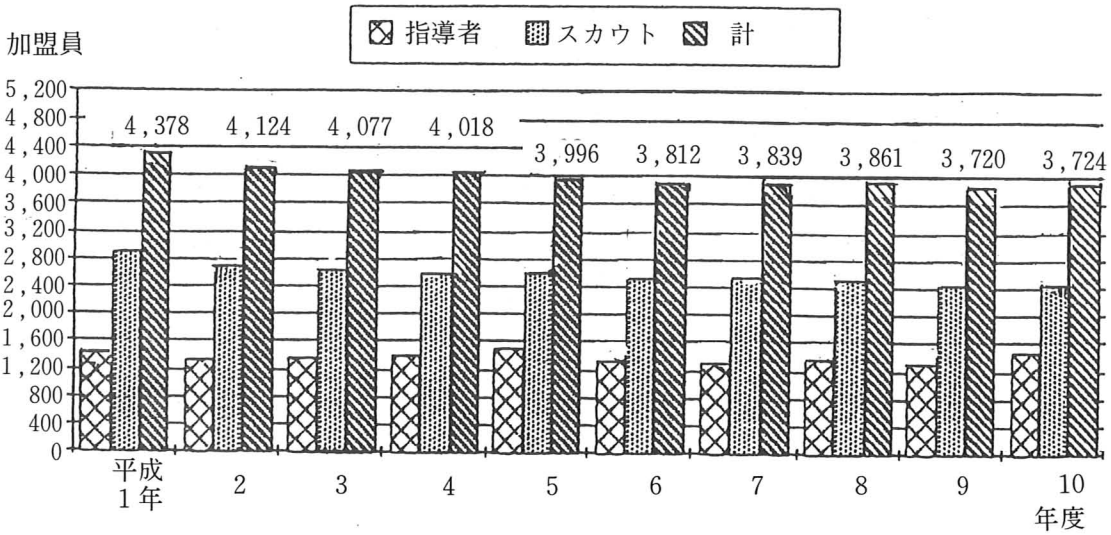


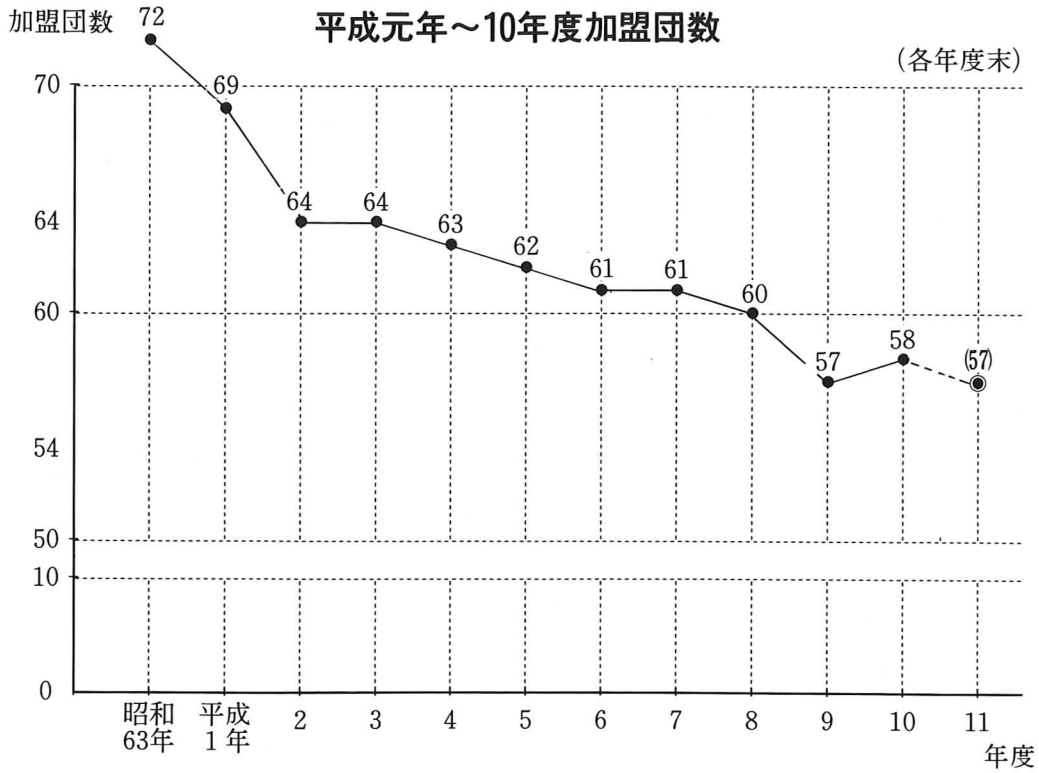
加盟団・隊数の推移（各年度末）





平成元年～10年度加盟員数（各年度末）





平成11年度　加盟登録団連絡先

地名	団	団委員長名	〒	通信連絡先	電話
太田	2	橋本　力	373-0057	太田市本町15-11（金井英文方）	0276－22－6311
	3	石川昌男	373-0041	〃　別所町551（小谷野　富方）	0276－32－0843
	4	石川治男	373-0852	〃　新井町289-1	0276－45－8725
	5	横山仁一	373-0026	〃　東本町46-29（稲垣　稔方）	0276－22－2024
	6	佐口通治	373-0052	〃　石橋町47（戸辺和利方）	0276－37－0129
	7	内田忠幸	373-0808	〃　石原町396-9（清水英男方）	0276－46－2409
	8	久保田忠良	373-0013	〃　市場130-2（福島君江方）	0284－72－1363
	10	田部井保夫	373-0801	〃　台之郷町892-4（小沼國幹方）	0276－45－1801
	77	内田忠幸	373-0808	〃　石原町396-9（清水英男方）	0276－46－2409
館林	1	古川正山	374-0027	館林市富士見町2-1-402（相川精一方）	0276－74－9477
	2	丸山秀三	374-0029	〃　仲町3-35	0276－75－5525
	3	大西勇一	374-0051	〃　成島671（沖田俊道方）	0276－73－1820
大泉	2	波多野　健	370-0523	邑楽郡大泉町吉田2466-71	0276－62－2858
	3	山田　宏	370-0525	邑楽郡大泉町日の出27-12	0276－62－2945
	4	高山　孝	370-0534	〃　〃　丘山6-7	0276－62－6521
	5	高桑幸望	370-0521	〃　〃　住吉2-3（上西正久方）	0276－62－5287
邑楽町	1	村山勝栄	370-0604	邑楽郡邑楽町石打1086-1（原　義裕方）	0276－88－5092
明和	1	落合明祐	370-0703	明和町下江黒164（柴崎一夫方）	0276－72－0387
桐生	1	小堀　順	376-0001	桐生市菱町2-1730	0277－46－1282
	2	小林規男	376-0002	〃　境野町3-1316-16	0277－43－3983
	3	高城　明	376-0011	〃　相生町5-36-19	0277－52－7946
	5	栗原幸弘	376-0043	〃　小曽根町1-6	0277－22－0806
	6	相川　明	379-2202	佐波郡赤堀町鹿島994-1	0270－63－0216
	8	彦部雪夫	376-0011	桐生市相生町2-931-1 団地126号	0277－53－8425
	9	金沢孝吉	376-0013	〃　広沢町2-3094-21	0277－52－1833
	10	上山　明	376-0013	〃　広沢町1-2681㈱ミツバ	0277－53－3372
	12	五十木忠男	379-2313	新田郡笠懸町大字鹿4152	0277－76－5380
	13	五嶌　實	379-2301	新田郡藪塚本町藪塚2367-5	0277－78－6811
	14	田村忠之	376-0056	桐生市宮本町1-9-15	0277－46－1557
	16	岩野和正	376-0053	〃　東久方町2-6-6	0277－44－8420

地　名	団	団委員長名	〒	通信連絡先	電　話
桐　生	17	八木　健	376-0013	桐生市広沢町3-4295-4	0277－53－8167
	20	津久井　滋	376-0011	〃　相生町1-375-6	0277－52－1532
	50	岸和田　豊	376-0042	〃　堤町2-7-7	0277－22－8779
大間々	1	藍原弘之	376-0101	山田郡大間々町大間々1400	0277－73－5534
藪　塚	1	高橋新一	379-2304	新田郡藪塚本町大原638-20	0277－78－2823
伊勢崎	12	後閑茂一郎	372-0012	伊勢崎市豊城町2347	0270－24－5993
前　橋	1	磯部直正	371-0814	前橋市六供町218	027－221－6513
	3	関口修一	371-0811	〃　朝倉町2-12-RE303(江原一郎方)	027－263－4550
	5	小野里清治	371-0054	〃　下細井町607-4	027－233－9507
	7	北澤由紀夫	371-0027	〃　平和町2-2-5	027－233－6582
	12	関口　茂	379-2122	〃　駒形町593-4	027－266－2603
	15	石倉英夫	371-0013	〃　西片貝町3-180	027－224－7850
渋　川	2	狩野文二	379-2123	前橋市山王町1-34-23（富岡　実方）	027－266－5987
大　胡	1	剣持平三郎	371-0022	前橋市千代田町1-14-6（南波正夫方）	027－231－4138
高　崎	7	金井佐伝	370-0042	高崎市貝沢町125-4（周藤辰雄方）	027－363－3328
	8	清水賢次	370-0071	〃　小八木町1809（内藤　清方）	027－361－7856
	12	山中正喜	370-0855	〃　下佐野町892-7	027－346－6364
	15	飯沼　正	370-0875	〃　藤塚町410	027－323－3712
	17	吉井良弘	370-0026	〃　下滝町19 慈眼寺内	027－352－8365
	18	山川　巌	370-0043	〃　高関町138	027－322－4995
	19	長谷川秀男	370-3335	榛名町上大島1120（富田政男方）	0273－43－0839
	21	石田哲博	370-0071	高崎市小八木町1466	027－316－8960
	22	飯塚敏一	370-0837	〃　下横町13-1（工藤郁二方）	027－325－8806
箕　郷	1	南波柳治	370-3111	箕郷町中野292（救世真教内）	0273－71－3639
群馬町	1	田渕契之助	370-3521	群馬郡群馬町棟高722	0273－73－3054
吉　井	1	富田　滋	370-2124	多野郡吉井町塩102（橋爪武士方）	0273－87－3945
玉村町	1	関口利美	370-1103	佐波郡玉村町樋越850	0270－64－5782
榛　名	1	富田政男	370-3335	群馬郡榛名町上大島1120	0273－43－0839
松井田	1	小崎芳男	379-0221	碓氷郡松井田町新堀2-2（安藤由紀子方）	027－393－0128

編集後記

平成10年１月「群馬県連盟50周年準備委員会」が開催され、記念誌の発行が決まり、“平成11年10月31日の記念式典当日に記念誌を発行・配布する”ことが決定になりました。

その後担当委員会が発足し、“記念誌委員会”は、委員長に私が、副委員長は桐生地区の「井上藤男」さん、県連三役から全般の統括として「金井副理事長」が参加。更に、広報委員長の「河内正美」さんにも副委員長をお願いし現役の広報委員を中心に、各地区代表の委員を加えた総員11名体制でスタートをしました。

第４回の準備委員会（平成10年５月）に記念誌の発行企画（案）を提示し、基本事項・編集方針・発行までの日程計画が承認され、平成10年６月に第一回の記念誌委員会を開催、以降１回／月のペースで実施し平成11年８月末までに11回を数えました。

今回一番苦労した点は、ボーイスカウト運動の胎動期の記録で、調査をどの様にしたらよいか思案した結果、当時の様子を知っている　県相談役「北条富司氏」に金井副理事長より執筆をお願いし、まとめていただきました。

我々には知らない創立時の苦労が偲ばれ、大変貴重な記録となりました。北条氏には、紙上をかりて編集委員を代表してお礼を申し上げます。

編集会議は、担当分野の具体化が進むにつれて、各々の思いと方法論が白熱して時間の経過を忘れる程の時もあり、各委員の情熱と行動は素晴らしく、予定した総合編集会議には、約90％の原稿が集まり予想を越えた成果でしたが、残り10％は生みの苦しみで、催促の電話やFAX校正で皆さんに大変なご迷惑をかけました。特に、編集の大変さは印刷の過程で、金井さんに夜を徹しての校正、追加のご苦労をしていただきました。あらためてお礼を申し上げます。

さて、この度の記念誌にあたり私達は大きな財産を戴きました。一つは「記録の保存と重要性」です。二つは編集過程を通じて「仲間の連帯感と絆」です。通常の活動とは違った仲間意識が生まれました。記念誌の一頁・一頁に私達の思いが入っています。50周年の回顧と未来への夢を託す本誌であれば…と思う次第です。

50周年記念誌編集委員会　委員長　新井　章信

編集委員

副委員長	井上　藤男
〃	河内　正美
委員	
金井　英文	小沼　國幹
上西　正久	小堀　　順
平野　隆志	丸山　省二
山中　正喜	清水　賢次

群馬県連盟50年のあゆみ

平成11年10月20日印刷
発行　平成11年10月31日発行
発行者　ボーイスカウト群馬県連盟
理事長　新藤信夫
前橋市荒牧町2番地12
默群馬県青少年会館内
編集　50周年記念誌編集委員会
委員長　新井章信
印刷所　かない印刷

そなえよつねに